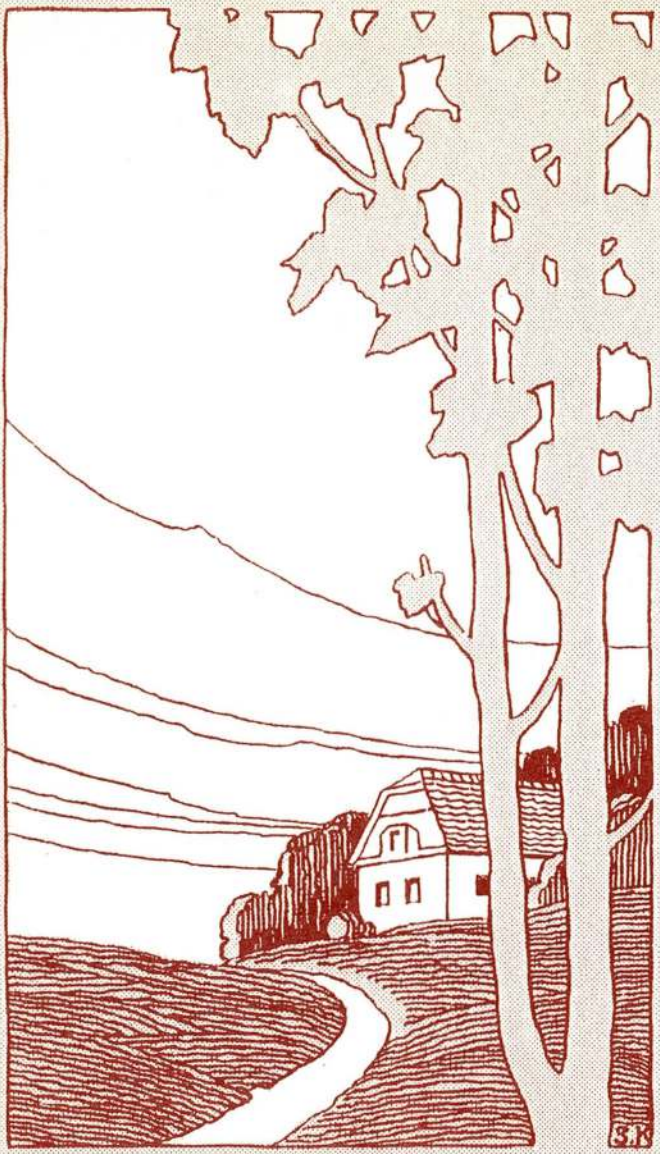
建築ト社會



大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）
大正九年七月一日印刷　七月一日發行

第三輯
第七號

大正九年　七月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ノ入會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ貫徹シ專ラ之ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ決決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ決決ス

第七條　會員ハ會則ヲ遵守シ本會ノ目的ヲ貫徹スル義務ヲ有ス

會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ役員及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ノ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳ケ年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ顧問ヲ置ク

一　主　記　一　名

二　主　計　一　名

三　編　輯　三　名

四　編　輯　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ國委研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選ス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經タル當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會長ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、講話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認メルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ勝告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ總行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル親睦

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　理想的建築ノ計畫

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ノ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ擔出ス

但例會ニ出席シ難キ地方在住ノ會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ永續ヲ得タル者ハ一時金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金六圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ管理ス

第二十二條　本會ノ財產價額債務及毎月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產價額債務及毎年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

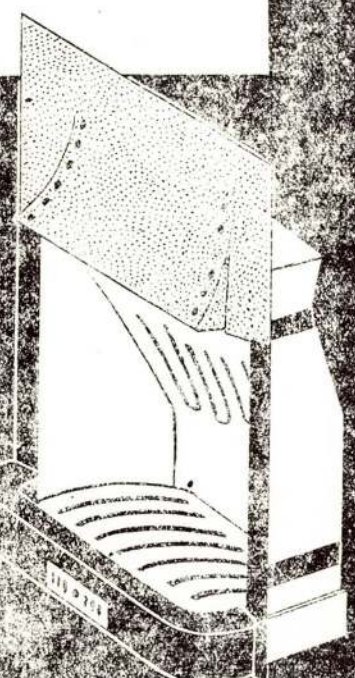
第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

建具金物と塗込暖爐

ストーブと
建具金物は
堀商店の最も
得意とする處
御安心の上御
申聞被下度候

型錄贈呈
一塗込暖爐と附屬品
一錠前と金物
一家具の金物



歐風建築金物商
堀金物店
東京

『建築と社會』第參輯第七號

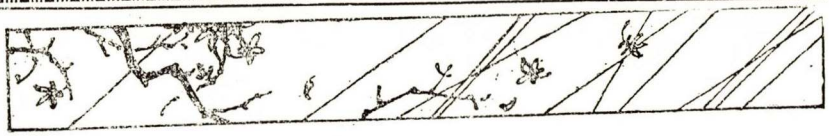
目次

口繪（岡崎藤吉氏本邸（三色版）／同平面圖（寫眞版自一至三）／懸賞改良住宅設計案第三等第一席當選（寫眞版自四至八））

〔卷頭〕
□都市の美化　人は環境の産物なり　都市民の環境的教育 …… 一

〔論說〕
□財界の混亂と都市建築 …… 會員　片岡安 …… 二
□現代方便生活と社會問題（下） …… 京都帝國大學法科大學教授　戸田海市 …… 七
□都市計畫と河川の改修及運河の開鑿 …… 建築學會正員　横濱勉 …… 一五
　—歐米に於ける水運の發達と運河の改造—
□都市計畫と電氣軌道 …… 大阪市電氣部技師長　清水澄 …… 二〇
□文明に超越せる日本建築物 …… 農商務省技師　望月常 …… 二五
□道路の整理と路面の改修 …… 大阪土木建築業組合常任評議員　山本辰五郎 …… 三二
□都市社會問題としての解放問題 …… 江村郊邨 …… 三六
□かき葉（其の一） …… 四七

〔研究〕
□最近避雷針の進歩（二） …… 京都帝國大學工科大學教授　青柳榮司 …… 四八
□米國建築視察談（三） …… 會員　光安梶之助 …… 五一



〔住　宅〕
□居構百選（其六）　會　員　葛野壯一郎　五九
□新聞記者の見たる名士の邸宅(5)　讀賣新聞記者　梅谷孫吾　六四
〔庭　園〕
□日本庭園考（四）　特別賛助員農學士　大屋靈城　七〇
□かき葉（其の二）　七六
〔都　市〕
□將來の市加古市(2)　ウオルター・デイ・ムウデイ著　ZY生譯　七七
〔談　叢〕
□婦人の仕事が簡單に行かないものでよしうか　醫學博士柳瀨實次郎氏夫人　柳瀨光子談　八五
〔資　料〕
□大阪市都市計畫參考資料（其四）
〔漫　錄〕
□太平洋を横ぎりて　會　員　波江悌夫　八七
〔藻　苑〕
□建築と俳句　芦田秋双選　九二
□俳句　芦田秋双選　九五
□時報　九七
□會報　一〇一

附　錄
□ブルュクセル市建築規則（中）　十頁

大阪煖房商會
大阪電氣商會

營業課目

房暖氣電。燥乾。生衛。風通。房暖

負請計設事工

賣販作製トフリ及機降昇

賣販料材械機諸氣電
負請督監及計設事工氣電
賣販托委品所作製燈電阪大

工事代理
社會式株燈電阪大
社會式株氣電川治宇
社會式株氣電本日名
社會式株氣電屋古名

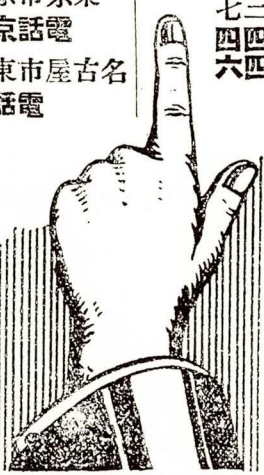
本店

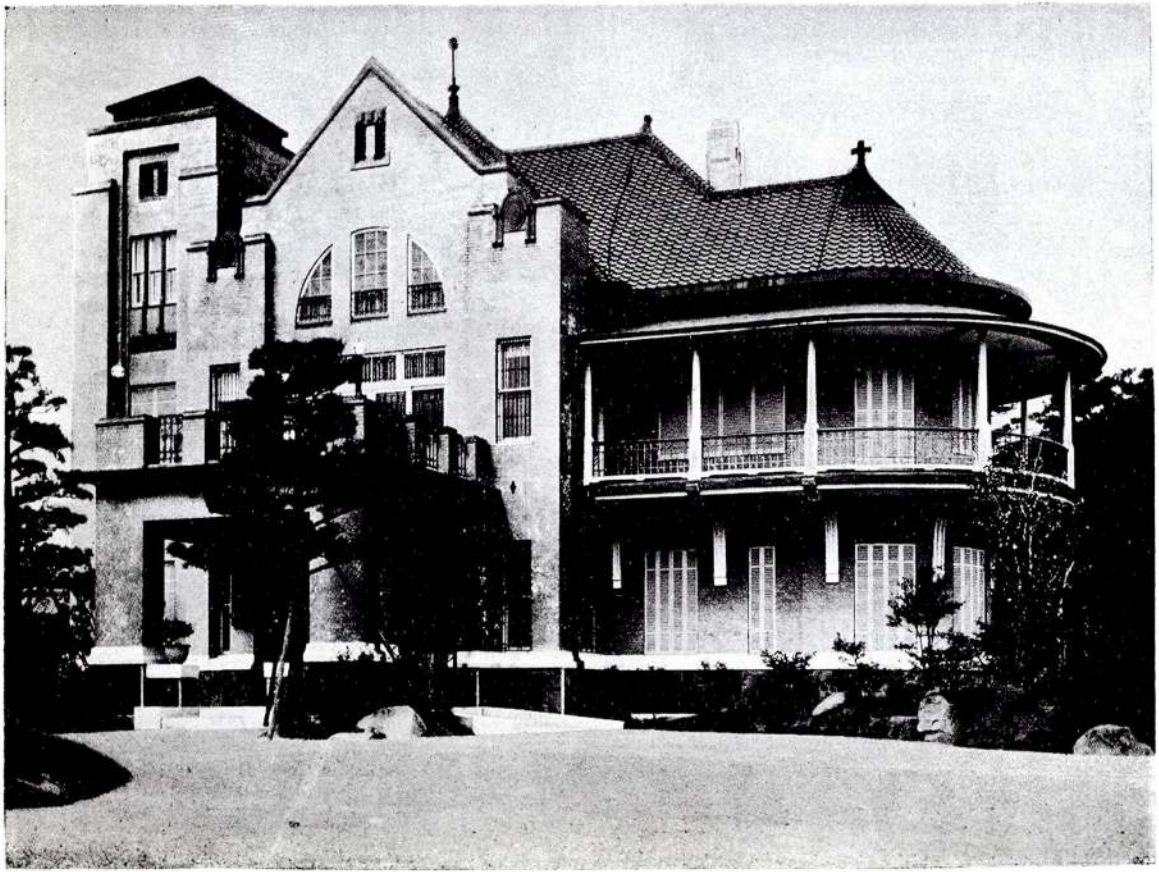
大阪市西區江戸堀
南通一丁目七三
電話 長堀 四五四一 土佐 四四六

出張所

東京市京橋區西紺屋町五
電話 京橋 三二〇六

名古屋市東區東本町二丁目
電話 長 三二六二

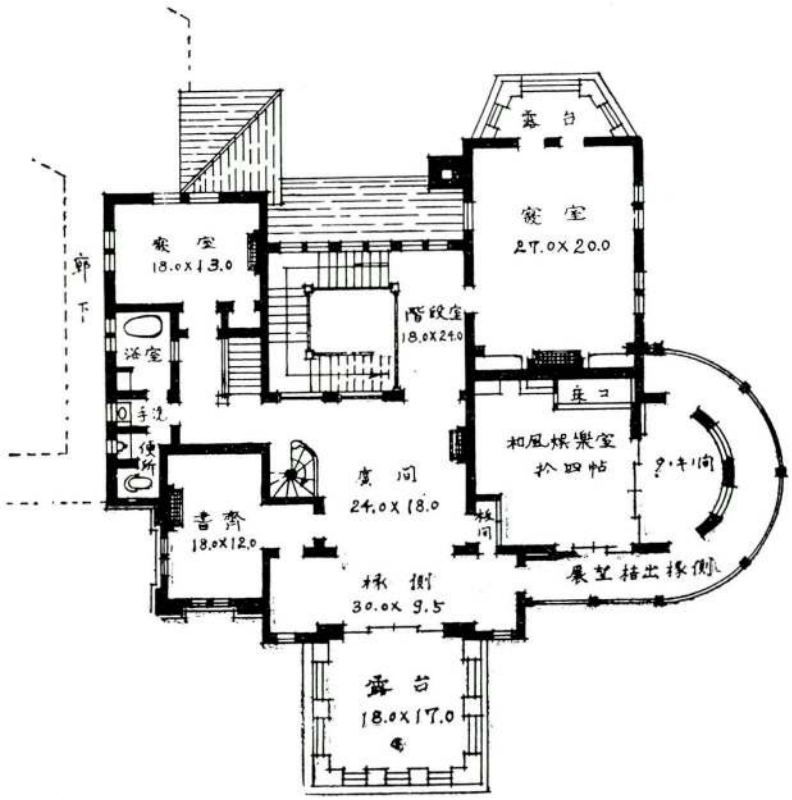




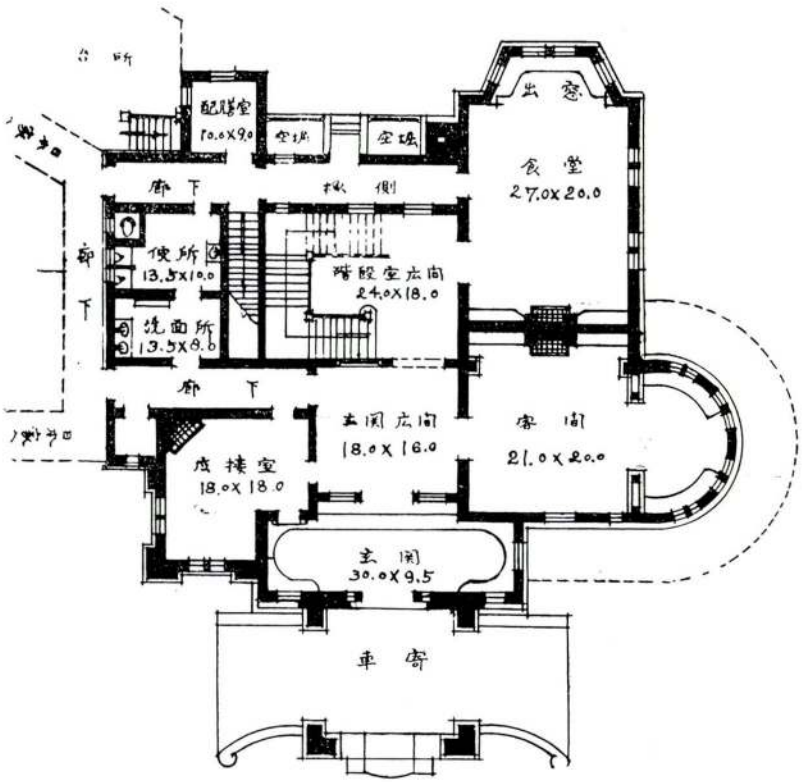
岡崎藤吉氏別邸（兵庫縣須磨）

（大阪朝日新聞發行所印刷）

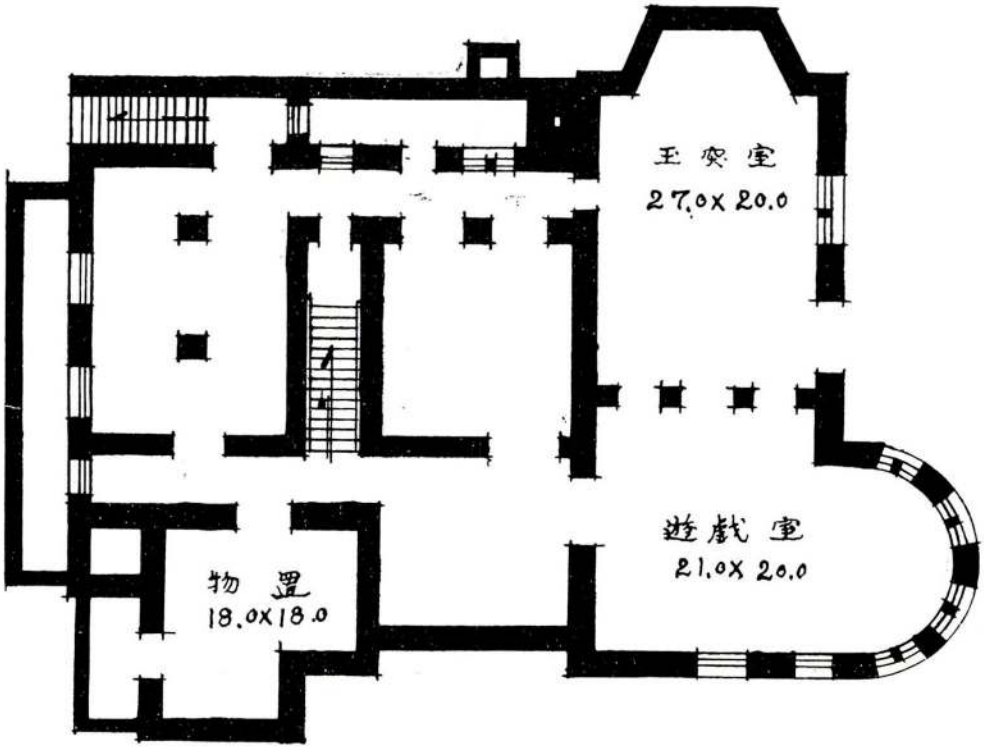
岡崎氏本邸二階平面圖


寢室
18.0×13.0
廊下
浴室
手洗
便所
階段室
18.0×24.0
寢室
27.0×20.0
バコ
和風娯樂室
於四帖
?ヶ間
書齋
18.0×12.0
食間
24.0×18.0
板間
床側
30.0×9.5
展望椅出椽側
露台
18.0×17.0

岡崎氏本邸一階平面圖

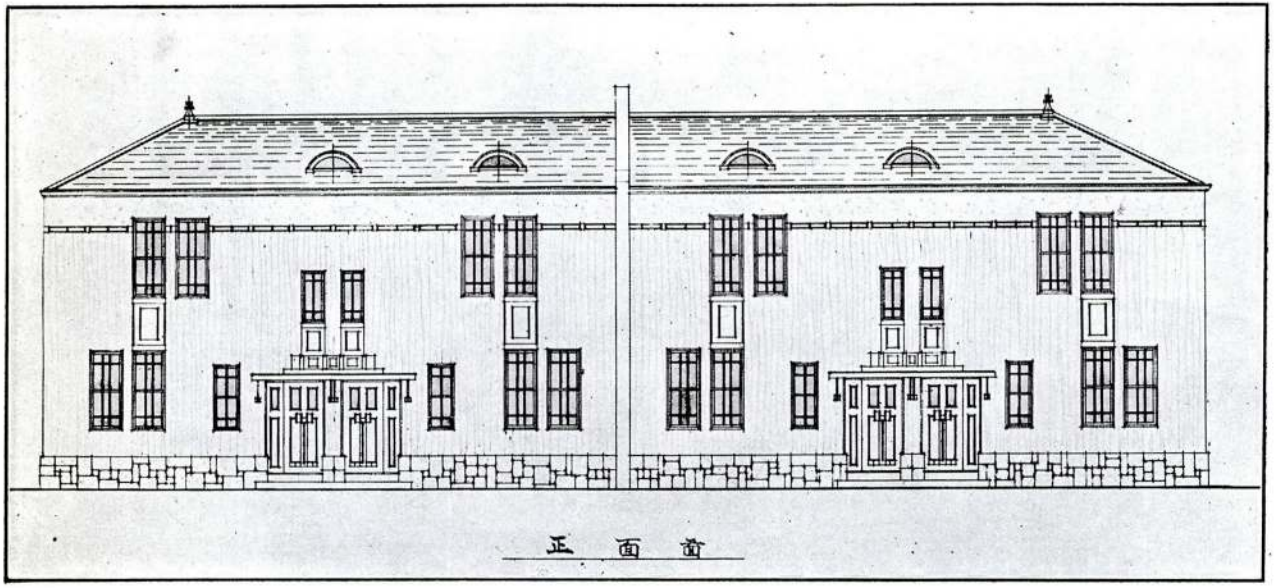

出窓
配膳室
10.0×9.0
空拔
空拔
食堂
27.0×20.0
廊下
側
便所
13.5×10.0
階段室広間
24.0×18.0
洗面所
13.5×9.0
廊下
廊下
玄関広間
18.0×16.0
客間
21.0×20.0
応接室
18.0×18.0
玄関
30.0×9.5
車寄

岡崎氏本邸地下室



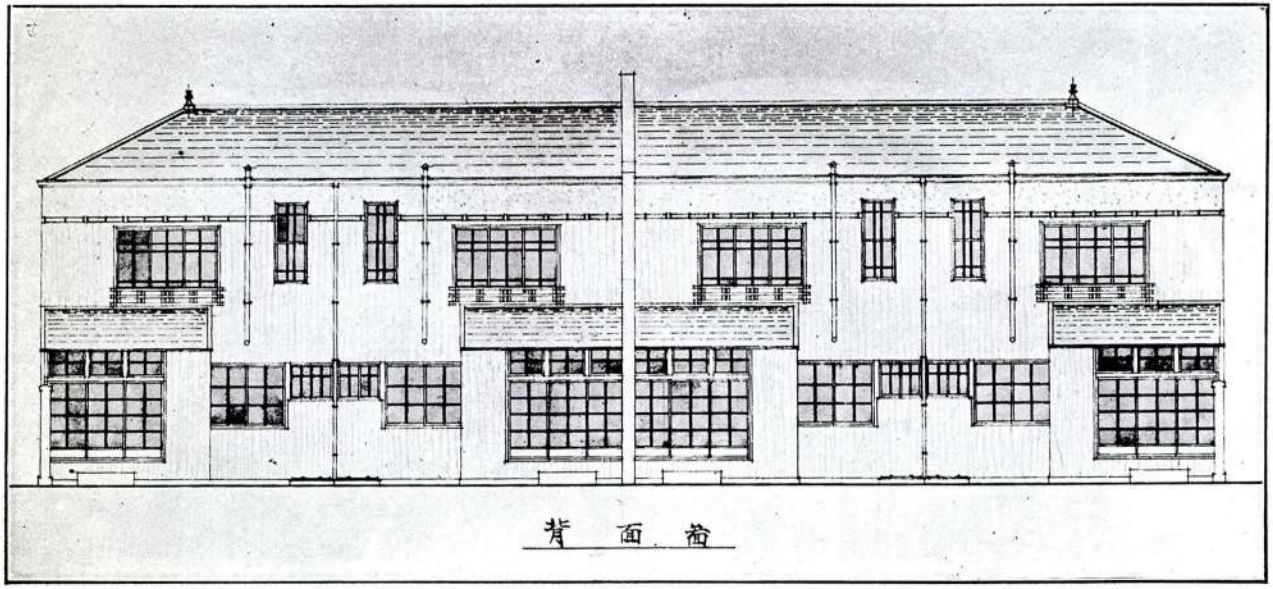
縣賞改良住宅設計案一第參等參席當選

（君男唯谷澁　者計設）

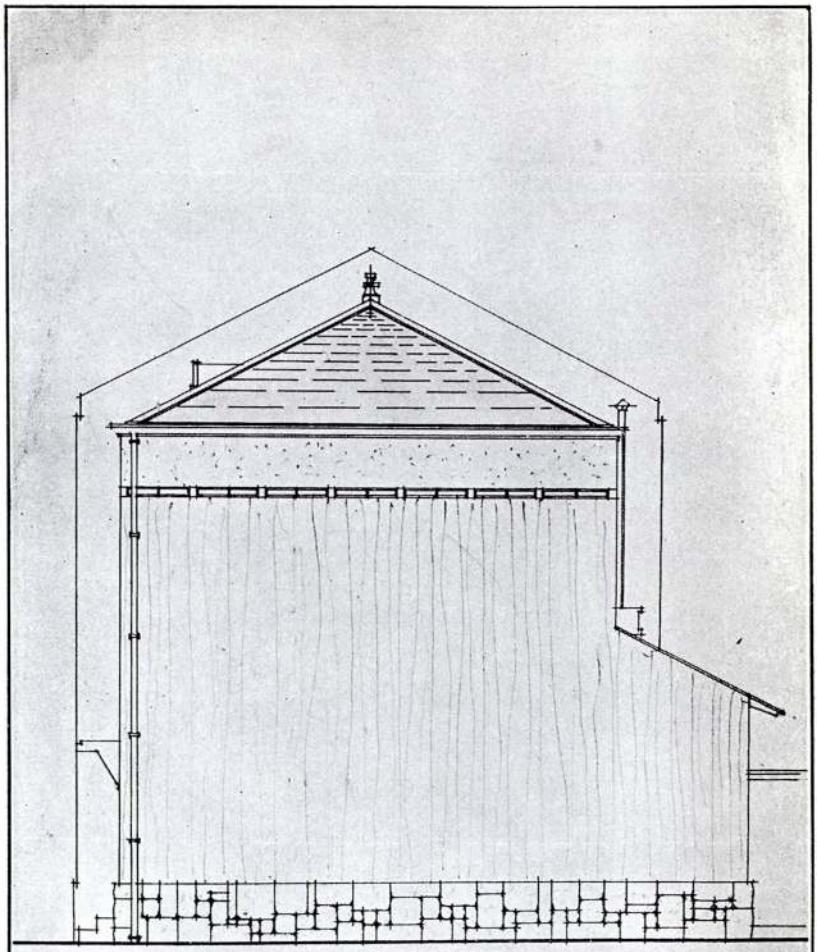


正面圖

第參等第貳席當選案ノ二

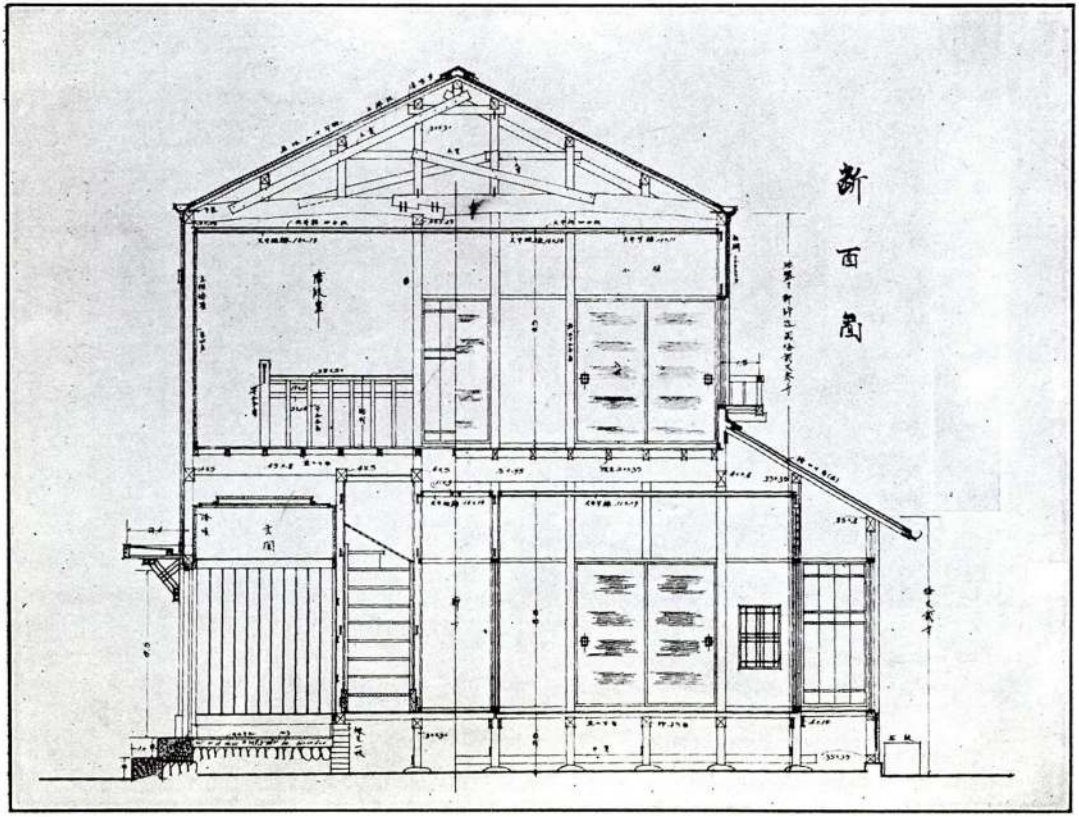


背面圖

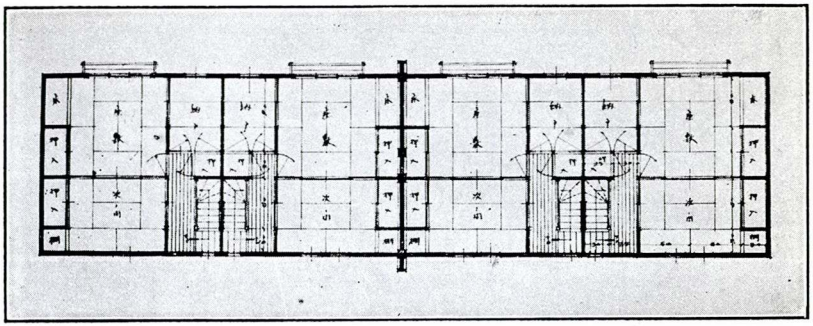


側面圖

第參等第貳席當選案ノ四

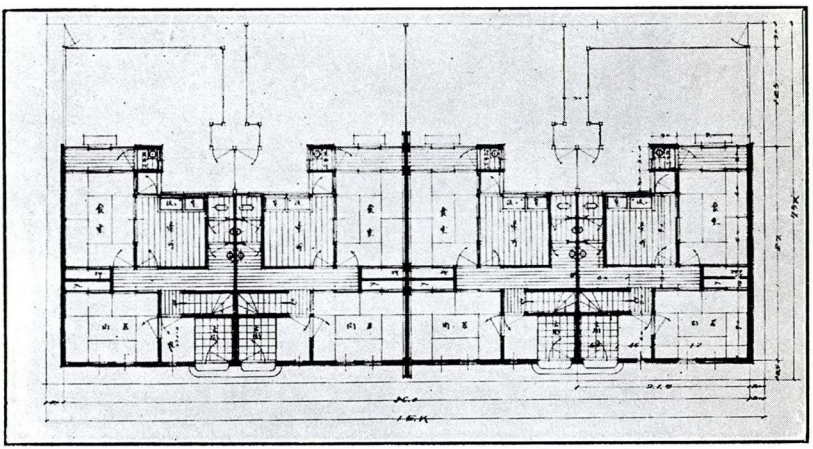


第參等第貳席當選案ノ五



圖面平上階

圖面平下階





都市の美化

人は環境の産物なり

都市民の環境的教育

═故 井上博士═

所謂都市美化事業は、都市行政の裡に於て實利の問題と共に美術の問題を講究し、經濟問題と共に娯樂の問題を解決せんことを期するにあり、就中利益主義に富める米國都市の間に於て『都市美術』なる一種の術語を生ずるに至りしは、社會の氣運亦奇なりと謂はざるべからず所謂『都市美術』は、即ち都市の經營に依つて藝術の觀念を進め趣味の向上を圖らんとするに在り。則ち、華盛頓市は、斯道の專門家ランファンの考案に基き都市の美觀を一新せんことを期し、千九百一年之が爲に委員を置き、公營の建築物に就ては、其配列及裝飾に關し大に意を用ゆる所あり。聖路易市に於ては、往年同地に開設せられたる大博覽會の爲に著しき刺戟を受け、都市の改造には美術的感念の最も必要なることを自覺するに至れり。之が爲先づ建築の意匠、建物の排列、道路、公園の裝飾に注意し又一方赤裸なる壁牆沒趣味の外面、及び孤立にして連絡なき建物に就ては一定の制限を加へ、橋梁、棧橋、記念像、噴水塔に就ては勉めて之に美術の趣味を加ふる等、要は之に依て都市の風韻と市民の審美心を高めん事を期しつゝあり。



論說

財界の混亂と都市建築 (一)

會員 片岡安

一

近時各種の事情により、我國の一般經濟界は混亂に混亂を重ね、今や殆んど恐怯の狀態とも言ふべき現象を呈して居る。其原因に就て各方面の意見をも訊き、又其成り行を善化すべく及ぶ限りの努力をなすことは、如何なる專門の者に取つても、可成り重大なる關係あるは言ふまでもなき事である。殊に我國の都市が漸く其改造の第一步を踏み出したる時に於て、此現象に逢着したのであるから、都市計畫の事業や都市建築に關係ある人士は、此際其成行に依つて被むるべき其前途の運命に就きて攻究し、深く之が對應策を慮らねばならぬのである。從來一般經濟の直接關係者は、文化都市の建設を以て不急の土木と考へたらしく見へたるにも拘らず、吾人の都市改造の主張に對して

比較的好意を以て共鳴した所以は、其建設の急要を承認した爲めではなく、唯經濟界の好況此上もなき折柄、都市建築の改造や、街路擴築に相當の資本を投ずるを以て一種の資金活動法なりと認めたに過ぎないと見て差支がなからふ。此の故に近時の如き經濟界の不況に逢着するや、一般土木建築は之を中止するを以て最も適當の對應策と考へるのも蓋し致方がない。

經濟界の一時的恐怯の際に、土木建築の事業を中止するは、一時的現象にして又經濟界の金融緩和策として大に効果あるは勿論にして、唯一時の對應策としては之を承認し得るのであるが、之を精しく觀察する時は、必ずしもそうと見られぬのである。古來不景況襲來に際し、土木事業を起して其金融梗塞を防ぐを以て政綱としたことは賢明なる手段とされたのであつて、昨年來我政府に於ても戰後の失業者問題に備ふる爲め、中央政府は勿論、地方廳にまでも、失業者續出に順應して適當なる土木工事を起すべく研究したのであつた。即ち經濟界の恐怯は凡ての事業の進行を閉塞せしめるのであるから、其作用に順應し、土木建築工事の如き自から進んで之を中止する時は、一般の波瀾を多少なりとも沈靜せしむる効果はあるけれども、そは唯一時的に其効果を示す緩和策たるに過ぎないのである。むしろ其結果は不意に失業者の多數を生じ、各種の材料の沈滯を來たし、一般的に不景氣を更に甚しくするのである。而して其不景氣は物價の低落を促すが故に、物價の自然調節として見れば、最も適當なる成行であるかも知れぬが、そは社會事情を余りに冷淡に取扱ふ者の言

ふところであつて、其半面の實情を稽ふる時は、かゝる自然成の行は決して稱賛すべきものではない、古來不景氣襲來に際し却て土木工事を盛んに起したのは、即ち其自然成行の沈滯的氣分を一掃して、之を興振せしむる政策であつたのである。

二

我國に於ける近時の金融梗塞は、其原因が各種の不謹愼な、事業計畫の亂設や、投機的商取引の余りに昂上した爲であるとしても、其結果が各種の堅實なる事業の進行を妨ぐるの實情に立至り、土木建築の事業中止を余儀なくせしむるに至りては、之を其儘に打捨て置くとは、決して自然制裁と言ふべきものではない。自から蒔きたる草は自から刈取るべき義務から言へば、投機者流が沈落し、不謹愼なる事業計畫者が蹉跌するのは致方がない、けれども、其爲めに堅實なる事業者が其波瀾の余殃を受けて共に轉覆するようなことは余りに殘酷なる犧牲である。抑も土木建築の工事は古來不急の事業の如く思はれた因襲があり、事實その嫌はあつたのであるが、近時に至りては決してかゝる意味のものではなく、殆んど都市經濟の根本的施設として、凡ての經濟活動の基礎をなすものである。殊に我國の都市が中古以來の偏倚的過渡時代の狀態より、眞實の文化的設備の都市に改造されねばならぬ重大なる時期に到着し、漸くその計畫を立てゝ實施に入らんとするの時に、此回

の經濟界の混亂に際會したのである。

我國の都市改造は國家としても又市民に於ても、之を現時より將來永遠に亘る重大なる緊急の施設として考へねばならぬのであるから、此回の恐怯に際し、暫時之を緩く取扱ふのは致方なしとするも、之を不急の土木と同一視して、先づ他方面の凡てのものゝ緒に著きたる後に之を考究せんとするが如き態度に陷つてはならぬのである。東京や大阪に於ける道路改修、其路面修築及交通機關の整備は其都市建築の改造と相俟ち、我國都市發展の基礎的事業であつて、一日之が進行を怠れば一日の損害を生じ、更に永遠に拭ふべからざる不利益を醇すのである。況して其方面に於ける材料の沈滯と勞働者の失業は一般の不景氣を助長するに止らず、延いて危險なる思想の勃發を誘致するの虞が多いのであるから、事に局に當る者や事業界の先覺者は、唯一時の直覺觀に捉はれて、無意味に土木建築の事業中止を以て適當なる手段と考へてはならぬのである。聞くところによれば、政府は最近東京市の道路改修其他市の改良施設に對する愛市公債募集を認可せざるやに傳へられて居る。若し募集の成績擧らざるならば致方なきも、其募集に同意せざる如きは余りに短見なる態度と言ふべきである。

三

都市建築は常に經濟の原則に支配されて、或は盛んに勃興し、或は時に沈衰の狀態に陷るの已むを得ざるものあるにせよ、其關係者は常に之を適當に誘致せねばならぬのである。而して其建設は

一般製造工業と多少趣を異にし、其利用の点に於て常に一盛一衰を免かれざる普通製造品の如きものではなく、永遠に平穏に經濟的生活を保護する容器であるから、之が設計と實施に就ては、常に平靜永遠の成績を考慮して其進行を圖らねばならぬ。斯の意味に於て都市建築の一時的勃興の如きは唯徒らに之を助長すべきものではなく、又其沈衰の傾向に際して唯之を見送るべきものではないのである。若し其一時的の勃興を助長する時は、材料の供給其度を失ひ、其價格は不法の暴騰を爲し、職工の供給十分ならざるが故に作業の成績面白からざるのみならず、工賃の膨大は材料の騰貴と相俟ち、其建築物の經濟的採算より落伍せしめるは明かなる結果である。現に昨年春より本年に入りて其傾向の著しかりしは吾人の已に嘗めたる苦き經驗であつた。

然るに近時の如き沈衰の傾向著しきに方りて之をその儘見送る時は、其結果や如何、吾人の已に嘗めたる苦き經驗と逆轉して更に正反對の苦しき現象に襲はるゝの奇觀を呈するのである。即ち材料の投賣と其低落は其等の商工業者を倒産せしめ、其結果竟には又材料の供給不能となり、職工の失業は其工賃の低落を來すの結果又終には轉業者を生じて、其適當なる供給を得ざるに至るのである。之を以て唯一時的の現象と見れば、敢て深く憂ふるに足らぬけれども、其結果は存外永遠にまで其損害を貽すものではないかと思はれる。此等の問題は其見方によつては小事の如くなれども、我國都市建築の改造實現に志ある者は、決して唯之を見送る譯にはゆかないのである。然らばその對應策は如何之れ實に現下の我建築界の大問題であつて、同時に社會の重要なる問題である、吾人は讀者と共に緊急事項として聊か其研究を爲て見たい。（續く）

現代方便生活と社會問題（下）

京都帝國大學法科大學教授　戸田海市

前號の要綱

▲勞働者の社會改造の要求は全社會の要求の代表也
▲一般に生活の壓迫と生活の方便化
▲物質過重の生活及び餘裕と自由なき生活
▲常に内面に充實し緊張せる生活と空虚寂漠な生活
▲社會問題の本質は方便生活脫離運動也
▲現代人は勞働者の口を藉りて苦悶を訴へつゝあり
▲勞働の苦痛視と職業尊重又は勞働神聖思想の欠如
▲從來の巧利的經濟學の結論は現代實生活の說明也
▲政治學藝殊に敎育方面の方便化
▲物質過重思想の内容
▲社會問題の實體視されたる分配問題は寧ろ結果也
▲文明國に於る生産物の過半は人生の幸福に無關係
▲現代は左まで富める時代に非ず
▲自主自發的生活なる生産と消費
▲現代社會の改造は先づ方便生活の脫出より始まる

三

現代に普通なる大規模の事業は多數人の協力に由て維持せられて居るが、假りに經濟上の事業例を取つて見るに、機械の發明改良は少數の技術家が之を行ひ、事業の經營は少數の資本家が之を行ひ、多數の役員勞働者は上より命ぜられた細密の分業法に由り盲目的に一小部分の勞

働を繰返すに止まり、其事業全体の意義も、自己の從事せる部分仕事と全體との關係も充分に理解し難く、又事業全體の運命を決定することに付て有力なる發言權を許されないから、全體の決定に參加することに由りて自己の直接に從事せる部分の運命をも自から決定したりとの感を生じ、即ち部分を通じて全體を味ひつゝ勞働を採ることも出來ない。故に此等の多數協力者は單に收入を得るの方便として勞働を爲すの外はない。現代の社會生活全體も亦茲に述べた例と同樣のものである。交通の偉大なる進歩に由り各人の日常生活が廣大なる地域に亘つて極めて密接に共同生活の組織の內に編み込まれ、各人は部分的なる自己の地位を通じて此大緊密なる社會組織全體を理解することも出來ず、從つて社會全體を以て自己のものとする程の强大なる同情も之に對して起り得ず、特に全體の運命の決定に對して有力なる參加を爲すことの出來ない爲めに、同情に由る綜合同化作用の發動が甚しく妨げられる。現代人は此の不自然なる社會組織を維持する爲めに煩雜なる制度を設けて實際には少數專制者が其運用の衝に膺り、而も其運用たる極めて表面的機械的のものとなつて居る。物質過重思想に捉はれた現代人は此社會組織を利用して成るべく迅速に又成るべく多量に結果を收獲する爲めに、各個人に專門的能力を養成して部分化事を機械的に繰返さしむるの方法を採り、即ち全人を造らず部分人を造ることに由り此組織を利用する速成方針を採つた、故に今日の人間は社會全體に對し機械的には極めて緊密の依存關係を有するに係はらず、自から全體を爲すものと感じつゝ生活することを許されない。此の如く社會と個人との有機的精神的の結合の不備不足を彌縫する爲めには制度の專制力を以てする事が必要となる。資本主義の跋扈と云ふも畢意此專制制度の一種であつて、其性質は政治敎育其他總ての共同事業に於ける專制主義と同一の役目を爲すものである。是れ現代に於て獨り勞働者のみならず、總ての階級が尨大なる社會組織の壓迫の下に不快不滿

の生活を營まざるを得ざる所以である。生活は藝術たらざるべからずとの主張は、自由なる生活が獨り自主的自發的活動の內に存じ得ることより起る所の當然の結論であるが、自己の生活せる社會を綜合して味ふことの出來ない現代人の生活が藝術となり難きは已むを得ざる所である。

社會組織が地域の廣さと生活事項とに付き、即ち外延的と內延的とに此の如く膨脹するに伴ふて、之を組織する各個人の全體に對する理解と同情との發達が之に伴はず、機械的に社會組織か迅速の生長を爲すに反し、民衆の精神的生長が之に伴ふて其組織を消化して行くことが出來ず、從つて各人が全體として感じつゝ生活するを得ざることが現代の根本痛弊であるが、之に對する社會改造の方針は大體に二つある。一は此の如き尨大なる社會全體に對して民衆の理解と同情とを充分に發達せしむるの不能なることを前提とし、其の理解と同情との支配し得る程度まで社會組織の範圍を縮小し、各人の共存關係を此程度まで稀薄にすべしと云ふ主張である。

此主張を有效に實行する爲めには戰前に獨墺等にて行ひたる復古的中等社會政策の微溫的方法を以て足れりとしない、之を徹底せしむる爲めには今日の機械を破壞し、又現代の科學をも否認せねばならず、論者の目標とする社會組織に付ては必しも其意見が一致せず、或は現代國家の成立以前の地方經濟時代即ち中世の手工業農業時代を復活せんとする者があり、或は全く新なる小規模の共產社會の組織を主張する者もある。彼の無政府主義は通例人間を以て神に近き萬能者の如く信ずるものであると評せられて居るが、一方より見れば、個人の能力が果して今日の如き尨大なる社會組織を精神的に消化する程に發達し得るやを疑ふことから起つたものと見ることも出來るやうである。總て此等の社會組織縮小の意見は其實行が不能なるのみならず、人類の進步の爲めに不利である。吾々が自國の外にも外國あることを知るときは生命を賭

して之れと交通せんとし、地球の南極北極が人間の住居に適せす又吾々の生活に直接の利害關係を有せざることを信ずるも、尙ほ吾々は懸命に之を探檢せざれば安心するを得ない、現代人は不幸なる方便生活に甘んずると云ふも、尙ほ旺盛なる智識慾は消失せず、機會ある毎に之を滿足せしめんとする、從つて吾々は一旦獲得したる科學的智識や其結果たる發明改良の技術を拋つ能はざるのみならず、多々益之を進めることを要求する、一度び智慧の木の實を味ふた人類の先祖が再び以前の渾沌に立歸るを得なかつたと云ふ神話は今日の人間に取つても眞理である。獨り智識慾の生長力が此の如く大なるのみならず、其他一般に精神の生長力は大なるものであるが、現代の弊は之が養成に付ての苦心が足らないのである。從來吾々は餘りに制度や物質の上に努力を傾倒して人間生長の爲に努力する事を怠つたのである。人を育てる事よりも物を造る事を重んずる現代に於て、物質生活の豐富となるに從て人口制限の强まると云ふ事も偶然であるまい。

改造方針の他の一は民衆の智識感情を大に發展せしむるの可能なるを信じ、今日の社會改造上の急務は之を發展せしむるの方法を講ずるに在りとするものである。現代文明國が政治上に民主々義を行ひ、民衆をして全體の政治生活の運命の決定に參加せしむる處の途を開いたに係はらず、從來其參加を有效ならしむるに必要とする民衆の能力を養成することを怠つたことの甚だ誤れるは夙に識者の主張した所であるが、此事たる獨り政治方面に限らず、他の總ての共同生活に付て見るも同樣である。戰爭以來先進諸國は民衆の物質的貧乏を除くと同樣に其精神的貧乏を除くの必要を感ずることが痛切となり、今日の中學程度の敎育を以て漸次に國民的最底限即ち義務敎育とし、更に高級の敎育に付ても勞働時間短縮に伴ふて之を汎く各階級に自由に開放せんとしつゝある。只だ從來の敎育向上論の多くは直接に生產能力を高めると云ふ物質過重思想を脫せず、從つて其敎育は矢張り從來の部分人を速成的に造り上げることに重きを置くや

うであるが、吾々の今後最も必要とする教育は全人を造り、民衆をして總ての共同生活の支配に對し有効に參加するの能力を養はねばならぬ

如何にして此の如き教育を民衆に與ふべきやは特別の研究を要する問題であるが、兎に角從來の如く少年青年を學校内に閉鎖して主に書物の上の教育を與ふる方針が甚だ不適當否な有害であり、少年も社會の一員である以上は少年に適當なる共同生活を實地に擔任するの機會を與へつゝ之を養育することを必要とするは明かである。

民衆の教育は決して學校や書物に限られたものでなく、政治經濟其他總ての共同生活に付き全體の運命の決定に積極的に參加するの途を開き、其能力を發展する實地の機會を與へることか何よりも緊要である。教育の意味は人間の固有する力に發展の機會を與ふることである。吾々が日常生活に付き正當の方法にて協力することは相互に機會を與ふることであるから、廣き意味に於ては教育である。既に相當に能力の進みたる者に對しては百の說法よりも一の實行的機會を與ふることが有効の教育である。前に述べし如く現代社會に於ては社會組織の生長の迅速なるに反し民衆の精神的生長が之に伴はないことが、實に政治經濟其他總ての方面に專制主義を成立せしむるに好都合となつて居るが、更に此專制主義の實行の結果は被專制者に對し精神的生長の最も大切な機會を奪ふことに由りて益其生長を妨げ、特に民衆の本來共同生活に對して有する所の同情心を萎縮せしむるのみならず住々之をして反社會的ならしめるのであるが、之と同時に專制者も共同生活を能く理解し同情し得る地位に置かれて居るに係はらず、其特權位地を有するが爲め自然に之を濫用して利己的反社會的となる。此點より見るも總ての階級の精神的生長の爲に專制を排して均等の機會を與ふるの必要が明かである。

吾々が共同生活の決定に參加するの權利を與へられて有効に之を行使する時は、實際の日常生活に於て如何なる部分仕事を擔任するも尙ほ

之を全體の有機的部分として味ふことが出來る即ち現實の部分を通じて精神的には全體として生活することが出來る。今日の如き細密にして且つ固定せる分業生活が果して今後も許るされ得べきものなるやに付ては大なる疑問が起らざるを得ないが、併し大なる社會團體を組織して之に適當する如く諸事業を大規模に行ふとする以上は、吾々が或程度に分業を行ふことを避くるを得ない。併し極端に走らざる限りに於て吾々が分業を行ふことが、必然に全生活を味ふことを不能ならしむるものでない。手工業者の如きは一人にて仕事の總ての部分を行ふが故に其仕事自身に大なる興味を感ずると稱せられるが、併し一つ一つの時間には仕事の一部分を行ふに止まることは、大工場に於ける分業勞働者と多く異る所がない、只だ手工業者は仕事全體を能く理解して部分と全體との關係を有機的に觀察し、且つ工場の分業勞働者と異つて自から全體の運命を決定するが故に、各部分をも全體として味ひつゝ勞働することが出來るのである即ち全體と云ふ抽象的のものが具體的に部分と云ふ形を採つて進行するのである。各人をして共同生活全體を理解せしめ、從つて自己の營む仕事と全體との關係を理解せしむる爲めには、例令へ他の方法を以てすることが出來るとしても、獨り此共同生活に同情して之を自己の生活なりと感せしめ、從つて自己の營める部分仕事を全體として味はしむる爲めには、是非とも共同生活全體の決定に參加するの權利を之に認めねばなるぬ。而して他に對し同情して活動するよりも一層其活動を自由にし自發的にするの力を有するを常とす。例へば自己の利益を增加する爲めに多く勞働する場合と、他人の窮に同情して之を救ふ爲めに收入增加を得んとして同じく多くの勞働を爲す場合とを比較するに、收入增加の爲めの勞働たることは同一であり、即ち其勞働は共に方便的であるが、併し後の場合に於て方便たり苦痛たるを感ずることが少ない。與ふる者は受くる者よりも幸福なりと云ふ諺の如く、同情は人をして自由自發的たらしめ、從つて生活を藝術たらしむるに偉大の淨化力を有

する。同情こそ部分を化して全體とするの力を最も多く有するものである。故に吾々が共同生活を營むに付ては如何にして各人の之に對する同情を生長せしむべきやが最大の問題となるのである。

自由自發なることは藝術的活動の生命である

社會を改造する爲めには生活を藝術たらしめざるべからずと云ふに方り、世人は多く詩人や畫家の單獨活動を聯想し、又社會改造論者の中にも前に述べし如く主として手工業者や農民の單獨活動を眞に藝術なりとする者もあるが、此の如きは藝術の意義を不當に狹く解するもので、ある。今後も詩人や畫家や農民や漁夫の單獨活動の必要なるは科學者の研究室内に於ける單獨活動の必要なるが如くであり、又今後も此の如き單獨活動を欲する人間の少なからず世に存在することも疑を容れない。併し人間の多數は他の多くの人々と共同して活動せんとする強き傾向を有し、彼の神系質にして多數者と相和し難き性癖を有する多くの詩人や畫家と異り、快活に且つ熱心に共同活動を爲すことを要求する者である。故に其協力其物を眞に各自に自發的ならしめ、從つて、協力事業が客觀的には如何に械機的數量的のものであつても、之に付て協力し互に相扶くると云ふ氣分を各自に主觀的に愉快ならしめ藝術的ならしむることが、今後の社會改造の中心目的とならねばならぬ。吾々が活動の結果と同じく活動其物を此の如く重要視することを要すとすれば、共同活動の場合に於て各自が他の協力者に對して採る所の態度が最も注意を要する問題となるが、此態度は仕事其物に對する理解と同情とに由て決定せられる。從來は活動を以て結果を得るの方便に過ぎずとしたるが爲め、共同活動に於ける此態度を定むるに付ても主に結果を得るに適當なりや否やに着眼した、例へば從來能率技師は生產を大にし又は勞働者の疲勞を減すると云ふ結果を擧ぐる爲め、勞働者に對し盲目的に自己の指圖に服從することを要求し、或は學校が自己の意見を主張す

るにも專制君主が命令を下だすが如き態度を以て世間に對し、只管ら思想を善導するの結果を得る事に腐心したのであるが、此の如き態度が非藝術的であり。又一般協力者の活動を藝術的ならしむるを得ざることが明かである。政治上の共同生活に於て專制者の善政よりも寧ろ拙劣なる自治を撰むべしと云ふ主張は一般に承認せられ、又後進の民族自決主義も正當視せられんとして居るが、此趣意は一切の人的交渉に於ても徹底せられねばならぬ。此點より見るも彼の理想的社會を造り出す爲めには手段の如何を問はずと主張する極端の階級戰論者は大に反省せねばならぬ。不完全なる社會人類に於て社會改造上時に激烈なる階級戰の行はるゝは避け難き必要を有することは之を認めねばならぬが、併し多くの極端なる階級戰論者は從來の通弊に陷り、理想的社會と云ふ結果のみに着眼し、此結果を産み出だす所の活動自身は單に方便に過ぎずとするのである。活動を強く方便視して結果に急ぐ人間が果して能く與へられたる理想社會の下に理想的に生きる能力を有すべきかは頗る疑問とならざるを得ない。又理想的社會の下に於ても絶へず修正改造の活動が起つて、人間の永久の進歩が實現せられるのである。吾々の生活は畢竟此修正改造の活動即ち結果への道行きから成立つものであるから、吾々は修正改造の結果を益理想的ならしむると同樣に、結果に到達する道行き過程をも出來得る限り理想的のものとすることに努めねばならぬ。特に共同生活能力の根原を爲す所の博大なる同情心を衰弱せしむる所の憎惡嫉妬復讐の如き萎縮的感念を煽揚することは出來得る限り避けねばならぬ。（畢）

✖餘裕ある生活✖

御身をこゝに横へ、
疲れたる手足を涼しき所にて息め、常に御身の得難き眠を味ひ給はんこそ
もとも宜しからめ。
われ等さやぎ、そよめきつゝさゝやぎを聞せまつらん。

都市計畫と河川の改修運河の開鑿

═歐米に於ける水運の發達と運河の改造═

建築學會正員　横濱勉

部市の改造なる問題は戰後の各國に於て周到なる研究を爲られてある。英國政府に於ては今夏を期して萬國都市計畫會議を倫敦に開催して其宣傳をなさんとしてゐる。これは要するに能率の增進と國力の充實とに重大なる關係を有するからである。

交通の整頓は都市の改造に關する主要なる案件の一つなることは論を俟たぬのである。而して交通には陸路と水路の二方面……航空路は姑く別問題として……のあることも論はあるまい。

今や我國に於ても六大都市の改造計畫案は出來て、將に其實施期に入らんとしてゐる。此場合に予は陸上交通整理と並行して水上即ち運河や河川の改修も同時に考慮せられむことを切望する者である。殊に東京と大阪とに於て其必要を主張するものである。

茲に予は歐米に於ける水運の發達と運河の開鑿、河川の改修とを略述して識者の高敎を仰かんと思ふ。

予は今一例を以て水運の最も有利なることを示さうと思ふ。一匹の馬は陸上平坦路では僅かに一、二噸の荷物を牽引するに過きないが、鐵路では五噸內外に增して、水路を引くと假定せば十五噸乃至十八噸は優に牽かるることとなる。而して速度に於て汽車や自動車には到底及ばないのであるが、重量の多い容積の多いものを運

ぶには水路が優るのである。即ち一般に輕量なる物品を快速に輸送する爲めには自動車とか鐵道も宜しいが、價格の低廉なる重量のものを運搬するのには水路の方である。而して製造工業に於ては素品原料の運賃の多寡は其製產品の價格に重大なる關係を有するのであるから、工業地に於ける水路問題は頗る重大なる要件と考へるのである。

そこで、近年各國ともに商工業の發達に伴ふて河川水路の改修に努力してゐる。今こゝに各國の荷物輸送全体と水路運送との對比を百分率にて示すと、

佛蘭西では一八八〇年には十六%であつたのは一九〇五年には廿二、五%に進み且つ此期間に於ける水運の增加率は百五十%であつて鐵道運送の增加率は僅かに七十一%に過きない。

白耳義では一八九〇年には三十七%であつたは一九〇五年には四十五%に進み且つ此期間に於ける水運の增加率は百十五%なる比して鐵道の增加率はこれ又五十二%に過きない。

獨逸では一八七五年には十一%であつたのが一九〇五年には二十五%に進み且つ此期間に於ける水運の增加率は約五倍であつて鐵道のものは四倍である。

以上の事例は輓近に於ける各國に於ける河川水路の改修の効果を具体的に証據立つるものである。

次に各國に於ける河川水路改修の概況に就て述べんと思ふ。

英吉利に於ける中陸地方の商工業の中心とし物貨集散の要衝として何人も許してゐる『マンチェスター』市の運河改修に就いて其狀況を略述せんとする。

『マンチェスター、シップ、カナル』は一八八七年の十一月に起工して一八九四年の一月に開通した。其工費は一九一〇年末迄の決算に依ると約十七億圓である。此運河は『ェースザム』の『メルセイ』河より取り入れて、其延長約三十五哩半で、幅百廿呎と深さ二十八呎を標準としてゐ

る。今日では一萬二千噸級の『トワインスクリウ』汽船を容易に運航せしむることが出來る。

此運河改修に依つて同市は如何に商工業の發達を助長されたかが、次に揭ぐる累年輸出入の增加表に依つても知られるのである。

一八九四年	六千九百萬圓
一九〇四年	三億三千四百萬圓
一九一〇年	四億七千四百萬圓
一九一一年	五億四千壹百萬圓

即ち年々六七千萬圓の增加を示してる。

序に此運河の特色を列記せば

一、此地方に於て衰頽しつゝありし貿易を復興せしこと。

二、新工業を勃興せしめしこと。

三、中陸地方の廣濶なる地域に產業の開發を普及せしめしこと。

四、附近の地方の地價を騰貴せしめしこと。

五、納稅額を五割以上も增加せしめしこと。

六、鐵道及貿易業者の利益を昻進せしめしこと。

これは此國に於ける代表的のものであることを特記して次に移ることゝする。

佛蘭西に於ては一八七四年のヱム、クランツ氏の報告に依ると運河開鑿の工費は一哩約十二萬圓で鐵道布設の約三分の二にて足るといつてゐる。而して石炭の輸送賃は鐵道では二錢乃至二錢五厘哩噸なるに、船運の方は一錢以下で濟むので前者の半額にも達せないといふ。

此の國に於ける河川の改修、運河開鑿は奈破翁第三世の時代に勃興して、當時は恰も普佛戰爭（一八七一）の後であつて國費多端の折柄にも係らず漠大の費額を投じたのである。

一八七一年より一八七九年までは此目的に支出せられし額は約一億圓であつて。一八七九年より一九〇〇年までに支出した額は三億圓に上つてゐる。其內の約一億圓は既設のものゝ改良であつて、一等運河即ち三百噸級の艀の航行し得る水路を九百六哩より二千九百十九哩に增進せしめた。猶其內の六千萬圓で新設運河の開鑿に着手し、殘額一億四千萬圓は碇泊施設に費し

たのである。

河川改修の主なるものはローヌ、ソーヌ、マーヌ、及びセーヌの諸川である。

一九〇三年には二億八千萬圓の公債を起し、其内二億一千萬圓を水路に殘りの七千萬圓を築港に費すこととし、十六ケ年の繼續事業とした。

此國の河川、運河の一般の標準は、三百噸級のベニセ、フラマドであつた。セーヌ河の下流は千噸級の航行能力を有してる。

水運增進の狀況は、一八八三年には二十億噸哩であつたが、一九〇〇年には四十六億七千五百萬噸哩となつて約二倍半に增加した。

獨逸に於ては佛蘭西と相亞ぎ勃興して、即ち一八七五年に創まつた。

一九〇六年までに河川改修に支出した費額は一億三千二百萬圓で、運河開鑿には一億三千三百萬圓である。

殊に一九〇五年に於ては一億六千七百萬圓を豫算に計上して左の工事を促進した。

一、伯林とステッチン間の運河の擴張。

二、オーデル河の改修。

三、ハンノバーとラインとの結合。

四、オーデル河とビスチラ河との聯結。

などは其主要なるものである。

此國に於ける水路の延長は自然河川一千九百四十八哩で、浚渫河川四百廿五哩、開鑿運河八百九十五哩である。舟行能力はライン河は和蘭國境からマインツまでは三千噸級で、マンハイムまでは二千噸級である。エルベ河は千噸級であつて、浚渫されたるマイン河は一千六百五十噸級である。運河の大体の基準は西部にありては六百噸級で、東部は四百噸級である。

河川運河に賴る輸送力は一八九五年に於ては四十六億五千萬噸哩であつたが。一九〇五年即ち十年後には九十三億噸哩に增加した、恰も二倍に增加したのである。

又これを當時の鐵道輸送力の增進度合に比較せば一八九二年より一九〇二に至る十年間の增進率、は鐵道にありては二十一%增であつたのが水運では五十七、六%となつてゐる、即ち水

運は鐵道に比して二倍半強の增加である。

白耳義では極めて小國であるが水路運輸の最も發達したる國で、依つて以て世界有數の商工業國として重きを成してゐる所以である。

過去三十年間に於て河川改修や運河開鑿に支出せし費額は二億圓を下らない。

この國に於ける水路の舟航能力は概ね三百五十噸級以下に止まる。

其輸送能力增進率は一八八〇年に於ては二億二千五百萬噸哩であつたのが、一九〇〇年には五億六千萬噸哩といふ數字を表はし、即ち十五割以上の增加をなしてゐる。

以上は歐州各國に於ける河川改修と運河開鑿の梗概を記述したに過ぎない。

今や我邦に於ても都市の改造なる議論漸く喧しくなつて來て、將にその實施期に入らむとするに際し、東洋に於ける倫敦又はマンチエスターと自稱する東京や大阪に於て、この河川の改修運河開鑿なる問題は、斯く商工の發展の上に重大なるものあるに係はらず、極めて貧弱にして而も世人一般に餘まりに無頓着なるを遺憾とするものである。

予は特に我が商工業の中心地たる大阪の都市計劃に方つて、河川の改修・運河開鑿の最も重大視す可き要件の一つなることを力說して、敢て識者の高敎を請んとする。（九、五、十九稿）

英國の河航行政

市政當局が甚大なる權能を有するはクライド河航行事務委員なるが、該委員は一六六二年グラスゴー築港に着手し、又一七六八年にはグラスゴー市よりクライド河口に至る間の河底を浚渫し、今や滿潮時二十七乃至二十九呎の水深を有するに至れり。次いでテームス河に於ける船渠及築港は、テームス河保全委員會の管理する處に係り、重もにテームス河沿岸の諸政廳を代表せるものにして、其他は海軍省、商務署、船舶持主及船渠持主等より選出組織さる。

都市計畫と電氣軌道

大阪市電氣鐵道部技師長　清水熙

都市計畫の目的とする處は、各種の方面に亘り日を追ふて膨大せんとする都市の發展を、最も規則正しく最も有利に指導し、同時に、都市生活の安寧を確保し、其福利を增進せんとするものである。就中、交通問題は、最も重大にして、一日も停止するを容さず、都市發展の先驅として絶へず改善猛進せねばならぬものである而して、交通機關の內でも、市街電氣軌道は、今日でも市街交通の大半を引受て居り、今後とても尙左樣であらうと思はる。小都市に在ては他の方法にて充分であり、必ずしも軌道を敷設する必要を認めぬかも知れねど、大都市に在ては、他の方法にては到底これだけの人數を運びきることは不可能であり、今後日を追ふて驚くべき增加を示して居る處の交通に適應することは、蓋し至難な事と謂はねばならぬ。

交通狀態の激甚なるに從ひ、市街軌道は、其一部を高架若くは地下の高速軌道に其形を替へこれが幹線交通路線となり、現在の路面電車は幹線軌道によりて運搬されたる乘客を近距離に分配する補助機關と成り、今日よりも一層其網の目を小にし、著しく其延長を增大すべきことは明かである。尙、都市に於ける乘車回數も、年を追ふて乘車習慣を誘致し、一年間に全市人口に割當て一人が乘車せる回數を見るに、大阪市電に在ては左の如き有樣にて、大正八年に於

ては一ケ年一人乘車回數百五十三回といふ統計を得たり、即ち大阪市の全人口に相當する人が二日に一回乘車するといふ割合を示して居るのである。

一ケ年一人乘車回數	
大正元年	七三回一
同　二年	七八、七
同　三年	七六、六
同　四年	八三、八
同　五年	九五、九
同　六年	一一五、四
同　七年	一三二、五
同　八年	一五三、〇

東京市に在ても、殆んど同樣の結果を生じ、今後此乘車回數は、或程度までは年を追ふて同樣に增大すべきこと蓋し疑ふべからざる事實である。從て、電車の車臺數も之に應ずべき程度に增加し、愈々繁激なる運轉をなさぬばならぬのである。

翻て道路上の自動車荷車等の交通狀況を稽ふれば、同樣日を追ふて頻繁と成り、重量及速度も恐るべき割合を以て增大して居るのである。

述上の如く、大都市に於ける電氣軌道は重大なる任務を負ひ、都市交通の脈管と成り、安全にして迅速に交通運轉の目的を達せねばならぬが故に、到底今日の如き幼稚なる狀態に在るを容さない。

高速交通機關及郊外との連絡運轉の方法に就ては、大阪市に於ても、鐵道協會及土木學會に委托して其研究調査を進めて居り、路面電車の延長に就ても、種々考究中に屬し、大阪市に於ける具體的の方法は今日之を述るまで進捗しあらざるも、兎に角、大都市に於ける路面電車の路線及其構造に就て、聊か卑見を述べてみたい

一　路線の選定

路面電車は、大都市に在ては長距離乘客を運搬する目的のものではなく、高速交通路線にて長距離を乘車し來り、高速交通機關の設なき區間を、路面電車に便〻運搬するものなるを以て

今後の大都市に於ける路面電車は、先づ高速交通路線の經過地點を決定し、之に適應せしめ得ることを主眼とせねばならぬのである。既設の線路に對しては論外とし、今後新設すべき路線に對しては、特に叙上の考慮を度外視することは出來得ないのである。從て、其運轉系統も、今日の如く極めて複雜なる方法による必要を認めぬことゝなるべく、交叉點に於ける分岐設備も、愈々簡單となすことを得るものと考へられる。分岐交叉點に於ける複雜なる設備は、運轉速度を減殺し、交通の危險妨害をなすこと甚しく、電車經營上著しき經費を要するので、斯る設備は成るべく簡單に改造し度いのである。路線によりて乘客の厚薄があり、同一運轉系統内に於て不利の運轉を要するもの、其他の各種の場合に於て特に補助單線軌道を新設し、適當なる補助道路を以て引返し線を設くるときは、大なる利便を得ることあらむと想ふ。要は、線路内に於ける運轉障碍を一つにても減少せしめ、又運轉を容易ならしめ、交通の危險を減殺せしむるに對し、高速交通機關の延長增加に伴ひ、增々其實現を容易ならしむるものと思考さる。此等の事項は電車に取りては頗る重大なる事柄に屬するが故に、今日にして充分に之が研究をなすの價値あるものと想ふ。

二　軌道の構造

軌道に於ける運轉回數の增加は、最近に於て著しき激增を示し、今後增々其度を增大することは、統計上否定し能はざる狀態である。從て今日の如き不完全なる構造を以てしては、修繕回數を增大して、徒らに其經費を激增し、軌條の生命を短縮するのみならず、修繕のために、日を追ふて繁激を加ふる道路交通の妨碍となり危險を增加するに止り、結局多額の經費を以て危險を釀成するの結果を來すのである。一時間運轉回數八十回を超過するが如き線路に在つては勿論、其他普通以上の頻繁なる運轉を要するものに在ては、宜しく、軌道を永久的構造に改造し、其經費を節減すると共に、一般交通の利

便と安全とを期するのは當然のことゝ惟ふ。軌道の改造は、車輛の保存、電線路の破損　其他各種の利益を伴ひ、結局、多大なる節約をなし得るのである。軌道の構造に就ては、種々の考案を有し、大阪市電に於て最近實施せんとするものは、混凝土井桁基礎を用ひて、軌條を鎔接し、完全なる路面鋪裝を爲し、全然軌條を不動のものに成して、完全なる永久軌道を構成し、而も其工費に於て、現在の不完全なる砂利軌道に對し僅かに三割弱を增加するに過ぎないのである。更に、市街軌道には、今日迄一般に溝形軌條を使用し在るが、溝形軌條は、主に、路面の体裁と、軌道上を通過横斷する一般車輛に對する危險、並に路面鋪裝との關係上、外國に於て斯ゝ軌條を使用し來れるものなるが、軌條の性質としては、極めて不利益にして、不自然のものであり、高價にして保存期極めて短く、何の爲めに斯るものを使用し居るかを疑はざるを得ない。殊に、混凝土内に埋設せる完全なる構造に於て其理由を認むること能はざるのである溝形軌條に對する缺點は多々あるが、其最重大なる事項は、底面に於て負荷する中心點と、頭部負荷面の負荷する中心點とが、同一垂直線上に在らずして、所謂「センター、ビアリング」でなき爲めに軌條は常に外方に押されつゝあり軌條の頭部表面を摩滅すると同時に、其側面をも摩滅するのである。從て、絶へず其軌隔を增大し、軌條頭部を屈撓し、枕材との連繫を弛緩せしめ、爲めに、其保存期を短縮すると共に、絶へず軌道狀態を不良ならしむるのである。之に代ふるに高さの大なる工字形軌條（ハイ、Tレール）を使用すれば、路面鋪裝其他に就ても支障なく、完全なる軌道を構成し得て、其建設費を著しく減少し、之が保存期限を倍加することと蓋し易々たるものである。軌條に就て種々比較事項を述ぶることは、餘りに專問的に亘るが故に之を省略して、兎に角、溝形軌條に代ふるに高さの大なる工字形軌條を使用し度き事のみに止めて措く。

近來、自動車及貨物自動車の增加に伴ひ軌道

面を破壊して其修繕の繁に堪へざるに至り、特に完全なる鋪裝面を有する完全軌道の速成を希望するのである。

三　道路に於ける軌道の位置

軌道は一般に道路の中央に敷設されてあるが歩道を有する十二間幅の道路に於て、人車の交通稍々繁激を加へたる今日に於てさへ乘車の危險を著しく感ずるのである、故に、今後一層交通の度を增大したる場合に、安全に乘車することは可能なりやの點に關しては、恒に疑問として塞心に禁へない。自分は、東京市の一部に於て多數の人口が車道に佇立しつゝ電車を待つことは危險なるため、歩道上に立て電車の來るのを待ち、電車來れば多數の車馬の間を縫ひ競ふて乘車せんとする有樣を見て、今後如何にして安全なる方法を案出し得べきやを疑ふのである。幅員大なる道路に在ては、安全地帶設備の方法も一案なれども、十二間道路に在ては、安全地帶の設置は不可能なりと謂はねばならぬ。されば、軌道を道路の中央に敷設するのが誤りなるか、又、軌道の一側に之を集むることに就ても種々の障碍あり、乘客の安全乘車のみを主眼として其他の事項を犧牲に供して可なるや、此等の點に就ては久しく其取捨に苦心し、之が決論を得ないである。歐米に於ける各種の實例に見るも、道路の幅員、交通の狀況、其他適切に之を解決するものを見當らない。我大阪市の如き都市計畫に於ても、交通量の今後に於ける增加に比して道路幅員の小なるを感じ、茲に多大なる車馬の集中を想像して述上の疑問を喚記するのである。

斯の疑問は所謂杞憂に過ぎざるものとなれば幸なれども、今日に於ては最も必要なる研究事項として憂慮に禁へぬのである。從て、自分は之が種々考究を進めつゝあるが、未だ最も適切なりとする決定を見ざるを以て、此處には、單に其の疑問のみに止め置いのである。

這般都市計畫の實施に伴ひ、市街電氣軌道の設備並に經營方法に就き、特に研究改善を要する事項は多々あるも、今は、纔に其一片を述べて、一般諸士の御援助を煩し度いのである。

文明に超越せる日本建築物

……木材濫用の帳尻と木材缺乏の因果關係に視よ……

農商務省技師
林學博士　望月常

一

我が國の文物は、すでに世界に於ける第一流の域に進んでゐると稱するに係らず、たゞ建築のみは依然として文明に超越し、全く前世紀の狀態を其儘に持續しつゝあるやうに思はれる。地方の村邑は勿論、東京大阪等の大都市に於ても、尚ほ事實に於て然りである。

先づ第一に、少なくとも都市の建築物は敢て住宅のみと云はず一般に不燃質物で造らねばならぬことは素より論ずる迄も無い事であるに拘らず、我が國は不燃質處が、殆んど火性の誘導とも思はれる位の木材を以て其大部分を構成して居るのである。

この木材建築の建並ぶ都市は、人間の住むべき處として頗る不安心なもので、年々火災の憂目を見ねばならぬのは當然の結果である。一本の燐寸は忽ち家を燒き藏を拂ふ、その損害は直ちに個人乃至國家の財產關係に影響し、一方に於ては都市其ものの發達發展の爲に例へば刻苦して積上げた石を、たゞ一衝きで打崩すやうなことに成るのである。

二

都市火災の帳尻はまた此處に木材の非常に多量なる需要を產み、其波動は實に痛切なるものがある。年々我が國のこの木材建築物の火災に罹るもの四萬戶以上に及び、此再築には三百萬

石以上の木材を使つてゐる。其上に修繕用として百五十萬石、流失風害の爲め二百萬石、更に新築者が必要とする八百萬で、即ちわれ〳〵が木材建築物の下に生活してゐる——可燃質物の中に危險なる日を送つてゐるといふ事實に報ひられるに、木材千四百萬石の必要といふ計數を以てせられることに成る。

此千四百萬石は實際木材としての計算だから大体五分止りと見ても、山林に於ける立木は其倍數の二千八百萬石を伐採せねばならぬことゝ成つて行く、實にこれは國家經營の大局から觀察して、由々しき事實と申さねばならず、此一事を以て單純に考へても、最少限度に於て、都市に在る社寺、學校、病院、公共の建築物などは、不燃質物の建築にしたく、これは都市の完全强固なる計畫であるのみならず、都市の美觀を害はず且つ社寺佛閣等にあつては國寶保存に必要なことであると思ふ。

三

然るに東京の如き處ですら建築物に對しては一切何等の制限規定等は無く、木材建が軒を並べ、年々三千萬石に近い立木の必要を、自ら先頭に立つて手を擴げて待つて居る狀態は、一段高い處から見て、實に歎かはしいものではあるまいか——殊に近頃は各都市に於て、木造の西洋建が隨分多くなつて來たが、これがまた大變に喜ばしくない傾向なのである。

木造西洋建は、川村理學博士の研究に依ると其土臺に淚菌と稱するものが發生して、この淚菌からまた白蟻が發生し、忽ちにして土臺を腐らし。遂には其建物を倒して仕舞ふに到る、この事は、川村博士が各建築家に對して、熱心に木造西洋建の廢止を叫び、その設計改良の研究を稱導してゐるから、諸氏は既に聽かれたことであらふが、實に僅かなる淚菌の發生は、先年東京日比谷の第一中學が根本的に大修繕をしたやうな事や、信州地方の學校等が、殆んど斜めに傾むいたといふやうな危險な事實を生ませるに立ち到る。

四

同じく木造にしても、此涙菌白蟻が、日本建には發生せずして、西洋建に多くあるのは如何した譯か——云迄も無くこれは建築法の相違から來るのであつて、御承知の如く西洋建は土臺の通風が充分でない、あゝして石や何かで固めて置いて、通風の穴はあつても、日本の溫度及び空氣濕乾の關係では、あの位の穴ではどうも充分でない、で日本建は此點に於て、ざつくばらんに明け放し主義で來てゐるから、古來自然的に甘く行つてゐるのだが、日本の西洋建はこの關係に餘り深い研究を積んでゐないからして、往々この涙菌の災に罹る、これは第一に、木造西洋建を造らぬことが一番良いが、建てねばならぬ場合には、專門家が斯の點に最良の注意を惜しまざらんことを切望する。

しかし、前にも述べた通りに、苟くも都市にあつては、絶對にこの可燃質木材の建築に反對するが、現在のわれ〳〵の富の關係から、然様に理想通りにも行かぬ場合が多いからして、斯る場合、即ち木造建をする場合は、先づ成るべく燒けぬ方法を構じ、その次には燒けずにゐたら一年でも長く保持して行ける木材の耐久力を講ずる事だが、それには木材防腐法を採ることである。

五

腐り易い木材を、腐らせずに一年でも長く使つて行くのは、一方に於て燒けて行く木材需要の一端を調節し、一方に於ては、更にヨリ有益なる方面に木材を利用するの餘裕を生ぜしむる處の大切なる方法で、東京大阪等では、心ある人々は板塀、土臺等に大分防腐材を使用してゐるが、まだ〳〵其藥料が不足な關係許りで無く一般に此方法は閑却されて、只僅かに多數量を使用するものとしては鐵道關係が枕木、遞信關係に於ては電柱等位のものである。

木材に防腐藥を注入するには相當なる手數と費用とが要るので、例へば枕木の如き約倍位の

價格に成るが、その代りとして、三倍以上の耐久力が出て來るから、結局途中取換の人夫費用等の算盤を見て、非常な利益が單に費用の上からだけでも得られるのである。枕木とか電柱とか許りで無く、これが一般の木造建築物に盛んに利用せられる事になれば、年々三千萬石の木材需要量を十分の一に減ずる事は敢て空想では無く成るのである。

六

一般建築物の外に、最も多量に木材を消費するのは日本固有の木造橋梁である。多くは五年目、七年目位に架換へをするといふ有樣で、平均年量二百八十萬石を使ふから、實に立木五百六十萬石が伐られて行く譯である。これなどは殆んど、木材觀念の無い時代の遺物として、只木材を無茶苦茶にしてゐるやうなもので、川だとか池だとかいふ水分の多い處へ、腐り易い木材を持つて行つて如何なるものでない。理想としては橋梁には全然木材を使用せぬことにあつて鐵筋コンクリートにでもして置けば、安全であり且つ永久の計算を見たら却つて經濟であらふと思ふ。もし如何しても木材を使用せねばならぬ時は、何をさて置いても其使用材に防腐藥の注入を忘れては成らぬのである。

建築橋梁とこうした木材消費の狀態にある上に、更にも一つ又甚しく木材を喰つてゐるものがある、それは木材工業即ち製紙原料パルプの消費である。

七

製紙原料として現在毎年多量の木材が消費されてゐるに拘らず、我が國の製紙使用量は尙ほ此上に多量の原料乃至製品輸入を餘儀なくさせてゐる。この狀態は國家の大策の上から見て寔に困るとであつて、われ〳〵が斯の工業に對する同情は、やがて國家を愛する道の一つではあるまいか。輸入をしたくない——この言葉と共に即ちパルプ工業の今一歩を進めたる發達を助けてやらぬばならぬ、助ける事は要するに豊富

なる原料を與へてやることである。

さあ斯うした狀態では限りある面積の土地に限りある生長率で茂つてゐる、正しく云へば一定の供給力より無い木材は、一方では建築にどし〳〵消費され、一方には工業にどん〳〵消耗され、また一方ではどし〳〵燃料として旺に消費されて行くとしたならば、結局は、山といふ山は禿山になつて、伐るべき木も枝も無くなつて仕舞はねばならぬ。尙ほそれでも有る中は宜しいが木が無くなつたら如何するか、木材使用の節儉及び利用は斯の點からも當然考へて見ねばならぬのである。

八

前にも云つた如く、建築に可燃性物即ち木材を使用するのは理想的でないのみならず、種々の點に於ても、社會的乃至個人にとつても不利益であるからして、先づ第一に此方の消費量を出來るだけ減じて行く。然うすれば即ち夫れだけが一方工業に利用され得るのである。代用品を使用することの出來ない工業へ、代用品を使用し且つ其方が理想である建築方面から原料を供給してやるのは、要するに持ちつ持たれつの世の中であり、且つ當然の義務であるのである。

さて又、此處に於て更に大いに考へて見ねばならぬのはわれ〳〵の燃料問題である。われ〳〵は薪を焚き、木炭を焚く——これこそ木造の建築を未だに營々としてやつてゐる以上は非文明にして不經濟であつて、前世紀どころが前々世紀の遺物とでも申さねばなるまい。

われ〳〵は建築材料の千四百萬石立木二千八百萬石及び橋梁材をも包含して木質の儘使用するもの年額六千萬石であるが、驚く勿れ薪とし木炭として浪費するもの年額八千二百萬石餘に及び恰も用材とも四對六の關係にあるのである。しかも建築材の如きは立木より五歩止りの使用量率を得るに拘らず、木炭の如き僅かに一歩五厘しか止まらぬのである。建築に使用してさへ伐採立木の半分は直接われ〳〵の爲めと成るのに、木炭は僅かに五分の一にも當らぬのだ。

九

薪を焚き木炭を焚く事の不經濟で、時には食糧問題より以上に重大な問題として研究もせられたが、われ〳〵はしかも此不經濟を知りつゝ尚ほ薪を求め木炭を需ねばならぬ。十石の木材が一石五斗に煎じ詰められた木炭を焚いて、果してわれ〳〵はこの貴重なる燃料を焚いた有難い効果を得つゝあるであらうか、薪は半分以上煙となつて空へ上るし、木炭は焚いても焚いても暖かくは成れないではないか。

外國人は冬になると、大概の寒い國にあつても仕事の能率が上る、日本はそれと反對に寒ければ寒い程ぐん〳〵降下する。これは尤な次第である、外國は屋外は寒むくても室内は春のやうに暖かだ、日本は冬になると内も外も非常に寒むい、事務室へ火鉢を運んで手を出すのも忌や〳〵仕事をやつてゐるのだから能率が上る筈がない。即ち日本の家は寒むい、そして夏になるとまた正反對に馬鹿に暑い。

この問題の解決はやがて薪炭問題を解決するのであるが、之れは云迄もなく家屋の建築が悪いのである。

一〇

日本の家屋は第一に餘りに屋の内と外との差別が無さすぎるやうである。そしてまたわれ〳〵の古くからの生活もそうした具合であるのだが、此處を建築家諸氏に大いに考へていたゞきたいのである。日本家屋は家屋として、も少し外界との區分をはつきりし——と云つた處で塀を周らす事や、窓を少くするといふ意味ではないのである——も少し家屋の内壁を厚くして外界の氣温が、現在の如く羽目板一枚を透してぐん〳〵と室内へ感せぬやうには出來ないものか、御承知の通り外國では酷暑のお晝頃には窓をぴつしやり閉めて室内にゐると大層涼しい、丁度日本の土藏へ入ると涼しいやうなものである、この方法を、日本建築は建築として何とか應用する工夫は無いものか。

先づ此研究は第二として、われ〳〵が木材一歩五厘止りといふ此上ない贅澤な木炭を焚かねばならず、冬になつて非常に寒むいのは暖房の裝置が頗る非文明にして不發達だからである。家屋の構造と此暖房の研究が完全になれば、われ〳〵は木炭を極度に節約し、而かも全能力を擧げることが出來るのである。これは日本の如く寒むい國殊に東北地方などの開發には實に重大なる効果があるのである。一方出づるを制し、一方得るをヨリ以上に得るし、且つその制されたる木材は他に利用されて國家百年の基となるのである。私は呉々も建築家諸氏に對つて『木炭を焚かなくとも良いやうな暖房裝置を有する建築を欲しい』とお願して置く者である。

一一

木造建築物の特種なものは自から別箇の問題だが只茲に住宅建築に對して木材利用乃至經濟の上から私は豫ねて組立家屋を力說して來た。われ〳〵の如く自分勝手な色々な家を建てる者は世界でも少ない位だが、從つて都市計畫に於ても町並が不揃になつたり、どうも甘く行かない。それ許りで無く坪二百圓だ三百圓だと住宅の建築にかゝるやうでは、われ〳〵は——少なくとも中產階級以下の者は本當の自分の家といふものを購ふ事は容易でない、一生借家住ひを爲て不滿不便を忍んで世を送つて仕舞ふ。

寸法の一定しない建物を、大工が來て木を買つてこつ〳〵と建て上げるのだから、その間に非常な手間がかゝり、殊に近頃の樣に大工が來ても、働きに來てゐるのか煙草を喫みに來てゐるか解らぬやうな時では、其手間代許りも大變な無駄が附添ふし、しかも斯うして出來上る高價なる家も西洋から見れば殆んど家といふよりはバラックとでも云はれそうなものだ。

茲で一號二號といふやうな、家族の多少に標準を置いた組立式の家屋を、ある大規模な方法で一度に何百軒となく造るとなれば木材の利用が完全に行くし、色々な機械力等も利用が出來るから、安價にして理想的な物が得られる事に成るのである。

要するに私は結論として、木造住宅は、少なくも、土臺、板塀、板敷、羽目板には防腐料を注入した組立式が良いといふのである。最近米國から幾組かの家屋が輸入されると聞いたが、これは必ずやわれ〳〵に敎ふる處の多くのものを有つてゐるのであらうと思ふ。

——談。文責在記者——

道路の整理と路面の改修

大阪土木建築業組合
常任評議員　山本辰五郎

文化的に都市を改造し、理想的都市建設の實現を圖らむとする都市畫事業は今や方に實行の急に迫まられてゐる、就中、道路改修の如き最も急を要すべきものである。東洋のマンチエスター世界的都市として自負せんとする大大阪の道路や如何、大阪市内各道路接及續町村の道路整理、路面改修は愈焦眉の問題となつてゐる。

過日、内務省に於て開催せられたる都市計畫中央委員會決議の大阪市都市計畫案を覽るに、道路の整理及路面改修は同決定案に現はれたるものゝみにて未だ充分と謂ふべきであるまい。

勿論、順次に整理及改修を施すものとせんが、想ふに、都市計畫は國家百年の大事業にして最も愼重を要すべしと雖も大阪市が都市計畫を論議するや既に久し、然るに未だ實行に至らざるは、日暮れて途遠しの感なしとせず。抑も、道路整理及路面改修の如きは、市區計畫の實行と共に着手せざるとも、常に改修保護を施すべきものである。偉大なる富の所有者を以て矜る大阪市、社會政策の進歩を以て任する大阪市が、經濟上の主要機關にして人文の命脈たる道路問題を恰も對岸の火災視せんとするは開處に大なる矛盾を感ずるのである。これを府市當局に愬へんか當局は必ず財源難を唯一の遁辭とせむ。試みに其財源を得るに難しとせんか、それ故に荒廢せんとする道路改修を全ふし能はざるとは

餘りに愛市的感念の薄弱なるものと云ふべく、偉大なる富を殖り社會政策の進歩し居るものにして、道路改修に意を須ひざらんとせば其根末の矛盾を嗤ふべし。

※

大阪市が經濟的都市たる上は交通の頻繁車馬の往復は當然のことにして、從つて道路荒廢し非衞生的に失するは自然の結果であらねばならぬ。故に大阪市の如き經濟的都市にありては常に道路改修に意を須ひざる可らざるや論ずるまでもなし。然るに府市共に改修保護を充分に加へざるため今日の如き荒廢を見るに至りしは、經濟的樞要機關の精神上より云ふも亦衞生上より云ふも不忠實の責は免れまい、更に、都市建築の汚損の遠かなるを見るに至つて、之れが改修は刻下の急務と稱すべきである。

※

大阪市の道路は降雨期に到れば泥濘深く、無雜法に駛走する自動車は遠慮なく飛沫を通行人に浴びせ、天候晴れば泥土は直ちに塵埃と化し、砂煙濛々として更に大阪市内何れのルーフガーテンに昇りて市の中空を眺むれば、煙天に沖して大大阪は此恐るべき煤煙に包圍せられつゝあるを知るべく、殊に西北部の煤煙は最も甚だし、是を衞生上其他何れより見るも其蒙るべき弊害や蓋し尠少ならざる狀態にして、大阪市は尙ほ東洋の代表的都市として自負し得るや、試みに、建築士の方々が渾身の力を睹して建設せし立派なる建築物を見よ、建築竣工當時は一異彩を放つてゐるが、幾もなく外觀美を汚損するではないか、這は道路改修の不充分及煤煙防止策の幼稚冷淡とより來る損害に外ならぬのである。故に道路改修の完きを得、併せて工場地域整理と相俟つて、煤煙防止を瞞するの最も社會的に意義あるを忘れてはならぬ。世界の文明國は常に道路改修の爲に多くの費用と勞力とを投じて其及ばざるを畏るゝのである。

北米合衆國は戰後經濟界改造の第一着手として

全國に亘り大道路計畫を樹て、之れが整理改修のため二億弗を支出し、各州亦相當支出を爲し併せて一擧完成を圖らんとする有樣である、斯くの如く世界何れの都市に於ても道路改修に多大の犧牲を拂ひつゝある折柄我國各都市の現狀の餘りに冷淡なるには驚くの外なし。

⁂

凡そ道路の如き何人も其便不便を感する機關の改良は、徹頭徹尾民衆の理解に俟たなくては到底理想的改修は行はれぬ。即ち市民の愛市的感念の向上、都市理解力の進歩に依らなくてはならぬ。それには府市協力一致の下に充分なる意を須ゐざるとせんか、不規則不整理にして路面醜惡を痛切に感ぜじとするも、之が根本的改良費負擔を甘受する氣になれぬが故に財源難を唱つに到るのである。されば大阪市民より口穢く罵らるゝ惡道路改修の要を說き、市民をして愛市的感念の向上を圖り、而して改良費の負擔を理解せしめたならば、敢て財源難を感するまでもあるまい。

⁂

我國の道路は、路面脆弱幅員亦狹少にして且つ曲析甚だしく、之を實質上より見る時は砂利道と稱せんよりも寧ろ砂利着せ土砂道と稱すべく、偶々改修を施すとせば、僅かに砂利をばら撒き、人間はスチームローラーの代りに之が踏み固め役を勤めてゐるやうである。這般來朝せしヴアンダーリップ氏の一行は、我國の道路改修即ち砂利撒きを目擊し、道路築造の下拵へかと質問したとのことである。

⁂

過般東京市道路問題の如き其一例を示すものにして、東京市の道路大破し市理事者は徒に計畫にのみ追はれ實行の日の何時なるかを疑はるゝ時も時、波多野宮相より田尻市長に出頭方を促し來り、斯は畏き邊にて特別の思召に依り市道路費補助として御內帑金三百萬圓を御下賜あらせらるゝ旨御沙汰ありて、市長は恐懼措く能はず拜受し、宮相よりは市の惡路を一方ならず御軫念あらせられ給ふ旨申添たれば市長は極力

改修に努めて大御心に副ひ奉るべき旨拝答したのである。東京市は只一日も早く之が改良計畫を確立し其實行に着手することが市の執るべき途であろう。斯くて東京市は根本的に改良を加ふべしと云へば、其改良を全國各都市の參考に示すべき方針に出て欲しい。而して、今、東京市の改修案に現れたる路面の構造設計を覽るに、鋪木造は一部重要なる路線に止め、其他はアスファルト道、石塊鋪道、セメントコンクリート道となす豫定にして、市が明治四十三年以來市内重要路線に試みたる構造設計と異らないやうである。而かも最近各種交通機關の急速なる發達に因り、之等改良路面の被りたる破壞箇處の如何に甚だしきかに想ひ合はせば一種不安の念なきにあらず。この如き設計の下に七ケ年繼續事業として順次改修せんか、未だ全部竣工を告げざる間に最初施工したる箇所は早くも再び改修を要すべき程度の破壞を見るが如き結果を招くやも計り難し。故に、施工設計に就ては更に深重の調査研究を要すべきではあるまいか、東京市は餘程の研究を要するであろう。

⁂

これぞ大阪市に見るも同じく根本的大改修の必要に迫られてゐる。否、寧ろ東京市以上に急を要すべきではあるまいか。故に、大阪市は茲に根本的大方針を樹て、市民の愛市的觀念の向上を圖り、其改修費の負擔を理解せしむると同時に、一方に於ては國庫の補助を仰ぎ、施工設計よろしきを得て、大都市の面目を保つべきことに心すべきではないか。

街路鋪裝

最近メソポタミア研究の示す所に依れば、アッシリアの都會に於いて既に其街路に石を鋪きたる由なるが、テーベーやゼルサレム及び古代希臘の諸市も亦街路鋪石を忽にせざりしと云ふ。されど、道路鋪石の事業として眞に一考の價値あるものはカルセージ人に依り初めて行はる。

都市社會問題としての解放問題

江村郊郎

斯の一編は、わたくしが曩に或る誌上へ發表したるものに係り、今此處に再びすることの要なきに似たるも、必ずしもソウでない。蓋し、社會問題中現在暗雲一過の概ありて殆むど忘れられたるかの觀ある勞働者問題の如きも、其思想の潛流は寧ろ增々強激にして、何れは社會の表面に眞に目醒めたる要求の波濤と成りて滂湃たるの時機必ずしも久遠の將來にあらざるべしと、わたくしは信ずる、而して、之等の社會的問題に就て、わたくしは想ふ、飽迄も宗教に立脚せる至上倫理主義に據らずむば、到底解決の期はなかるべく、即ち社會は有限の物質を相爭ふて其鬪ひは果てしも莫く、斯くて、人は、增々智的にこそ進化を遂げむも、至上倫理の觀念は地を拂つて、世は、ウェリントンの所謂『伎倆あるサタン』の巷と化せむと。而して其中心は、實に、所謂都市社會問題である。わたくしは、斯の見地を高調せん爲讀者の範圍を異にせる本誌を藉りて、再びわたくしの所思を江湖に質さんとするのである。

□吾人の命題

近時、思想上の問題としても又直接行動の上に於ても、漸く要求の强激ならむとする處の、所謂「解放」なる問題は、主として、資本主義に對する勞働者の叫びに在るが如かりしも、斯の問題は單り勞働者の夫れでなくして、實は、曾て、十八世紀末葉以來に於ける處の、稍や極端

に趨らむとせし唯心主義の反動として、唯物主義が社會の上下を浸して滂湃たりしが如く、今や物質偏重の弊を馴致せし物質文明の病弊に惱める人心は、漸く現代の物質文明の虜より脫れむとする自覺の叫びである。故に、解放といふ事は現代社會の凡ゆる方面を通じての問題であつて、之を概觀せば、實に政治上の問題であり敎育上の問題であり、藝術上の問題であり、社會組織の問題であり、而して更に經濟の問題であり、ひいては宗敎上の問題である。而してわたくしは、今之等の凡てを通じて命題を取扱はむとするのでなく、今日の所謂社會問題殊に勞働者問題と宗敎に立脚せる至上倫理主義との關係を攷へてみたいのである。

□機會均等主義

元來、私共が社會的生活を爲すに就ては、其生活手段に於て、何人と雖も其手段を獲得し運用する上に、所謂機會均等の權利を有たなければならぬ。何故ならば、社會組織に依りて生活上の幸福を享有するといふ事は、社會組織の目的が共同の幸福といふ上にあるからである。共同といふからには、其處に不均等な關係を意味しない。例へば、或物を二人以上が共同に所有するといふ事は、實際に於て其所有部分の意識的に劃定されてあつても、物全體として見れば其物の各部分は各自の所有であると同時に、各自は其全體の所有者である、即ち互に其物に對する目的が不可分なるが故である。されば社會組織の目的が共同の福祉といふ事に在るのが謬りでなくば、其社會組織の一員たる各自は互ひに不可分の共同目的を有してゐるのであるから斯の目的に向つて爲さるゝ處の生活手段なるものは亦各自の均等に有する處でなくてはならぬ維れ、わたくしが、生活手段の機會均等といふ所以である。

□平等と衡平

わたくしは想ふ、社會主義者等の所謂生活上の『平等』と云ひ或は『衡平』と稱するは、畢竟斯

の生活手段の機會均等の意義に外ならぬと。何故ならば、奈何にバブーフだの、サンシモンだのフーリエだの、カベーだのといふようなマルクス氏以前の所謂空想的社會主義者と雖も、字義通りな『平等』といふ事は眞に意識してゐなかつたであらうと想ふ。蓋し、各人の資性や、教育や、境遇や、乃至は、健康其他の凡ゆる關係に於て事實は皆不平等である。恰も數學者が、甲と乙の同數なる場合に、「同じ」といふ熟語を使ふの意義を成さゞるを事を指摘して、奈何なる場合でも、「等し」といふ熟語を使はしむる如く、實際宇宙の萬象は「同じ」でなく、皆、「等しい」場合があり得るのみである、即ち、「同じ」からざる以上は、其内容に於て平等でないと云ひ得る。

□生活の目的

又、生活なるものは、生活其ものが目的でなくして、所詮は、或ものに到達するの手段であり、又、あらねばならぬ。或ものとは、之を抽象的に云ふならば、即ち、最上の幸福を享感せむとする努力である、とも云ひ得る。而して、之を宗教的に云ふならば、即ち我等の全人格の完成に到達せむが爲である、とも云ひ得られるされど其所謂最上の幸福と感せらるゝ事は、勿論主觀的なものであつて、人々に依り其觀念を異にしてゐる。是は、縷く申す迄もなく、各人が日常に經驗してゐる處の事實である。更に、亦、所謂全人格の完成と云ふも、人々によりて是に到るの途を異にしてゐる。例へば、等しく神を認むるも、狹義の宗教家として是に到る者藝術家として達する者或は教育家として進む者若くは、思索家として到る者。其他、曰く何と

□權利と機會均等主義

斯くの如く、人々によりて、生活が異り手段が等しくない故に、「平等」又は「衡平」といふ事は、生活手段に於ける機會の均等なりといふのである。恰も國法上の「權利」なるものは、今日の法治國として、何れの邦に於ても法律上の人格即ち享有資格は平等に認めあるも、其は、各

人の行使に一任して、國家としては、勿論之が行使を強要せない、謂はゞ、其機會を均等に各人の前に置かれてある。然るに、其實際は、之を行使する者と行使せざる者又は爲し得ざる者との間には、極めて不平等な關係が在存してゐるに等しい。

□思想の流れ

今日の社會主義的思想殊に勞働者問題の根底を培ふ處の思想は、實に、斯の生活手段の機會均等主義に出發してゐるのである。而して、夫れ等社會主義的問題は、畢竟、經濟問題なる形套を有してゐるけれども、其淵源に到りては、遠く十六七世紀頃の所謂「權利哲學」の思想に在る。即ち、斯の權利哲學なる水源が、發しては政治上の革命と成り、岐れては、竟に如今の經濟的社會問題の流れと成つたのである。即ち、其流れは幾等分岐しても、若も之が杜塞の愚を學ばゞ、竟に巖をも抜き千仞の堤をも決せずんば止まざる底な可能性を有せる處の滔々たる流れ其ものは異らない。

□權利哲學

而して、其所謂「權利哲學」とは、スタイン氏の「佛蘭西革命史論」に據ると、ヴォルフ氏の說明を引いて、斯ういふてゐる。(—は記者が勝手に付したのである)

『人類は、凡て自然の狀態に在り、此の自然の狀態にては、自由と平等との權利、どうしても人類が使はなければならぬ凡ての事物に對する權利、他から侵害せられざる權利、及び神を自由に禮拜する權利が行はれた、自然の狀にては、凡ての人類が平等である、奈何となれば、其本質(自然、ナチユラー、換言せば、人格の概念)上奈何なる人に對しても、他の者よりは大なる權利は存在しない、奈何なる人にても、他の人よりもヨリ大なる義務はない、奈何なる人にも他の者に優つた特權が與へらるゝといふ事はない、之が自然の狀態である」と。

ヴォルフ氏の本思は什うであつたにしても、

わたくしは、ヴォルフ氏の所謂自然とは、神の創造（勿論唯一の神の創造）を指したもので、人類は其自然界を組織せる一經緯である事と、其所謂自由と平等とは、わたくしの所謂生活手段の機會均等と解したい。ヴォルフ氏は亦曰く。

『若し夫れ人類が其本來の狀態を持續したならば、凡ての者に共通なる平等が依然として存在したであらう——、然るに、彼等が本來の狀態より脫け出でてより、權利も義務も不平等となつた、そして、「財產と國權との起原」は實に此に在る』と。

□我等の自由

此處に「本來の狀態」と云ひ、又は「自然の狀態」といふ事、わたくしは「神の創造し給ひ與へ給ふた儘の狀態」を指すと解し度い。而して一面に於て、神は我等に自由を與へ給ふた、即ち、此の自然の狀態を奈何に爲すべきかの自由否な、之を善用するの自由を與へ給ふた、然らずむば、我等は本能的に善を慕ひ、美に憧憬する事の無意義であると同時に、最早我等は一とつの無機物即ち一種の機械觀に陷らねばならぬ是は、哲學も何も要つたものでなく、卒直に我等の良心に質さば、「汝は到底耐へ得ない事である」と叫ぶであらう。

□自然の狀態

然るに、我々は、ヴォルフ氏の云つた如く、不幸にも、進むべき軌道を外れ荊棘の中に歩み入つて「此の自然の狀態より脫け出た」ため、茲に「權利も義務も不平等」となつた、云ひ換ゆれば生活手段の機會均等といふ事を打ち壞し又は制限した。是は今日の社會生活に於ける資本主義的侵略に對する勞働者の反抗も其一とつであつて、其叫びは、所詮、斯る自然の狀態即ち神より與へられた軌道に引き戻す事である。單り是許りではない、凡ての社會問題も、要するに斯の自然の關係に恢復する事が問題の中心目的でなければならぬ。

□均等に置かれたる幸福

而して、斯の自然の狀態に復するのは、今日の立憲政治の制度に於て見るが如き、所謂最大多數者の最大幸福を意味するのではない、繰返す迄もなく、個人の價値は、自然に於て何人も等しいのである、各自の獲むとする幸福は異つてゐても、之を獲取し得べき機會は何人の前にも均等に置かれねばならぬ、即ち、神は天物を何人の上にも賜つて、之に手を觸るゝの機會を誰れにも均等に與へられてあると等しからねばならぬ。

□人心は餘程醒た

前にも一言せるが如く、近代に於て人心は餘程醒めて來た、即ち、物質文明の所産たる個人價値の沒却に對して醒めて來た、されば、從來單に「物の生産、分配、消費の學」としか解せられずして、或時代の如き、經濟價値を多からしむる爲には消費を奬勵する結果物の盜奪行爲も、經濟學上消費說として憶面もなく肯定された時すらあつた。

□ハルデーン・スミス氏

併し乍ら、人心の反動は、斯る經濟學說の上にも及ぼして、近時、倫理主義の經濟學が段々唱へられるようになつたが、就中、ジエー、ハルデーン、スミス氏は、其著「エコノミック、モオラリズム」に於て、斯う說いてゐる。

(一は、わたくしが附け加へた)

「道德の自明の目的は、人類の幸福である。人類の幸福は倫理的目的であつて、各人又個々の幸福を獲得する爲めには、平等の機會を有するのが至當である。人類の幸福と云つても自己一人の幸福ではない、又他人の幸福でもない、最大多數の最大幸福でもない、公平に分配せられたる幸福即ち是である。爰に至つて、自己と他人と孰れが比較的大切であるか自己は如何なる程度まで從屬的たらしむべきかといふ點に歸するのである。是が即ち倫理の中心問題である」

と 而して、氏は、幸福に到達の手段奈何、眞

の幸福とは何か、といふような問題を取扱つた後、更に曰く。

「人は必ずしも皆同一に造られては居らぬ、皆趣味を異にし、各自特異の幸福を求むる、此れ故に、幸福の追求は、之を個人〳〵の隨意に一任して置かねばならぬ云々」

□幸福の競合

即ち、氏は、最大多數者の最大幸福でなく、公平に分配されたる幸福なる事を云ひ、之に對して平等の機會を有せしむる事を主張してゐる是れ、わたくしの所謂生活手段の機會均等と同意義である。而して、氏は、自己と他人の幸福が競合した場合に、自己は奈何なる程度まで從屬的たらしむべきか、といふ事を問題としてゐるが、是が即ちわたくしの本編に於て攻究せむとする中心思想の一織節であつて、此處に一言にして云はゞ、基督は之等の問題に就て、聖書中既に幾多の解決を示されてゐる。

□新カント主義

斯くの如くハ氏は、各自の個人價値は皆等しいものであるが故に、最大多數者の最大幸福即ち其蔭には不遇、困窮、薄幸の人達を見るが如き幸福が人類の目的でなく、實に公平に分配された處の、即ち何人も適當な慾求と合理な努力に藉りて自由に獲得し得べく分配された處の幸福でなければならぬことを曰へるが、是は、近來所謂新カント主義に於ても今更高調さるゝ處の、彼の有名な「斷言的命令の立言」即ち「汝は汝の人格に於ても、又各々の他人の人格に於ても、決して單に手段としてでなく、常に同樣に目的として人間を用ゆる樣に行爲せよ」と曰へる斯の哲學思想に於ても、等しく之を裏書してゐる。

□平等價値の觀念

即ち、各自は奈何なる人でも夫れ自身が目的として存在するのであつて、他人の手段に供せらるべき「物」でなく「道具」でなく、實に「人格」である、而して、此の人間自己目的の原理こそ

各個人の自由に對する最上な制限的條件でなければならぬ、といふ點である。わたくしが、上述の如く、生活手段の機會が均等に各自の前に置かれなければならぬといふのは、畢竟「各自は夫れ自身が目的」である、といふ平等價値の觀念に出發してゐるのである。——つまらない事かも知らぬが思はず長くなつた、わたくしは、歸結に到達する順序として茲に問題を一轉し度い。

□平等價値の叫び

前にも云つた如く、今日吾々の社會的生活は種々なる不合理な人爲的干渉や壓迫や制限が行はれて、我等は、ヴォルフの所謂「自然より脫れ」て、其處に各自は生活上極めて不平等な不均衡な關係を生じ、ヴォルフの所謂「本質」（自然、即ち人格の概念（に對して、之を沒却さるゝの極めて不自然な狀態を生じて來た。されば今日の勞動者問題なるものも、其根低に於ては斯くの如く、「我々の社會生活を自然に恢復せしめよ」との要求である。云ひ換へたならば、資本主義の侵略に依つて奪はれし處の、生活手段を獲得する機會の極めて不均等なのに對して、之を自然の儘なる即ち人格的平等價値の儘なる關係に引き戻せよとの叫びある。

□勞働者問題の極致

而して、歐米に於ける勞働者問題の現狀は、賃金問題や時間問題抔は既に往ける處の過程となりて、今や遂に產業支配の要求と成つた、即ち、社會主義者の所謂「生存權」や「勞働權」の問題は夙くに通り越して、所謂「勞働全收權」を、モ一つ擴張したる處の產業支配權を獲得することが其中心目標と成つた。

顧みて、我邦に於ける勞働問題は、恰當、我物質文明が、歐洲幾百年の文明を僅かに五十年足らずで受け入れた如くに、英吉利杯の類る古き慘鬪的歷史と訓練によつて獲た處の勞働者問題を、僅に兩三年にして、賃金問題より時間問題に進み、而して、普選問題が主もに勞働者達の階級によつて唱へらるゝを見ば、今や我勞働

者達――と云つても果して爾く包括的に云ふべき程我勞働者階級の輿論であるや否やは問題であるけれども――一轉して英吉利の如く政治問題にまで進むだ、蓋し、眞に彼程な進歩ありとせば、幷は奇蹟的驚歎に値ひせざるを得ない。幷は兎も角として、就れは、我邦に於ける勞働者問題も、歐羅巴の如くに、所謂「勞働全収權」の意義を擴張した處の産業支配權の要求にまで進むべきは勿論必然な過程であらうと想ふ。

□寡頭政治の出現

けれども、此處に問題となるは、斯くて彼の人達は眞に自他共に其解放即ち自由を穫てカントの所謂「個人の價値を認め」ヴオルフの所謂「自然の狀態」に復して、茲に黄金郷を現出し得べきや、わたくしをして云はしむれば、蓋し大なる疑問たらざるを得ない。

惟ふに、今日の立憲政治は、所謂デモのクラシーであるけれとも、誰やらが謂つたように、實は寡頭政治で、之が完全に行はるゝ間は、專制政治の善政こそ政治の理想に庶幾きが如くに其處に何等の問題は起らないが、然らざる場合に於ては、專制政治の最も悪政なるが如くに、立憲政治は其實際に於て之と障子一枚の差あるに過ぎない。即ち、民衆の政治でなく、實は得て或階級者の政治となる。

之を産業的に觀ても、恰も立憲政治が却つて寡頭政治なる一種の專制の弊に陷る如くに、今日の勞働者問題が其究極の目的たる産業支配權を獲得し、即ち資本主義の天下に取つて代つたとしても、わたくしは想ふ、資本主義的壓迫に代ふるに「勞働者」階級といふ處の茲に一種の寡頭政治が出現しはせないであらうかと、即ち恰も暴君チロを虐王桀紂に代ふるの結果に過ぎはしないかと想ふ。

□抗爭は果してもない

蓋し、往昔、佛蘭西革命は、實に貴族及僧侶輩に對する庶民階級の抗爭に成つたのであつたが、政治上の平等を獲得し、ヴオルフの所謂

「自然の狀態」に歸らしめて黃金鄕を夢想した斯の庶民階級は、實に、今日の勞働者に向つて暴君的君臨せる處の資本階級となつたのである。斯くの如くに、今日の勞働者が縱し産業界に君臨するとも、天下は決して凡てが「勞働者」ではない、君臨せる「勞働者」は、不遇の昔に在りし依然たる一介の「勞働者」であり得ない。茲に「勞働者」なる厭制者と、更に無產若くは其他の被壓制者たる一階級を生じ、斯くて循環的に其抗爭は果てしもあるまい。

□彼等は「愛」を識るか

蓋し、彼等は、ヴォルフの所謂「自然の狀態」に復すべき自覺を有つてはゐるであらう、併し斯の自覺は、互に相侵さない境界を定めた迄で其處には互に相許すべき互に相與ふべき「愛」なるものがない、即ち權利の自覺は必ずしも愛の內容を有しない。

然らば、「愛」とは何であるか、聖徒パウロは「愛」を說いて、所謂「寬忍」であると謂ふてゐる「他人の益を圖る」といふてゐる、「己の利を求めない」事であるといふてゐる、一言にして竭さば、實に、己れを他人に與ふる事であり、同時に、他人を己れと成すの心である。聖書に「己れの如く其隣りを愛せよ」とは此の事である又、孔子の所謂「己れの欲せざる處を人に施す勿れ」といふ消極的なるに反して、基督は「己れ爲されんことを欲せば先づ之を人に施せ」といふ意味な事を申されてゐるが、是も亦「愛」の一部面である。而して、基督御自身の生涯は、實に、「己れを他人に與ふる」の御生涯であつた

又、聖書に「神は愛なり」とある、即ち、若も神を識らない勞働者達としたならば、其處に眞の愛が有り得よう道理がない、即ち、愛なき處に勞働問題の眞の解決は有り得ない。再び云ふ斯くして、竟に、勞働問題の解決といふ事は、紂王の寶座を奪ふて、予ロが君臨するに過ぎないのである。

□ラツセル氏曰く

近頃我邦でお眤みのベルトランド・ラッセル

氏は、其著「社會改造の原理」に於て、斯ういふ事を書いてゐる。

『極端な個人主義を經て爭鬪にまで發展し夫れから逆戻りして、一新協調に迄復歸するといふ事は、人生の殆んど凡ての部分に於て認められるべき事實である（記者曰ふ、今回の大戰の始まりと其結果に斯の言を引き當て見よ）要求は正義の名を以て提出され而して傳說と固有權利の名を以て反抗さるゝを常とする、双方共勝つことを値すると正直に信じてをる奈何となれば、二種の社會觀が相並んで吾人の胸裡に存じ、而して人々は己れの場合に適する社會を無心にして選び採るに至る。此の戰鬪が甚だ長くして激烈であるので、一切の汎論めいたものは段々と忘却されてしもう、而して最後には獨尊行爲の外は何物も殘らぬのである、故に被壓制者が自由を獲得する時には其以前の壓制者と同じく壓制な者と成る』と。蓋し、わたくしの所思を異曲同音に說明したものと云つて可い。

戸田博士曰く

又戸田海市博士は、

『智識階級の解放』といふ論文中に斯う說かれてゐる。

『今日の物質生活過重思想が一般に是認せらるゝ限りは、仮令今日の資本主義を倒しても、各人各階級の間に於て有限なる物質の分配を爭ふことゝ、此の物質生産に必要なる勞働の負擔を互に他に轉嫁せんと爭ふことゝが、人生の最大問題とせられ（――）之が爲に國内に於ては有力なる生産者又は其團體が今日の有産者に類する專制權を振はんとして社會的鬪爭が繼續せられ（――）人類の共同生活を脅かすことは止まぬであらう』と。是も以て偶々わたくしの所思を類推的に裏書すべく引用する次第である。

わたくしは、此處まで書き來つて最早與へられた余白がない、故に結末を一足飛に急がねばならぬ。されば、社會問題殊に勞働者問題の眞の解決を得て、眞の自由、眞の解放を得むには先づ己れを捨てゝ宗教に立脚せる至上倫理の虜と成り其奴隷とならねばならぬ。即ち、神クリストの愛の囚はれ人となる事である。社會が斯の意義に於ける奴隷化せば、茲に初めて解放の永遠なる黄金鄕を發見し得るのである。斯は現に幾多の基督者は、古往今來皆斯る境地に樂しき無窮の消遙を爲しつゝある。（畢）

かき葉

（一のそ）

日本の道路改善

今日は既に鐵道の時代は過ぎ去れり、元來米國は鐵道事業の最も發達せる國なるも、既に到る處道路修築工事が完成して、乘合自動車を以て旅客及び貨物の輸送をなすに至り、鐵道は殆んど裏なき觀を呈するに至れり。蓋し、道路は何人と雖も必ず使用すべきものにして、道路の善惡に依る經濟上並に趣味上の長短は何人も經驗する處なり元來道路の善惡は運輸に影響し、運輸と物價とは密接なる關係を有するものにして、運輸費用が物價の一大要素たることは疑ひなき處なり。今般大阪市が企圖せる都市計畫案に據れば、大都市の道路として慚しからぬものなるも、其中央は電車道路として使用せらるゝ故に、之を歐米の大都市の道路と比較して效果尠し若し都市計畫が完成せば、或は直ちに此の電車道路は取除くも必要起るに至るならん、大都市に於ける電車の不便を舉ぐれば、(一)一定の線路を專有する事、(二)乘客の上車下車及び停電等機宜の措置に適せざる事等にして、而も危險の多き事も亦大缺點なりと云はざるべからず。是に依て觀るも、都市に於ける電車時代は既に過去に屬すと云ふも、蓋し失當にあらざるべし勿論日本に於ては直ちに電車を廢し得るざるべけんも何れは上述歐米の如くに發達するに至るならんと思惟さるゝが故に、其前提として道路改修工事は最も重要事項なりと云はざるべからざる也。（ソリエールヒル氏談）

歐米の住宅施設

自分は東京近郊に理想的な住宅地を經營する爲過般來各國に於けるそれ等の施設や、住宅設計抔を見て來たが、書籍抔の研究は英吉利が一等よく發達せるに反し、亞米利加は其實際に施設が完備せるに於て勝つてゐる。此の米國流を日本に移すには、之に先ちて根本から改造して、國情の相違點を除く必要がある。即ち米國のように地下交通の發達してゐる都市では、市の中心より住宅地まで僅に十數分にて達し得られるから、其程度に設備もされてゐればそれでも、我東京抔では、日本橋や京橋から郊外に出るに却々容易でない。又日本では庭園家屋を自己の專有にする弊があるから、之等も共同住宅や共同庭園とするが、住宅難は戰後各國共同樣で獨逸では各都市の市役所が住宅配給の機關を作り、住宅の無い人は市役所にさへ申込めば、直ぐ適當な家屋を指定し、其處の家主に對しては强制的に合宿せしめるような遣方である。（東京田園都市株式會社澁澤秀雄氏談）

日本家屋改良方法

今の日本住宅の狀態で推し移りましたならば、百年後又は二百年後には吃度歐米式な住宅に變化すると想ひます。一体日本の住宅は、家として事務的でないから、規律ある簡易生活が出來得ませず、又各室の性質が奈何にも粗雜で、戸締りが不充分でありますから、之れを改善するには、今の處差し詰め二つの方法しかないのです、それは第一に、在來の家屋を根抵として改善を企てます事、第二、歐米の家屋を根抵として之れに改善を加へます事、斯の二者孰れかでありまして有の第一に就ては、先づ、日本家屋の椽側は是非改善したいものです、中には全然椽側を廢すべしといふ人もありますが日本人は昔から庭園を愛するといふ日本古來の風土關係から來たものでありますから廢するのはよくあるまいと思ひます併し、在來の椽側は割合に面積が多く實用懸り贅澤ですから之を利用して南向の椽側をヴエランダ風にして、其處に一室を取るといつた風に進めて行き度いものです。



〔研　究〕

最近避雷針の進歩

（二——本誌第三輯第二號に續く）

京都帝國大學工科大學教授　青柳榮司

（第三）維持及監督

二三。

新設工事及既設避雷裝置の維持は國家の監督を受くる。

二四

(1)、避雷針の新設或は改造の場合には接地線及電極を埋むるに先ちて所轄官廳の指定せる專門家の檢査を受くるを要する。

(2)、工事者は此目的の爲め地方警察官署又は同一の權限を有する他の所轄官廳に向て適當の時期に届出をなさなければならない。

(3)、官廳は工事者に向て實地試驗の期日を通告し及び其立會を命ずる。

(4)、檢査に方り不完全の箇所を發見したるときは工事者は專門家の要求する如く改むることを要する。

(5)、不完全の箇所が除去せられたるときは工事者の負擔に於て再檢査を行ふものとする。

二五

(1)、家屋所有者は其避雷裝置を善良の狀態に於て保持するの義務を有する。

(2)、避雷裝置は官廳にて指定する專門家より定期檢査を受くべきものとする。其期間は五ヶ年を超ゆることを得ない。

(3)、定期檢査は外部に表はれたる部分の檢査のみならず接地の良否を檢査するに特別の注意を拂はなければならない。若し必要と認むるときは接地線及電極を掘出して檢査せなければならない。

(4)、特別の家屋に向ては一層短期間毎に檢査を命することを得る。

(5)、家屋所有者は定期檢査以內に自費を以て官廳の指定せる專門家の檢査を請ふことを得る

二六

(1)、定期檢査に於て容易に除去し難き不完全の箇所を發見したるときは官廳の指定せる專門家は家屋所有者及地方警察官廳又は他の管轄行政廳に對し之を報告することを要する。此場合に於て管轄行政廳は家屋所有者に對し一定の期間內に必要なる改善を命ずる。

(2)、若し檢査の結果工事が命令通り改善せられ居らざることを發見したるときは官廳の指定せる專門家は過失者の負擔に於て地方警察官廳又は上級官廳と共同して不完全の箇所を除去することを要する。

二七

管轄行政廳の必要と認めたる修繕工事費にして落雷に因らざるもの及定期檢査を行ふ爲めに必要なる豫備工事費は家屋所有者の負擔とする

二八

避雷裝置の有無に拘はらず家屋に落雷ありたる場合には家屋所有者は直ちに地方警察官廳に届出づることを要する。此届出を受けたる地方警察官廳は遲滯なく官廳の指定せる專門家に報

知せなければならない。該專門家は直に之を檢査し五日以內に所屬官廳に報告することを要する。

二九

前數條に所謂專門家とは智育的若しくは實際的訓練に依りて其任に適するものと認められたる者、或は避雷針の檢査に關する講習に合格したるものに限るものとする。

三〇

(1)、官廳より監督に命ぜられたる專門家は自から避雷針の建設に從事することを得ない。

(2)、特別の場合に於ては所轄官廳は特別の監督官を置く條件の下に前項の例外を許すことを得る。

三一

(1)、避雷針の工事者が第二十四條に基く改良工事を指定期間に行はず又本法の其他の規定に從はざるときは所轄官廳は當該專門家の申立に依り過料を科することを得る。工事者が再度之を犯すときは一定期間若しくは永久に避雷針の建設を禁止する。

(2)、不十分なる工事を繰返し因て工事を爲すの資格なきものと認むべき者に對しては同樣に亦避雷針の建設を禁止することを得る。

三二

家屋所有者又は建設者と官廳の指定せる專門家との間の爭議は鑑定に基きて必要なるときは所轄上級官廳之を裁決する。

三三

(1)、避雷針の建設を職業とせんとする職工に對しては國家の講習課程を課するものとする。

(2)、若し必要ある場合に於ては第二十九條に所謂避雷針の檢査に從事する專門家の養成の爲め國家的講習を科するものとする。(未完)

♣ ♣ ♣

米國建築視察談（三）

會員　光安梶之助

去る二月十一日日本建築協會に於て爲したる第二回講演の梗概

二　基礎工事

二階建や三階建位の建物ですとたいした重量でもありません結果、大抵の地盤に對し殆んど無沈下に均しい程度の沈下ですから、多くの場合地盤は無變形と云ふ考へのもとに基礎工事の設計がされる樣でありますが、七八階とか十五六階とか云ふ相當高き建築になりますと、重量が大分增へますし、相當の堅層でない限り大低の地盤は多少の沈下は止を得ざることとなりますもとより沈下のない方がよいとは勿論でありますから、建物の重量をできるだけ輕減する方法を講せねばなりません、また前回プランニングに就て御話致しました時に一寸申しました通り建物の重量を集中せないで成可く敷地全面に之を分布する樣心懸ねばなりません、前者に對してはカーテンウォール等の方法により壁厚を薄くしまして側壁の目方を減じ、間仕切壁をなるべく重量の輕き材料で構造いたします、之れは壁自身の重量が輕くなることはやがて其の壁を支持する床も輕くてすむことになります、夫から床の上に載る活荷重を實際に近い程度に成可く輕く採るといふことが色々の方面から必要であります、此の活荷重を差支へ無き限りできるだけ少なく採ると云ふとは、床の構造や柱の大さや基礎工事の大小にまでも影響しまして工費の節約に大關係があるのみならず、高層建築の基礎工事に對し重要なる關係があります、各種の建物に對し何程の活荷重を採るべきかは、十分なる研究を遂げ、最も適當なる量を採用したいもの

だと思ひます。

シカゴ市に於ける活荷重の遞減表

階數……10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
10……85 パセント									
9……80	85								
8……75	80	85							
7……70	75	80	85						
6……65	70	75	80	85					
5……	60	65	70	75	80	85			
4……	55	60	65	70	75	80	85		
3……	50	55	60	65	70	75	80	85	
2……	50	50	55	60	65	70	75	80	85
1……	50	50	50	55	60	65	70	75	80 85

いま事務所建築について、ニューヨークでは平方呎に付き活荷重六十斤以上でありまして、五階以上の建物では適用せる活荷重の五パーセントづゝを階を下る毎に減じ、五十パセント即ち半分になるまで減じ得るとし、此の合計と死荷重との總計を以て基礎工事の大さを定めますが、建物各部分の基礎大さの割合は死荷重のみで計算致します。

シカゴ市では活荷重を平方呎に付き五十斤以上とし、適用せる活荷重の八十五パセントを次階の柱につたふるものとし、階を下る毎に五パセントづゝを減じ、五十パセントになるまで減じまして、夫以下は、五十パセントで繼續いたします、此の減ぜられたる各階の活荷重の合計と死荷重との總合計を以て基礎の大さを決定致しますが、ケーソン地形でケーソンの面積と抗打地形に於ける抗の數は只今の減ぜられたる活荷重の二分の一と死荷重との總合計を以て決定致します。

往年地震の慘害を蒙りました桑港では平方呎毎の床上の活荷重は六十斤以上でありますが、適用せられたる活荷重の六割と死荷重との總計を以て基礎の大さを決定致します。

此のやうに、尚ほ、此の他にも、活荷重の減少方法が色々ありますが、基礎設計方法にも種々あるやうであります。

一　死荷重＋減活荷重　にて基礎大さ決定

但しケーソンの面積と抗の數は

死荷重＋減活荷重／2　にて決定

2　死荷重＋減活荷重／2　にて基礎大さ決定

3　死荷重のみにて基礎大さの割合を決定

但し死荷重と減活荷重の總計は地盤又は杭等の耐力の合計を超過せざること

4　死荷重＋減活荷重／2　にて基礎大さの割合を決定す

但し死荷重と活荷重との總計は地盤又は杭等の耐力の合計を超過せざること

比較的良好なる地盤では2、3の方法もよいですが多くの場合は1、2の方法がよろしいと思ひます。

活重を五十㎏とか六十㎏とか云ふのは要するに床版や床梁の大さ計算に適用する標準數でありまして、事務所杯では實際に夫れだけの荷重が載荷せらるゝ譯ではないのですから、其の内の或る部分が基礎に傳達せらるゝものと考へればよいのであります、それでは其の或る部分とは大約何程位のものかと言ひますと、建物の部分によりまして違ひますが事務所などで二三十㎏位に考へれば十分の樣であります、此の實際の活荷重二十㎏とか三十㎏とかゞ基礎に傳るものと考へ之れと死荷重との合計の大小により基礎の大小を定めることが合理であると思ひます、特別の場合は別として、多くの場合活荷重よりも死荷重の方が多いには相違ないが、實際よりも遙に多量の活荷重を想像し之れを基礎に傳へるものとして計算するとは、一見安全なる基礎工事を爲したる如くして却つて種々なる惡結果を來たすことになります。

前にも申しました通り、建物の重量が輕い時は問題はないですが、高さが高くなれば重量を輕くなるやう色々工夫しましてもそれでも相當の重量になります、隨て地盤が甚だしく良好ならざる限り多少の沈下は止を得ざることとなりま

す、此場合實際に遠い活荷重を基礎が負荷するものとして計算設計せられたる時は、死荷重と活荷重との割合如何によりましては、建物の各部分に各異なる沈下を生ぜしめる虞がありますそれが爲め、壁や床に龜裂を生じ、または建物が傾斜することがあります。

たとへば地盤の耐力が略同一なるにも拘らず相當重量ある部分の基礎と、あまり軽軽なき基礎を、車寄とか其他輕量なる部分に施したる爲め、主屋と車寄などの取付に於て裂罅を生ずるのなどは此の好例でありまして、日本家の安普請で、荷持柱の下の地形に比し、床束下の地形が割合によい爲め敷居が中高に反て建具の開閉ができなかつたり、部屋の中央部がムクレ上つたりするのも同一轍であります、かういふことは單に日本家に限らず安普請とばかり限りません亞米利加でも相當なる建物に之と同樣のことがあるとのことであります、そして、それが活荷重の處理法の不備なる建築規則を適用せらるゝ結果であつたさうであります。

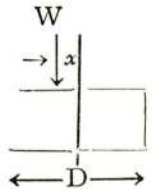
それで地盤のあまりよくない都市に於て高層建築を營むには如何にして建物全部を一樣に沈下せしむるかと云ふことに苦心致します、大分古いことではありますが當今シカゴ市に於ける有名なる建築師某氏が設計せられし或る建物は柱脚と之れを支承する基礎との間に水壓器を裝置し置き、もし建物が不平均沈下を爲したるときは此の水壓器を以て建物を上下げする樣設計してあるとのことであります。

次でまた、離心荷重は嚴に避けねばなりません、止を得ざる場合には適當の方法を講じなければならないことになつていますが、多少の沈下を豫想する時は勿論のこと、たとへ沈下と云ふ程のことでなくとも、荷重の爲め地盤は變形しますから、離心荷重にならない樣に工夫を要します柱の場合ならば基礎の底面をバチ形にすることができますが、それができない時は費用は嵩みますがカンティリバーか、ビームにでもせなければなりますまい、壁体の場合はバチ形と云ふ譯にゆきませぬ故、是非カンティリバーかビーム

と云ふことになります。

離心距離がフーティングの中心より僅かその巾の六分の一程片方に寄りましても其の縁端の下壓力は、中心荷重のときの二倍に達し他方は零になるといふ始末ですが、境界線に近く側壁や柱を竪てたい時兎角離心荷重になりたがります。フーティングの巾は十分だ抔とスマシテ居る譯にゆきません、さりとて、「離心荷重だから十二分の巾にしておけ」と云ふ樣なことで内側にでも巾を増さうものならいよ〳〵結果は悪くなるばかりであります、かういふことをクダ〳〵申しますのは本意ではありませんが止を得ません、離心荷重の爲め生ずる下壓力の増減は、地形の底面が方形なるとき

$$w = \frac{W}{A} \pm \frac{6xW}{BD^2}$$



A は基礎の面積＝B×D
B は基礎の長さ
D は同上の巾
x は離心距離
W は荷重
w は縁端の壓力

今假にBDを各六尺としxを一尺とすれば

$$w = \frac{W}{6\times6} \pm \frac{6\times1\times W}{6\times6\times6} = \frac{W}{36} \pm \frac{W}{36}$$

即ち前に申しました通りの結果であります、地盤の安全耐力が一トンだから三十六トンを支ふる爲め三十六平方尺の基礎にしが離心荷重である爲め片方は其の二倍の二トンとなります、ですから此場合は寧六尺のDを四尺に減じ、中心荷重にしますと平方尺に一トン半になります此方がまだマシでせう。

$$w = \frac{W}{B\times D} = \frac{36}{6\times4} = 1.5$$

木杭の長さ五十尺とか六十尺と云ふやうな長物が頗る廉く得らるゝとは羨望に勘へませんが其載荷力はニューヨークでは二十トン、シカゴでは五千听以上になるとを許しません、木杭の安全載荷力は各位御承知のウェリントンの式で計算致します。

$$P = \frac{2WH}{1+S}$$ ドロツプハンマーを用ゆるとき

$$P = \frac{2WH}{\frac{1}{10}+S}$$ スティームハンマーを用ゆるとき

右の式にて　P　は抗の安全載荷力

W　は分銅の重さ

H　は分銅落下の高さ（呎）

S　は打留の沈下　（吋）

ウ氏の式中には安全率六を含んでいるさうです、序に木杭の載荷力を計算する公式に就き一寸申上げたいと思ひます、ウ氏の式は日本でも大分用ひらるゝ樣になりましたが、前にはサンダーの式が專ら行はれていまして當今でもまだ餘勢を保つているやうであります、私も矢張サ氏の式に據っていましたが、十數年前軟地に行ふ基礎のデザインに際しサ氏式以外の式がみつかりましたので彼之比較して見ますと大分相違がありますから、それから調査して見ますと次ぎ〳〵に色々の式が集まりましたから、是等の諸家の公式は一体ドノ位の差があるかと思い比較して見ますと、別表第一圖の通りであります、原式は安全載荷力のものもあり、極強載荷力のものもありますし、未だその安全率も甲乙各異なつていますので比較の便宜上式の中より安全率を除きましたから、原式とは形が違つているのもあります。

是れによつて見ますと打留の沈下が二吋以上にもなりますと、たいしたこともありませんが、一吋以下でありますと、計算の結果は甲乙丙丁驚くべき差があります、サンダー、ワイズバツハ又は和蘭式と稱するもの、獨乙式と云ふものニストロームなどになりますと、打留の沈下が極小の時は其の載荷力は無窮大であります、サンダーの式は實驗的のものだ、イヤアレハ理論上のものだ」などの論議は暫く無用、兎に角窮大の結果を得る式は都合が惡るい、仍で之等の式を除外し、且つ異なる條件の下に計算しました結果が第二圖表であります、之等は極沈下の少ない場合無窮大にはなりませんが、隨分大きな値を得るのがあります、ベーカー式とラ

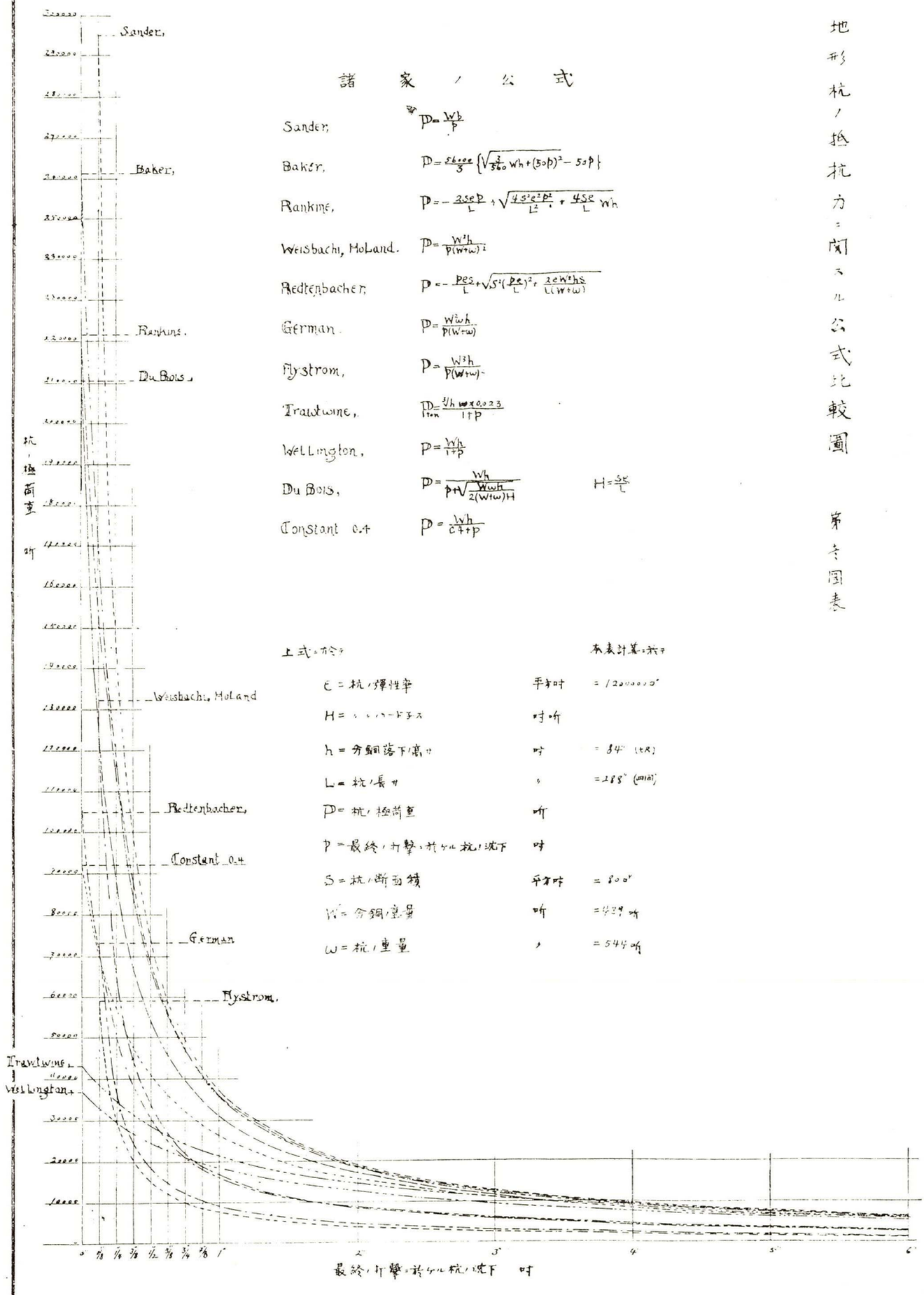
地形杭ノ抵抗力ニ関スル公式比較圖　第壹圖表

諸家ノ公式

Sander,	$P=\frac{Wh}{p}$
Baker,	$P=\frac{36000}{S}\left\{\sqrt{\frac{1}{360}Wh+(30p)^2}-30p\right\}$
Rankine,	$P=-\frac{350p}{L}+\sqrt{\frac{45^2e^2p^2}{L^2}+\frac{45e}{L}Wh}$
Weisbach, HoLand.	$P=\frac{W^2h}{p(W+w)^2}$
Redtenbacher,	$P=-\frac{pe^2}{L}+\sqrt{5^4(\frac{pe}{L})^2+\frac{2eW^2hS}{L(W+w)}}$
German.	$P=\frac{W^2h}{p(W+w)}$
Hystrom,	$P=\frac{W^2h}{p(W+w)}$
Trautwine,	$P=\frac{\sqrt{h}\,W\times0.223}{1+p}$
Wellington,	$P=\frac{Wh}{1+p}$
Du Bois,	$P=\frac{Wh}{p+\sqrt{\frac{Wwh}{2(W+w)H}}}$　　$H=\frac{5E}{L}$
Constant 0.4	$P=\frac{Wh}{0.4+p}$

上式ニ於テ　　本表計算ニ於テ

E＝杭ノ彈性率	平方吋	＝1200000
H＝ハンマーノ落ス	吋呎	
h＝分銅落下ノ高サ	吋	＝84″ (12R)
L＝杭ノ長サ	〃	＝288″ (mid)
P＝杭ノ極荷重	噸	
p＝最終ノ打撃ニ於ケル杭ノ沈下	吋	
S＝杭ノ斷面積	平方吋	＝800″
W＝分銅ノ重量	噸	＝9.39 噸
w＝杭ノ重量	〃	＝5.45 噸



地形杭ノ地杭力ニ関スル公式比較圖

第六圖表

DuBois.

Reber.

Ranking.

Constant 0.5

Redtenbacher.

Constant 0.4

Wellington.

杭ノ極荷重 噸

諸家ノ公式

DuBois.	$P=\frac{Wh}{P+\sqrt{\frac{Wh}{2(W+w)}}}$
Constant 0.5	$P=\frac{Wh}{P+0.5}$
Baker,	$P=-\frac{56ss}{3}\left\{\sqrt{\frac{7}{36}\cdot Wh+(50P)^2}-50P\right\}$
Rankine,	$P=-\frac{AssE}{L}+\sqrt{\frac{2.5s^2s^2E^2}{L^2}+\frac{4.5E}{L}Wh}$
Redtenbacher,	$P=-\frac{Ess}{L}+\sqrt{s^2\left(\frac{Es}{L}\right)^2+\frac{2EW^2hs}{L(W+w)}}$
Constant 0.4	$P=\frac{Wh}{P+0.4}$
Wellington.	$P=\frac{Wh}{P+1.0}$

式ニ於ケル

			水表計算ニ於ケル
E=杭ノ彈性率	平方吋		=12,000,000
M=ハンマーノ重サ	噸		
h=分銅落下ノ高サ	吋		=12"-144"
L=杭ノ長サ	呎		=144" (12'-0")
P=杭ノ極荷重	噸		
p=最終ノ打撃ニ於ケル杭ノ沈下	吋		
S=杭ノ斷面積	平方吋		=420"
W=分銅ノ重量	噸		=8.30噸 (五貫)
w=杭ノ重量	〃		=1.40 〃

最終ノ打撃ニ於ケル杭ノ沈下 吋

ンキン式とが近接せるのみで他は皆格段の差があります、それで此の中一体どれが信頼し得るものであるかと申しますと、荷重試驗の結果はウ式即ちエンヂニアリングニユース式に依る計算の結果に最も近いと云ふことでありますし、私共が行つた二三實驗の結果はウ式計算上のものと約そ半分位であります、隨て安全率が約三と云ふことになります。

ウエリントン式が甚だ貧弱に見ゆるに比し、デュブアやベーカーやランキン、レッテンバッハー諸大家の式が威風堂々たるもの〻如くありて、而かも荷重試驗の結果と甚だしき懸隔があれば、他にモーツ幾多の實驗と理論とに交渉せる的確なる式が發表されざる限り何とも仕方がない故に暫くウエリントンに往かねばなりますまい、ウ式と異曲同巧其の結果に於ても殆んど近接せる他の式は第一圖表の示す通りトウウトワイン式であります。

サンダー式にて計算せる基礎を用ひし建物で今日まで格別の異狀を認めないものがあるのでせうが、それは打留の沈下が多いか、又は安全率が多くなつているか、多分は此の二つの事情を具有するからではないと思ひます。

此の圖表を拵へました後にまだ他に色々の式を得ましたが、その何れもが極小沈下の際無窮大の値を得るも〻〻みでありますので圖表に追加致しません。

それから之等の諸公式の中には同名のォーソリテイーのもので甲乙異なるものがありましたり、指數や係數などの彼之相違しているのがありますので、誤記や印刷の間違と思はるゝものは確らしき方を採りましたが、まだなかには夫等の誤謬が殘つているのがあるかも知れませんからそのとに御考置きを願ひます。

ドロップハンマーを用ゆる時の式は先づウ氏のでよいとしてステイームハンマーを用ゆる際の式は如何のものでありませうか、ステイームが單にハンマーを押揚ぐる時にのみ用ひらるゝのと、ハンマー落下に際し更に之れを押下ぐるにも働くのとは大分エナージーが違ひますから此の二つの異なる場合に同一の式を以て律すると云ふとは少しく不合理でないかと思はれます御覽の通りステイームハンマーの場合の式では

分母の定數が十分ノ一即ち零ポイント一であります、打留の沈下が二吋とか三吋とか云ふ場合はよいですが、八分の一内外の場合にはドーモ具合がよくないやうに思ひます、若し打留の沈下が極小の際分母は一と零ポイント一との割合になりますから、此場合スティームハンマーを用ひたるものはドロップハンマーを用ひたるものゝ十倍の耐力があると云ふことになります、まだ荷重試驗を致しませんので具體的には申されませんが、ドーモ首肯できません、ハンマー落下の高さの關係よりしますればスティームハンマーを用ひた時の方が載荷力大なりと考へられますが、併し此方は割合に重量あるキャップがあり同時に夫れが爲め間接に杭頭を打つことになりますので此の差引をせなければなりませんから、スティームが單にハンマーを上に押揚げる計りに用ひらるゝ時はドーモあの式の通りに考ふることは如何かと思ひます、種々異なる方法色々違つた事情の下に行はれた杭打に對する各の荷重試驗の結果を知ることは有益なことでありますから公益の爲め御報告下さるやう御願いたします。

シカゴ市でコンクリート杭は實際負荷せしめ様と思ふ二倍以上の重量を載せて荷重試驗をいたしまして二十四時間無沈下である時は試驗荷重の二分の一を負荷せしめることができます、尤も沈下の總計はトンにて示す試驗荷重に一吋の百分の一に乘じたる積以内でなければなりません、此の試驗は敷地内の異なる場所で二本以上の杭に就き行ひますが、各箇所には少なくとも杭の最大徑の二倍以内の距離に三本以上を打たなければなりません。

建物の一部が岩石や堅層の上にあつて他の一部がイールドする地盤の上に立ている時はイールドする軟地の方は其の地盤の耐荷力の二分の一以内を負荷せしむるやうにしてある所があります、要するに硬軟其の度を異にしたる地盤に於ては軟地の方の沈下が多いですから、此の方の單位面積の荷重を輕減しまして沈下の差を少なくしようと云ふ譯であります。

此の方法は相當年所を經たる建物に接して增築する家の地形にも應用できることと思ひます、即ち古い建物は或る年月の間に可なり落着いているでせうが、新らしくたてる建物は是から落付くのですから新舊建物の間に沈下の差を生ずることになりますので之れを或る程度まで緩和するには、新らしい方の建物の單位面積の荷重を加減することも一の方法であります。



〔住宅〕

居構百選

（其七）

會員　葛野壯一郎

拾七　小住宅

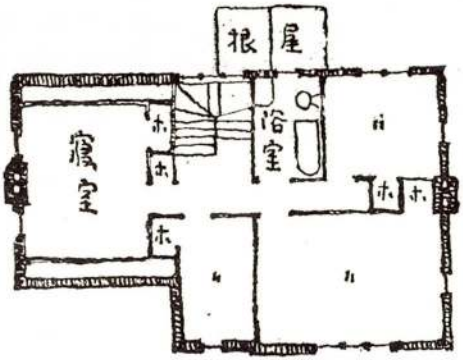
米國紐育市近郊

第拾九圖は米國紐育市近郊フオレストヒル土地建物會社經營家屋設計案の一例で、設計者はエフ、ゼー、スターナー氏で有ります。總建坪廿壹坪、階下は疊敷にすると約拾貳疊敷の客室と約三疊敷のホールと約拾疊敷の食堂及び約六疊敷の臺所、外に階段と配膳室が有ります。階上には大少四間の寢室と浴室が有り、各寢室にはそれ〳〵相當の押入が附いて居ります。小家族の住宅としては手頃で、各室の配置もまことに都合よく出來て居るプランだと思ひます。地下室には裏口から階段裏を降りて行くのと、外部からも直ちに降りられる樣になつて居ります。客室食堂共に大きな暖爐あり、臺所には瓦斯竈流し戸棚、配膳室には大きな食器棚が有り、臺所と食堂及び臺所と裏口の關係が至極便利に出

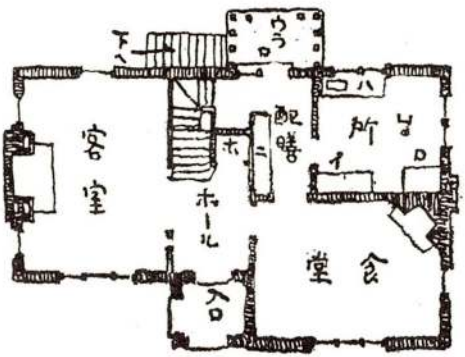
來て居ります。

フオレストヒルは紐育を去る東北約九哩で、汽車なら十三分乃至十五分、往復一ケ月の汽車賃十五圓内外の處で、學校郵便局寺院病院等完備し有名なテニス倶樂部あり中流の年收一萬圓から二萬圓内外の紳士實業家の居住地として最適當な土地だと稱されて居ります。建築の價格は大少により素より相異は有りますが、敷地ぐるみで平均四萬圓乃至七萬圓見當のものだといふ事で有ります。（フオレストヒルガーデンス千九百十三年版）。

第十九圖



上階



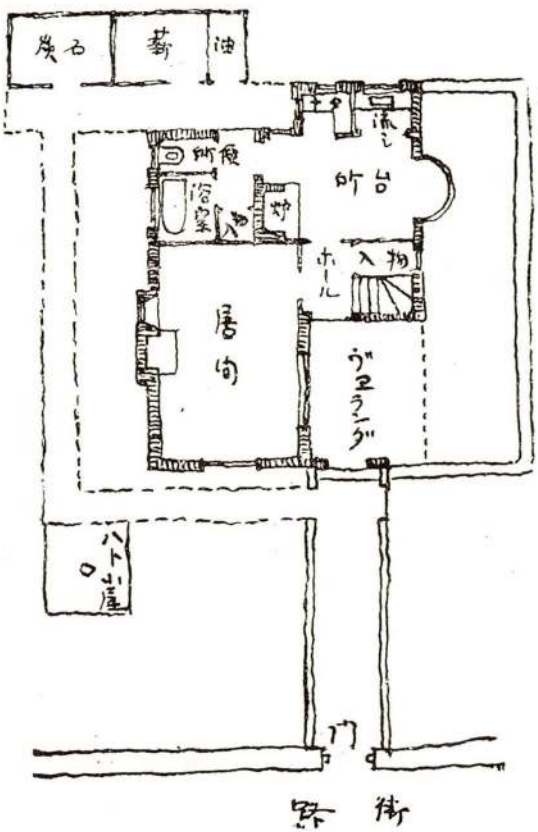
下階

貳拾　コッテージ

英國　プレストウツド

第貳拾圖は英國バツキングハムシヤイア、プレストウツドに於ける少コッテージの一例で、設計者はケンブとハウの兩氏で有ります大サの記入が無いために正確な坪數を知ることは出來ないが大略本家が二十坪内外附屬家が三坪餘位と考へ

て置けばよいで有りませう。明放しの廣やかなヴエランダからホールに入ると右手に階段左手に居間への入口、正面に臺所入口が有つて階段下を物入に利用して居ります。居間の大さは十五疊位も有りませうか、中央に大きな暖炉とスグ其右に氣のきいた小窓をとり反對の側及び前面に大窓が有ります臺所の大さは十疊位もありませうか片隅に大きな炉を設け流し場と食料品棚が一方に並べて置かれ、半圓形の明るい愉快な出窓が片方に突出て居ります。炉の右手に出口あり便所浴室に通じ、浴室脇に小さい押入が有ります。洋風



第二十圖

住宅で便所だの浴室の階下にある例は甚だ稀れで、我邦の狀況と習慣からは此例の如き非常に便利だと感ぜられます。附屬家としては石炭薪及油類の潤澤な物置が設けて有ります。此プランはチルターン丘の打開けた位置にあつて成る可く僕婢を廢する意味で考案されたといふ事で有ります。外壁は色煉瓦と一部堅木の軸建で、屋根はノルフォルク産の褐葺で有ります。正面の左隅にある鳩小屋がコッテー

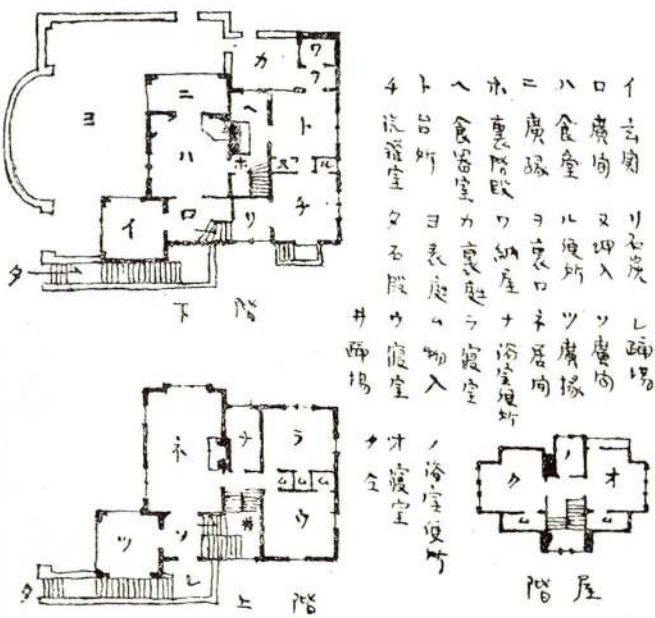
ジの藁屋根と對照して、面白い野趣をそへて居ります。（スダヂオ年鑑、一九一六年版）。

廿壹　中流住宅

米國紐育市近郊

第貳拾壹圖は第拾七と全じくフオレストヒル土地建物會社經營の中流住宅設計案の一ツで、設計者はグロスヴエノル、アツターベリイとジヨーン、エー、トムキンスの兩氏で有ります。記入が無いから正確な建坪を示す事は出來ないが、大略卅五六坪見當の處で、階下と階上に食堂と居間を分けて居るところが變つて居ります（イ）なる廣い玄關から（ロ）のホールに入るとすぐ二階に通ずる表階段あり、左手は入口が有つて（ハ）の食堂に入ります。食堂の廣さは約十二疊敷位のもので右隅に暖炉を置き、是れとシンメトリーに左隅に戸棚を置き中央に出入口が有つて（ニ）の廣椽即ちピアツアに出で、右側の出入口からは（ホ）の裏階段及び（ヘ）の食器室に通じます。食器室からは（ト）の臺所に入り、臺所には（ヌ）の物入と（ル）の便所の間を通つて（チ）の汽罐室及び（リ）の石炭置場に通じ、反對の出

第二十一圖



入口を出れば（ヲ）の裏口（ワ）の納屋（カ）の裏庭に出るので有ります。（カ）の裏庭から（ヨ）の庭

園をめぐつて(タ)に出れば長い石段が有つて、外から直ちに二階へ通ずる様になつて居ります

階上は(タ)の石段を登つて(レ)の踊場から(ソ)の廣間に入ります。階下(ロ)の表階段(ホ)の裏階段何れからしても共通の踊場(ヰ)を通つて階上(ソ)の廣間に出られる此屋内外交通路の配置は特に設計者が苦心をした点だと考へられます。(ソ)の廣間から一方は(ツ)の廣椽、他方は(チ)の居間に通じます。居間の大さは約十六疊敷位に相當し中央に暖炉正面に出窓がありまず。かやうに階下と階上に居間と食堂を分けて置く事が、果して便利だか如何だかは問題で有りますが、此点に於て珍とするに足ると思つて爰に撰出した譯で有ります。居間即ちリヴイングルームが二階にあるために外部から直ちに階上に通ずる(タ)の石段も必要を生ずるので有ります。(チ)の居間から狹い廊下を通じて(ナ)の浴室便所(ラ)と(ウ)の各寢室に入ります。各室には(ム)の物入が有り、また(ヰ)の裏階段を今一ツ登れば屋階即ちアチツク層に通じ、そこにも(オ)と(ク)の二寢室及び(ノ)の浴室便所が有ります。要するに此設計は居間と食堂を階上下に分けて置いたといふ事に特長を有つので、是れは實際使用上の必要といふよりは寧ろ出來るだけ建坪を少さく敷地を節約する意味からでは無いかと思はれます。(フオレストヒルガーデンス千九百十三年版。)

幸牛花

雙鳳嘶飛織錦梭

彩雲深鎖紫皇家

鵲橋一斷銀河隔

遙寄相思夜剪花

新聞記者の見た名士の邸宅 (五)

讀賣新聞記者　梅田孫吾

═中村新宮相邸═

一　廢頽的なペンキの色

寢耳に水とは此事だらふ、豫備中將の中村雄次郎男が突然宮內大臣に任命されたのに吃驚して、四谷南町の邸に訪問しに行つたのは、その日の午前中である。番地が判つてゐても、私の車夫が幾度も近所で訊いては走り、走つては訊くといふ風にして漸く、黑ずんだ赤煉瓦塀を見た位で、隨分やゝこしく曲りくねつた處にある正門の斜向ひには上原參謀總長の邸が見える。

鐵製の大きな扉が西方に開かれてゐて、塀の內部には一帶に玉川砂利が敷詰めて、歩るく度にさく〳〵と氣持の良い音がする。その突當りには玄關隱しの植込があるが、八つ手の大きな葉が一番眼についた、その根方には薄紅色の牡丹が崩れん許りに咲いてゐる。

右側は煉瓦塀、左手は靑竹やすゝ竹で風流めいた內庭の塀で、その塀の外も內も、何かしらこんもりと靑葉が茂つてゐるが、こうした割合には何んと無く蒸し暑いやうな感じのするのは丁度私が行つた時が、暑い最中であつたからでもあらふが、私はその本館洋建のペンキの色が頗る廢頽的であるからであらふと思ふ。

多分薄い茶褐色で塗られてゐたと思ふ。二階木造の洋館で、窓が學校の寄宿舍のやうに並んで見えてゐるので、建物にちつとも品が無い。宮內大臣といふやうな大宮人の住居では無く、矢張り豫備陸軍中將の邸といふ方が適當である

二　扉の硝子へ鏡の樣に

玄關の敷石は相當に廣くとつてあるので、鼻の先きをつかれるやうな心地でベルを押す心配は無かつたが、外が明るいためか、扉の中は眞暗で、私の顏がその硝子へ鏡のやうに映つてゐる。內には一帶に焦茶色のゴムが敷かれて、正面と、左手とか扉、右手は壁で、書生らしい人が正面の扉の前を左右に通つてゐる廊下から左手の扉に沿ふて出て來た處を見ると、家族の人達は左側に住んでゐると見ねる。さてこそ內庭が左側にあるから當然であらふ。

中村男はまだ宮內省から歸らぬといふので、私は邸內の木蔭に休んでその歸邸を待つてゐると、暫くして自動車がきしり込んだ。よくあんな曲りくねつた細そい途を自動車が此門迄來たものだと吃驚してゐると、小急ぎに立ち現れたのは、待つ主人公の新宮相、燕尾服に勳章を光らして流石に嬉しそうな顏付だ。

私は砂利の上へ男と對ひ合つた突立つた。そして殆んど一種の型に嵌つたやうな男の新任談と今後の抱負を訊いた。餘り廣からぬ邸と、癈頽的な色彩とを背景にしたこの新大臣の顏は、どうやら矢張陸軍豫備中將らしかつた。

═平山新赤十字社長邸═

一　山川風致自ら來る

前の石黑社長が辭表を出してから、後任は差當り副社長の平山成信氏と目星をつけて、それを確める爲めに、前後二回と、最近の元老會議の內容の側面觀を聞き度しと一回、都合三回小石川原町の私邸へ氏を訪問した。石の塀を圍して、門の前を大きな深いコンクリートで固めた溝が流れてゐる。

邸宅は大して宏大とは云はれぬが、氏の邸內の廣い事は旣に評判なもので、山川の風致自から迫るといふやうな有樣である。靑葉がこんもりと茂つて、塀の內に先づ小さからぬ一つの雜木の森か出來てゐるのだ。

門を一步踏み入れると、ずつと玄關口迄石疊が敷きつめられて、左右には木が一ばいだから

どんな日中でも涼さが湧いて來るやうな木の下闇、敷石の上へ、葉かげを洩れた日光がさら〳〵と銀の粒でも撒いたやうに落ちて來る。門を入つた左側には、薄黒い小さな家があつて、竹垣の中にまた花など咲いてゐるが、名札には警部補何某とあつたから、請願の代りに何かの縁で置かれるのであらふ。

たゞ一つ第一の印象——門を入る迄の感じを惡るくするのは、溝と門との間、即ち塀の外のちよつと二坪あるか無しと云ふ處で、其處には青一本無く、苔一つなく、薄氣味の惡るい程な赤土が肌を晒らして、日の照る時などはぼが〳〵と土煙が立つてゐる。そして附近の子供達が此土の處へ集つてわい〳〵騒いでゐるのは、内にゐる人達は知らなくとも、外から入つて來る人は驚ろいて仕舞ふ。こゝへ草なり木なりを植ゑられたら——と餘計な事を思つたりした。

二　おもむきある應接室

邸宅は純日本風の、餘りけば〳〵しい物でなく所謂上品な建物で、コンクリートで固めた車寄せも廣いし、扉も幅の廣い、何んと無く親しみがある構ゑだ。玄關を上つて疊敷きの取つつきから右の座敷が八疊敷の應接室で、純日本風になつてゐる。

珍らしい燒物が床の間に飾つてあつたり、古い掛圖が出てゐたりした。支那風の書棚には漢書らしい和綴の本が何十冊か積まれてゐて、紫檀とか黒檀とかいふ種類の木の細工物や何にかの印象は、何んとなくおもむきのあるもので、たゞこの室に西洋臭いものとしては室の左側に大きなピアノが置かれてあることだ。

氏はこのピアノの前へきちんと座つて、絶えず笑ひ乍ら話をする、落付いた親しそうな應接振りで、質問すると何んでも話して呉れるが、『これは斯樣なつてゐるのだが、新聞に書かれては誰々が困るから書かぬやうに』といふやうな具合で、われ〳〵の仕事をよく理解してゐて呉れるのが嬉しい人である。

われ〳〵は妙に隱し立てをする人に對しては

あらゆる方面から研究して、物によつては其人の迷惑などは關せずに書いて終ふ事もあるが、平山氏のやうによく解つた人に會うと、仕事を離れた本當の人情味が出て、誰かに――少なくとも善人に都合の惡いやうな事は書けなく成る。此邊に矢張り悧巧な人の呼吸お見えるやうだ。

三　總體的に良い感じだ

此八疊の應接室は、云はゞ内輪の者に會う處で此外に公式の應接室があるだらふと想ふ、何故なれば餘りに打碎けてゐるし、純日本風といふ事が氏のやうに内外に交際の多い人にとつて甚だ不便利な事が多からふと思ふからである。

此室に座つて話をしてゐると椽側の硝子戸越しに庭が見わたされる、色々な花が咲いてゐるゝ迫るやうな森の色で、東京市中にある家のやうには思はれない位である。要するに總体的に感じの良い邸だ。そして何處を見ても少しも派出な處の無いのが殊に良い感じを與へるし、濶るやうな綠の色を飽迄邸宅の周圍へ取入れた事がまた一層に良い感じを與へるやふである。

═大山公爵邸═

一　西洋の名畫のやうだ

青山隱田の名物となつてゐる大山柏公爵邸は如何にも評判通りに素破らしいものである。先嚴元帥があの舊弊な武骨一遍でこの堂々たる西洋館に住んでゐたかと思ふと一寸妙な感じがする位だ、勿論此邸宅の建築は日本最初のハイカラ夫人として知られた例の小説不如歸の憎まれ役のモデルと評される捨松夫人の權力の一表現とも見らるべく、赤煉瓦の二階造りで、先づこの中に日本人が住んでゐやうとは思はれない、どんな西洋風の建物でも日本人の邸宅は、何處かに日本人臭い香がするものだが、公爵邸だけは何處から見ても純西洋人の家である。

しかも先公爵時代のものだから空を衝くやうなとげ〳〵とした古い樣式によつてゐるので、

西洋の名畫にでも現れてゐる邸のやうな感じがする。玄關は四坪許りもあるやうだが、左右から階段を五つも登るやうになつてゐて、二階のバルコニーがその屋根になつてゐる。

天井から薄い海老茶色の硝子質で出來てゐる燈籠風の灯籠が下つてゐて、ます〳〵古い時代の羅馬の榮華といふやうな聯想を湧かせて來る

二　金の色輝やく應接室

扉の中は西洋建によくある室でもあり廊下でもあるといふやうに出來てゐて、右手に飾陶器を上り口に敷いた廣い堂々たる梯子段、正面に扉が見え、左側に眞中に美しい煖爐の口を見せた二つの扉は何れも應接室である、高い天井室内の裝飾、實に眼もさめる許りだ。

應接室は廣い二間を打通し、それに一寸丸形の一室が加はつて成つてゐるが、室の周圍に殘りなく並べられた安樂椅子を始め客用の椅子から卓から其邊の調度から、立派といふのか派出といふのか、先づ形容の辭に苦しむが、先公爵か捨松夫人か、どちらの方か、兎に角黄金色を好きな方が一人あつたと思はれるのは、例へば窓の輪廓、壁の輪廓といふやうな處から、恐らくは先公爵時代からあつたのだらうと偲はれるやうな羽根蒲團などに、盛んに金色が輝やいてゐる。

窓掛も立派、書棚も立派、煙草入も立派、之れに掛けられた大きな額もすべて立派で、この家の主人公が、目下陸軍中尉で陸軍大學の事務をとつてゐる柏公爵だとは思はれない、矢張り元師大山巖でなくては對照が惡るいやうだ。

三　先公爵名殘の廐舍

外の正門を入ると右手に小さな家が建つてゐて先公に關係のある人が住み同じやうな建物が邸内の片隅に五つ許りもある、何れも小さくて汚ない事は本邸と天地雲泥どころの騒ぎでは無い。邸内總坪一萬餘あるのだが、其中に前の家と森と花畑と一つの洋館の貸家とがある。洋館は目下チェックスロバックの公使館となつてゐ

るのである。

門から本邸迄は約一丁も離れてゐて曲りくねつて行くのだが、木が茂り合つて、楓の葉や琵琶の黄ばんだのが両方から通り道へ掩ひかぶさつて、右手の處に觀音様の銅像があつたりする風情は、どうしても人の邸内へ入つた感じはしない、何處か幽邃な公園の裏道でも歩るいてゐるやうな心地がする。日比谷などを散歩するよりは餘程物靜かで、且つ青葉の色もごみ〳〵してゐないので、胸中が奇麗になるやうだ。道を半分程行つた處の右側に木の間を透して二棟の厩舎が見へる。今では馬がゐるのか居ないのかその扉は固くとざされて、ぼろ〳〵な敷布のやうなものが乾かされてあつたが、日露戰爭にその總司令官を背にして、滿州の曠野を馳驅した駿馬の姿や今如何にと、私はそゞろその昔の思出にふけつた。

——つゞく——

□□□〔新刊紹介〕□□□

最新近世建築圖案

こんど、早稻田大學建築科の早苗會で上記の如き近代建築のプレート集を發行計畫中である。之は建築界にとつては非常に喜ばなければならない事である。隨分長い間吾々はかうした種類の圖集の出現を待つてゐる。それが曾てギリシヤやローマネスクなどのプレートを發刊して斯界の人々を喜ばせて呉れた早苗會から新らしく發刊される事になつたのだ。それは寧ろ遲過ぎた感がある。

其選擇や寫眞の鮮明さに如何に努力してあるかは、一度手にしてら直ちにわかる。

此一集を殊に若い建築家達に是非お勸めしたい

紙數百枚一帙　四六二倍版　代金四圓五十錢

九年九月一日發行の豫定發行前たりとも豫約に應ずる由



日本庭園考「庭園」

特別賛助員 農學士 大屋靈城

（四）

三　日本庭園の變遷

室町時代（續き）　今現存して居る此の時代の庭園中最も有名なる二三に就て說明せん。

一西芳寺の庭　西芳寺は京都府葛野郡松尾村にあり始め聖德太子の別莊なり。天平年中聖武天皇の勅願により行基菩薩此地に一伽藍を創建し名づけて「西方寺」と稱す。其後七十年を經て弘法大師此所にありし事ありしが漸次衰頽に赴き數度の兵亂に遭ひ。

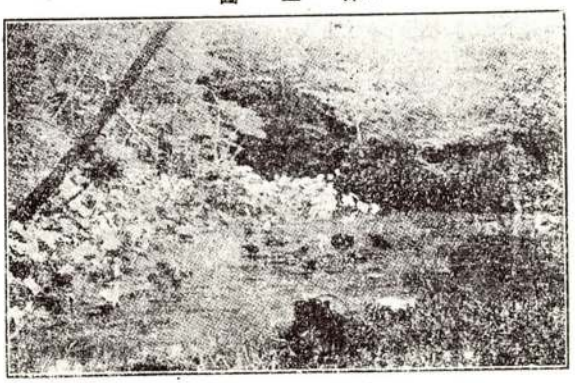
凡そ六百年の星霜を經て、荒廢甚だしかりしを、曆應二年四月に至り、松尾社司攝州掃部頭藤原親秀深く之れを歎き、高僧を請じて、再興せん事を願ひ、臨川寺に赴きて、夢窓國師に請へり。國師快諾し、親秀をして堂宇を再興せしめ、自ら林泉を築造して、西方寺を改めて西芳精舍とす、今の西芳寺是なり。國師が林泉を造るに全力を傾けたる事は西芳寺緣起によりても窺はる。其後度々の洪水により、林泉は大部破壞せ

られしを以て、今日其の舊態を窺ふ事能はずと雖も、碧山白錄、空華日工集、蔭凉軒日錄等の如き當時の記錄によれば、如何に其の規模の宏大にして、幽邃なりしかを識るに足れり。蔭凉軒日錄に（第三圖）

第三圖

舍利殿佛殿御燒香、指東庵、縮圖遠亭御遊覽山路險阻難攀而倦滯仰御一笑、實衰老所致汗愧々被東干御船也青松紅葉四面如織、御遊歷緩々多情倍干恒也。（寛正五、十月二日西芳寺ニテ）

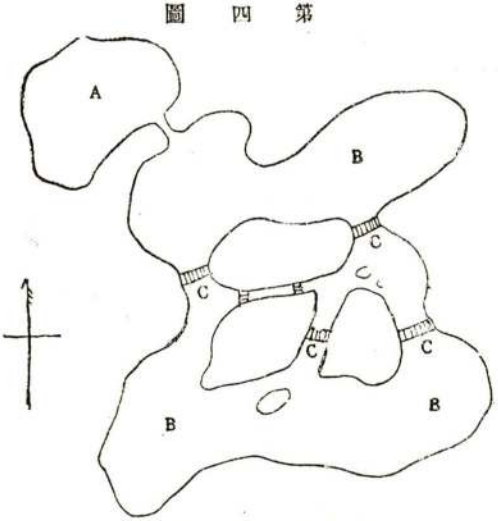
廿六日奉」報西芳寺御成之事也（中略）泉水入



西芳寺庭園

覽舍利殿幷佛殿御燒香、潭北御覽林端御經行不被乘干御船蓋炎天之謂午蓮花繞華開芬芳滿池、山秀水綠絕勝位萬干舊也。（寛正六年六月廿六日）等也。今日の庭園舊時より其面積も縮小され

第四圖

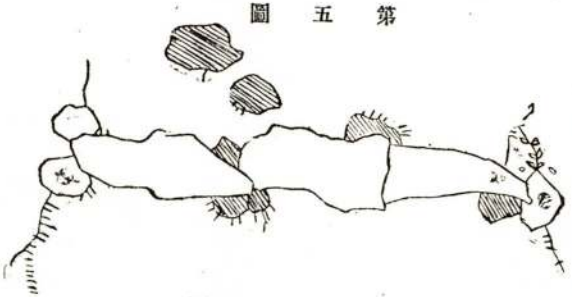


西芳寺庭園心字池
A金剛池 B黃金池 C柴太橋

方丈の位置も異ると雖も、優に京都名園の一つたるを失はず。園內到る處巖苔厚くして足の踏むところなく庭の中央に「心」字の池あり「黃金

の池と叫び蓮を植ゑ鯉魚を放てり。（第四圖）

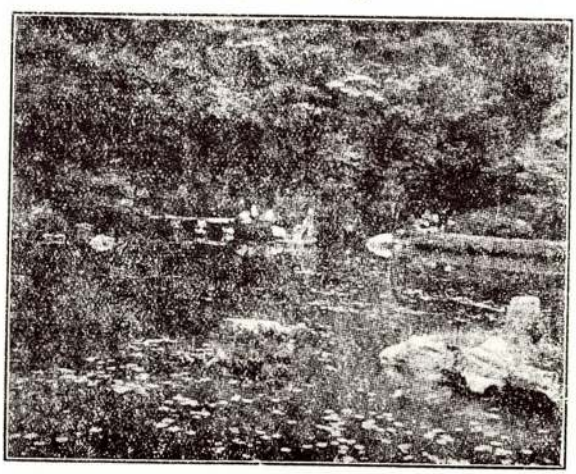
三つの大島あり悉く紫太橋を以て連絡せり。別瀧口と稱するところなしと雖も、池の西北に金剛の池と稱する小池ありて其れよりこの池に注く所石組ありて瀧口に模したるが如し。到る處松林にして幽邃なる点を特長とす。西岸に丸葉柳の一老樹あり行基菩薩の御手植柳と傳う其の南に湘南亭と云ふ茶室あり國寶にして內に國師の書きたる壁書殘れり、池の西北に丘あり指東庵は其の頂上にあり其の傍に一つの大石あり夢窓國師の愛用せし座禪石なりと云ふ、國師の風貌眼前に彷彿たり。



第五圖　巖橋（平面圖）

要するに御庭園は自然を旨として池沼の柳を作り出したるものにして岩石を用ひる事少く廣濶たる見晴しを置かず幽邃を第一として設計されたる庭なり。

第六圖

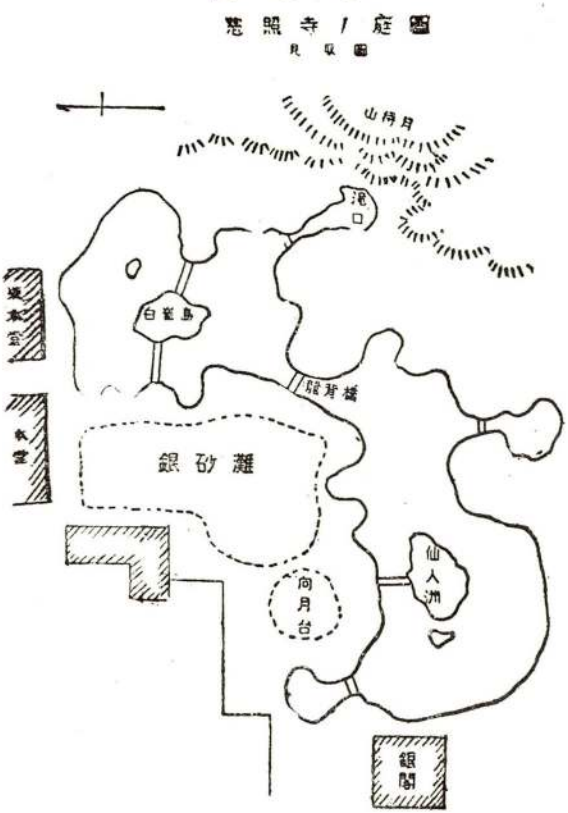


天龍寺の庭園

二　天龍寺の庭　天龍寺の庭は夢窓國師の作りしと傳らるゝも度々の修理により勿論其の頃

の面影を認むるを得ず僅かに瀧口の附近に於て古色蒼然たる岩組、巖橋、岩島等の舊態を維持せるを見る今日の庭は面積凡そ千餘坪南方に方

第七圖



庭園の大部は池にして曹源池と稱す、瀧口正面にありて巨岩立ち併び常緣樹これを蔽う。瀧の前に巖橋あり三つの投石より成り誠に風情多し（第五圖）其の前に岩島あり二本の松を植えたり岩は六箇より成ㇹ立石三臥石三なり。是れ恐らく蓬萊の島を形成せるものならん池は廣々として中島なく幽邃の氣自ら湧くが如し、僅かに東方に入江ありて一ケの島を置く、此所は小さき高麗塔あり腐朽して下部のみ殘る。左右に二ケの岬あり左は主人島右は客人島なり。永拜石、安居石とも稱すべき石を見らる、瀧口の右方一帶は石なく芝生の水邊にして樹木もなく吹上の濱を思ひ起す。庭の左右に各一對の石組あり二神石なるべし。又瀧の西方山の中腹にも一組の大石あり上座石ならん。樹木中

丈なる北庭なり、我國從來の造庭法に準據して作られたる庭園のチピカルタイプを具ふるもの也。次に其の内容を述べんに、

最も多きは松にして椎、樫、樅、等其の間に混じ悉く老樹なり其他紅葉イヌツゲ、モチ、ヒサカキクチナシ、ビヤクシンヤナギ、ツヽジの類あり西の奥山に竹林ありて其の間より常緑樹の梢をのぞく、庭の東の前方に近く大石を横へ老樹材を垂れたり其の傍らに泰山木を植たるは後世の補植ならん燈籠を用ゆる事至つて少く僅かに一基を認む。（第六圖）

第八圖



銀閣寺の庭園

三　鹿苑寺の庭　京都市外平野にあり世に金閣寺と云ふ。もと西園寺家の癈蹟なり。足利義滿慶永五年六月此所に三重の高閣を營み露盤に鳳凰を置き上を究竟の頂、中を潮音洞下を法水院と呼び悉く金箔を以て押す故に此れを金閣と稱す。義滿性花を好み室町の舘内にも名花數千株を植へ世人これを花御所と呼べる位なり風流にして林泉に親み金閣に退居せり。庭は夢窓國師の作にして艶麗なる点に於て他に類なし。

庭中に大なる池あり鏡湖と云ふ水は北方の山岳内にある安眠澤より龍門の瀧によりて銀河泉に下りてこの池に入る、池水清くして鯉魚多く中に三つの大島と一ケの半島あり。諸所に岩石ありて水面に顯れ小島を形成す、九山八海石、夜鳴石、赤松石、畠山石、等是なり。金閣に上りて園内を眺むれば全庭眼下に見下されて美觀畵くが如し池の正面の奥に老松の水面を蔽て欝蒼たる部分あり小石水面に羅列して瀧口の感あらしむ。其の西方に一面の紅葉林ありて四阿を設く、夕陽木にも比すべきか。

閣を下りて此の紅葉谷に足を運べば金閣は巍然として前方に聳ゑ其の影を鏡湖の水面に映すこれ庭内第一の美觀たり。此の場合金閣は一つ

の点景として見られ園内の四阿に比すべし。北方山奥に登れば夕佳亭あり二階建の茶室にして萩の違ひ棚、南天樹の床柱を以て名高く其の入口に富士形の蹲踞手水鉢あり。

本庭園は我國在來の眺望園の域を脱して逍遙園たるの性質を構ゆ蓋し現今に於ても我國屈指の名園なり。

四　慈照寺の庭園　京都東山にあり足利義政義滿の金閣に擬して此所に二重の銀閣を建て上を心空殿下を潮音閣と稱し文明十一年職を義尚に譲りて此所を別荘とす。庭園は相阿彌の作にして石を多く用ひたる事京都第一而も石組の法俗ならず。石に各種々の名稱を附したり、龍蟠石蹲虎石臥牛石、點頭石、布袋石、細川石、大内石、畠山石、天柱峯、香爐峯、回肩峯、北斗石、落星石、壽星石、爛柯石、浮石、生禪石等は其の一例なり。本殿の前に白砂を敷き均し錦砂灘と稱し白砂を盛りて向月臺とせり。これ他の庭園に多く見ざるところなり。東北に東求堂あり西南に銀閣あり其の間に庭園は展開せられ西方より眺めらるゝ二庭園が中央なる龍背橋に依つて連結されたりと看做さる。（第七圖）庭園の大部分は池にして錦鏡湖と稱し石橋多くかけ渡され分界橋迎仙橋濯錦橋臥雲橋等の名を附けたり。白雀島、仙人淵、は池中の二大島にして中島の格なり、瀧口は兩庭共通にして月待山の麓にあり、水量豊かならざる瀧落ちたり洗月泉と云ふ樹木は多く松にして池畔に紅葉躑躅の類點在せり。燈籠を置かず樹は多く刈込なり。

本庭園は別に幽邃とふ点に於ては秀でずと雖も園内變化に富み而も統一ある点は特徴なるべし蓋し今日の庭は後世手を加へたるところ多く僅かに當代の面影を殘せるは石組のみ。（續く）





かぎ葉

（そのニ）

大阪消防協會では、近來火災豫防思想のプロパガンダを遺るべく俗謠を募集したが、其蒐まつたものを覽ると却々面白いのがある、其ういふような公益鼓吹の社會化？は近來の著しい傾向だが、此等も、どうぞ、何處かの電車標語のように遊戲傾向に終らせ度くないものだ。

火災豫防宣傳俗謠

生田南水子選

○胸を焼くとも家藏やくなラムプ氷ちやおさまらぬ
○赤い火に焼け黃な聲出して青息吐息でくらうする
○今鳴る半鐘はあり〳〵餘所の火事と云て我家も氣をつけよ
○夫婦中なら焼いてもよいが焼いてならぬが家と藏
○可愛盛も火を出す間でいつか人手に捕はるゝ
○明けの鐘なら歸さで濟むが火事の鐘なら是非がない
○吸うた煙草で家藏焼いて今ちやお粥も吸いかれる
○火事と寢た子は起しちやならぬ起しさへせにや身が安い

七星三光

○水の都は住みよいところ火事がおこらにや尚よかろ
○火花散らして仕上げた資ともすりや火花で又ちらす
○眞の夜中に鳴る半鐘は家や資の消ゆる音
○やつと仕上げた巨萬の富も消ゆてなくなる今朝の火事
○火事を出したら先祖へ濟まぬ隣近所にや尚すまぬ
○火事は消ゆても七代かけて人の恨は消ゆはせぬ

十軸

○宵の火の氣に水かけたかと一聲告げ行くほとゝぎす
人
○月にむら雲花にはあらしそして家には火事の仇
地
○眞の夜中に半鐘を聞いてそつと見まわる臺所
天
○雨は天から涙は目から火事は其身の油斷から

追加の代りに

○涼しさや盤にかける水の音　選者

序でに、同協會から發表した「火災の話」を左にかい摘むで掲げて置かう。

一　火災豫防の心得

千丈の堤も蟻の穴を以て潰ゆ、百尺の室も突隙の煙を以て焚くと謂ふ語が古い書物に載つて居るが火災の起るのも全く此通りで初は皆何れも微々たる火から起るのである。北區の大火はラムプの破裂より起り、南區の大火は煙突の火粉より起つて孰れも大變な慘害を醸したのである、其他歷起る數多の火災も大概之に類似した原因より起つて居る。されば火災を豫防するにはよく火災の原因となり易い事項を心得て常に用心することが最肝要である。

今火災豫防上一般家庭の心得となるべき事項を擧ぐれば大要左の通りである。

一　煙草の吸殼やマッチの燃滓を妄に棄てざること
二　火鉢や炬燵や火消壺の火始末をよくすること
三　竈や風呂場や焚火の跡始末をよくすること
四　焜爐や火鉢に火をおこした儘留守にせざること
五　提灯やラムプやお燈明を附けた儘寢入らざること
六　裸火を以て土藏や納屋に這入らざること
七　油類や紙、綿類の置場で喫煙せざること
八　竈や煙突の傍に木屑や藁類を置かざること
九　竈や煙突の破損は速に修繕すること
十　小供の火なぶりを爲さしめざること
十一　外出の際は火の始末から先にすること
十二　風の吹く日や寢る前には火の見廻を爲すこと



將來の『都市』

市加古市』（2）

ウオルター・ディ・ムウディ著
Z Y 生譯

第一章　正しき理解ある出發（其二）

（前號に一とあるを右記の通り訂正す）

今や米國諸都市は殆ど豫想を許さゝる又偶發的の發展を遂ぐので、之より生ずる新なる市政に逢着してゐる。遠き昔バビロンやアゼンスが市民の福利のためせし奉仕は模範とすべく、廿世記の今日に於ける米國も市民の諸種の要求を發見し、如何に之を滿足せしめ得るかを考へねばならぬ。大戰前都市計畫は米國のあらゆる方面を點火しつゝあつた。之は惡思想より生ずる手順と更に屢々惡思想の生む計畫とが進行し居りし爲に此を破壞せんがためである。而して其等は今は失せ去り、改造の時期が迫りつゝある大戰終熄して斯かる頑强なる諸問題が、世界の

各國民に對抗し來つた、我等にも改造期は廣大に多方面に復雜に而して甚しく煩雜なる問題を提げて解決を求めて來た、而して問題中の問題といふ可きは、諸都市の市民の幸福に關する之れである。諸强國何れも然らざるはなきも、就中國家の必要のために、全然地方的の改善設計を放棄し去り來たつた、米國に於て殊に左樣である。

米國が交戰國として立つや否や、諸都市は、地方民自らが立案せし地方改善設計を實行し、又諸問題を決斷するの能力の最早なきことを發見した、假令一切が速に實現さるゝとしても、之は國家當局者の命令によつてのみ成就し得るものである。表面此手順は世界一の富有にして最も資源饒なる合衆國に於て望ましくある、尤も大戰の重荷の犧牲とが無限に廣大にして且つ長引く英佛獨の各國に於ても、都市改善の爲め前進的活動をなせる多くの証據のあることはあるが。

合衆國の肩上に如何なる新らしく且つ連續する重荷が、戰爭に順應するよりして課せらるゝも諸都市の市民生活狀態の改良事業には早くより巧妙に積極的に刺激を與へ行かねばならぬ。戰前製作し又その一部分は既に建造した公設事業の廣汎なプログラムは、戰爭のため生じたる新なる促迫の下に再集し遂行してあらねばならぬ。急劇なる生長と誤れる考よりせる發展とに原因せる諸都市の狀態は、今市民の注意を餘義なくし居るも、戰爭中に改善せらるどころでなく反つて更に惡化せられて居る。今一般の福利に影響する處大なる故、切れたる糸を撮り上げ結び合す爲に、此時機を失つてはならぬ。

各國民の衝突は、遂に長久に世界の平和を確保し、ヨリ大なる爭鬪より逃れ得んが爲、陸海軍備の整理と變更とに對する看視を設けねばならぬことゝなつた。これ、世界目下の事實が明に實現せしことで、若しも、文明が羅馬帝國陷落に踵を接し六百年間世界を包圍せし如き暗黑に墮落するを欲せざるならば、かくあらねばならぬ。茲に必然の要求が如此働を發展せしめた

るのみならず、遙に之れ以上に科學者等は、熱望し得べき要求を指し示してゐる。即ち人力金力世界の物質上の資源を保存し、延いて人類の進歩を再び主張し得んが爲荒廢の辛勞の中より自由の光が再び吹き消し難き迄に強く輝く迄支持し得んが爲に、世界諸國民の結合を說いてゐるのである。

上記の如く驚く可き廣大の計畫あれど、合衆國民の繁榮の再興の爲には、組織ある地方計畫案に從ひ都市改善計畫の活動を急速に活發に回收するに勝りて緊要事はない。我等の前に朦朧とかゝる根本的に重大なる仕事を示せば、即ち國のあらゆる方面より烈しく引拔ける、幾百萬の復員兵士の減少せる躰力を恢復し保存すること、出來徒る限り彼等を勞働階級に再び雇傭する事、軍用にせし鋼鐵その他の物質材料を是非必要なるあらゆる方面に使用すること、前に勝りて健康恢復により好き利便と、順當なる復權のための他の諸方法を要しつゝある打拉れ居る兵士の家族を、人道的精神を以て救助せん爲めの配備——凡て此等は地方的の義務にして又事業であらねばならぬ。

戰前の焦眉の注意を要したる諸都市民の狀態が明に惡化してゐたとせば、戰後の今日はその程度を數倍せることは明白であり、大戰に原因する諸事實に嚴格に面せん程の者は、確にこれを許さねばならぬ。今は前にも勝りて都市民の繁榮は——これ延いて國民の繁榮となる這は民衆の大多數は都市に居住するが故に——組織宜しき都市發展にあるてふことを明にせぬばならぬ而して此健全なる幸福を得るの道は夥しく、例へば都市內外界限撤廢、住民充血の救濟、交通の利便、相應の家屋供給、科學的な區別法其他多くの實際的施設が之れであつて、如此治療法によつて件の目的が達成せられる。又かくして更に改善されて便宜なる商工業敎育、更に接近し得べき普通敎育の機會、及び彼等の刺激と健全なる感化も改造綱領中に加ふべきである。

自然大戰は米國の到處に都市計劃を阻害した合衆國の大戰に參加するや、市加古市は市加古

都市計畫委員會の指揮の下に、計畫事業を始めて八年を經過し居りしが、公施改善の發展に從事し、諸施設土地の購入ともに費用一億五千萬弗以上に上つてゐる。更に同會の推擧にかゝる未決の事業は、出費千萬弗より千五百萬弗を要してゐる。目下進行中の改善事業は――現在建造せる若しくは手續に於て遙に進捗せる――十二市街の擴張、鐵道橋、新橋梁、中央街方庭の一部分ハ工事、二平行構造、二重甲板の橋梁を含めるミシガン大道を市加古河を橫斷せしむる擴張及延張、並に中央方庭の一部分工事、西部合同旅客停車場、キヤメル街の擴張と傾斜、市古加河北枝流に渠す二平行街と二重甲板橋。數箇の新近接橋、橋梁近接路、近接小公園、一般極路の開通千二百八十エークルのフロント湖公園と之に接する水路の建造開鑿、オグデン大路を二哩延張し、この對角街衢とユニオン及びリンコルン公園とを聯接する工事、森林保護のため數千エークルの土地の所有、森林保護に關係ある良路組織、隣接市外公路組織等の工事が之である。

又目下推擧されつゝある計畫をめぐれば、西方大路の擴張、サウス、ウオター街の回復と二重被蓋と擴張をなし之を中央方庭の一部分となす工事（今同街は産物市場により占められる）上記中四箇の事業は既に工事を始め、その他も後の二箇を除きて手續は進捗して居る。しかも『都市計畫』は今や一の氣まぐれ事となつて居る、或都市抔では計畫なるものがなく――唯之の氣まぐれを捉へ何等かの計畫に從事せんとするのみである。他の都市は最初の怪妖を移し植ゑ委員等を任命し、二三百弗を出費し而して之の儘漂泊するに委せてゐる。遠く航海するに足る丈の費用も無く、さりとて何の港に行く可きかも知らない。唯波の運動を感ずるが故、己が『都市計畫者』たるを知るのみである。大部分の都市は之の妖怪に取附かれて居ないが、でも狂氣じみて彼を引着けんと努力してゐる。如此上品なる衝動は都市計畫の靑二才の遊牧民を孵化するに至つた。自然彼等は建築家又は機械技

師の階級から補充されてある。彼等中の幾人かは確實善良の人なるも、さして多くはない。工藝會は委員會と共に都市に進言し計畫を準備するに足る資格十分の人々であるが、惜哉合衆國にては斯る類の人は極めて少數に過ぬ。建築家機械技師等の都市計畫上の智識は彼等の考ふる處知る處、危險なるものである。工藝家の偏見にも勝りて誘す可く苦々しきことはない。エドワード、ホワード、グリッグスが言つた、偉大な人物の技術は難事を支配し終る專門的の熟練を示す爲に存在するといふ如き誤謬に陷らないと。此種の人々は專門的の熟練は全く目的でなく常に之れ以上の或物——光榮ある物——に至る方法であると考へてゐる。併し小技術家中には迷信が非常に廣く横溢してゐる。

都市計畫は工藝上の智識、熟練と等しき觀察意見、見地上のことである。若し諸君にして都市計畫の軌轢の興行を見たいと思ふならば、相互に陷れつゝある二三の欲望甚しき專門計畫者を拉し來られよ。氣むづかしさ、偏狹、未熟な專門家的精神であつて、彼等は職業の故障以上に超越することが出來ぬ。

近世都市計畫は新職業である。その觀念その權威一言をもつて盡し得る、即ち米國諸都市に於ける今日の經驗の自然的な論理的な歸納であり而して都市計畫の理論は現在完成せる事物に實際的の試驗を加へ證明するのである。新職業——都市計畫——は都市計畫者に投票盆が先だつ米國現在の狀況の光に照して批判さる可きものである。

尙ほ經驗は明言するに、建築術は基礎的のものではあるが、近世都市計畫者が建築技師でなくてならぬといふとは言はない。過去の或有名な都市計畫者は機械技師であつた。併し若し建築家が都市計畫者であるならば、彼は都市てふ身躰の生理的發達に、特別に應用す可き非凡の知覺力と配景的手力とを有せぬばならぬ。眞實の都市計畫者と普通に考へられ居る建築家の職業との間には大なる徑庭がある。

先づ第一に尋ねる。——都市計畫とは何であ

るか。

専門家には諸都市の發展を組織的に秩序的の方法にて計畫する技術又は科學と考へられてゐる。方一の里標は表面困難なく達せられ得る。然しそこにはヨリ多くの里標がある。彼等に到る道はあまたの坂あり岐路がある。換言すれば米國の都市計畫には眞に幻影、眺望、進出と現狀推持、交易と賣却、教育、勸說、外交、法廷と陪審が要る。

確に郡市計畫はこゝに明白に廣く二つの異れる科學的分派に分れて居る。第一の工藝派は建築家と機械技師を含むでゐる。第二の振興派は同樣に科學的に職業的であり、完成を背景とせる動力とも稱す可きものである。

大戰は殆ど夫等の改善計畫の凡てを休止せしめた。併し休戰條約の調印と共に上記の計畫は直刻に活々と活動を恢復した。

休戰條約調印と殆ど同時に、市加古考案委員會は、今は有名となれる『改造綱領』を發行しその綱領中計畫しある廿三箇の改善箇條を後にす可きことを市當局者及び市民に要求した、此の理由は、第一に復員軍隊の爲に職業を豫備し、二には豫想さるゝ不景氣の襲來期に方りて勞働を擁護するの必要に基いてゐた。併し經濟上の必要より言へば都市改善事業を速に實現する方が、近眼的な誤謬を補ひ、未來に於て言ふ可らざる何萬百弗の市費を節約することが出來得るであらう。戰爭以外に加ふ可き事業遲滯の他の原因は、都市計畫の目的に對する誤解である。始には都市計畫の旌表を『美はしき都市』と誤り掲げた。米國の都市の何處にても、都市計畫の露はるゝ處には、如此表明せられて居た。都市計畫に相當す可き名稱は、正に『實用市』と稱はる可きであらう『美はしき』なる名稱は始より誤解を生じ反對を呼ぶの虞がある。職業的煽動家をして嘲笑と輕蔑とを向けしむべき根本原因となる句である。眞實の都市計畫は、美以上にヨリ多く實用的の物なるが故に、此名稱は錯稱といふ可きである。之の目標は、改良と引力ある境遇を造るにあつて、美にはない。尤も

美は之の眞目的を達しさへせば、自然附隨す可きものである。眞面目なる事業の企てらるゝ處には、理解ある都市計畫の實際的理想と、不幸にも米國諸都市に流通せる外觀上の發展を目指す憐む可き秩序との間に橫はる裂口を、民衆をして架橋せしむ可く多大の忍耐深き努力が要る然らざれば都市計畫の努力は、空しき夢想と稱せらるゝであらう。幸なる哉既に談論上の考案や描畫上の考案より此を永久に救出す可き實際上のそれが成就してゐる。

廿五年間餘は說得の力によつて事を進めた。十一年間職業的に公の事業に雇れた。即ち公衆精神、幻影、人物、道德的勤說、說得のある事業、一言にして言へば敎育ある熱情によつて計畫された組織的の努力ある事業である。之等は最も必須の物である。八年間市加古都市計畫の進行の指揮に與かつた。本書に於て余が開陳する意見は、余の經驗の結果である。余の仕事は己の經驗と他人の經驗の觀察に基いて、信ずる處を言ふにある。此事が他人を喜ばするも怒らするも之れは余の仕事でない。

ロマン、ローラントと共に、余は『一度放ち言をして彼等自らの道を造らしめよ』といふことを知るのみである。米國都市計畫の未墾地に余はこの言葉を蒔かう、收穫の時を望をもつて期待しつゝ。

第二章　新職業—都市計畫

米國に都市計畫がかく傳達せられて、より以來、殆ど二百近くの都市が或種の計畫てふトーガ（古羅馬市民の着せし外衣）を着け舞臺上に現れた。その大部分は斷片的の計畫に過ぬ。或者は單に公園計畫、或者は市中央街計畫、他の者は運輸計畫、少數者が單箇の街衢改善計畫。之等は凡て都市計畫と稱し居らるゝも、正確には、爾か稱し得ざる種類のものである。

或他の改善や目的と無關係なる街路擴張は都市計畫でない。全市の包擁的なる研究もせざる單なる市中央街の擴張は、都市計畫でない。諸都市の急速なる發展の今日では、かゝる類の物

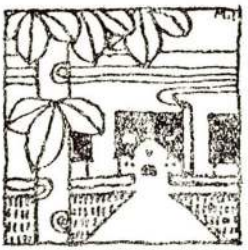
は都市『無計畫』と稱す可きである。戰前に現在着手された都市計畫の進歩の僅少なる理由は考案の惡しきよりも進行方法の不良に歸せねばならぬ。振興法式の智識も有せず、敎育事業の方策にも貧弱なる專門家より大部分成れる都市計畫局が餘に多かつた。而して彼等は如何に有効に紙上にて發達せしかに關せず、都市計畫は唯特殊なる振興的努力によつてのみ成就し能ふことを實現もせず、如此努力の多くの特別なる區分あることさへ推測しない。此事實はその結果より生せる多くの失敗に於て明白である。都市計畫の擁護者は如上の眞理を實現す可くその敎を奉せねばならぬ。

成功せる都市計畫に必す含まるゝ振興事業の價値と部分とに就て無識なるを示すもので、某英人が千九百十三年合衆國に於て本題目に關して製作せる調査に比してヨリ好き例を見ない。彼は探究の結果を倫敦發行の有力なる專門雜誌に發表した。その論文は專門家の理論的歸納法であり專門的設計圖であり研究である、而して極めて僅かに實際の經驗を取扱ふに止つて居た市加古に關する彼の意見は、これが含まれざる部分と同樣に含まるゝ部分も興味あるものであつた。その道の專門家の敵に就ても而して『注意を細目に若くは特殊なる部面に集中せる他の專門家』に就ても自由に記してゐる、而して都市計畫の振興法に就ては一言も述べてゐない。大部分を市加古市に成された完成を記すに費し（他の諸市にてはこれを僅か發見したるのみ）てゐるが、而も完成を可能ならしめたる敎育、手順、振興的努力に就ては一言も述べて居ない一見せば彼は完成よりも寧ろヨリ多く理論に興味を有せる如くであつた。市加古市の遂行せし點を彼が見落せしにしろ、或は記す價値なしとせしにしろ、兎に角振興的事業が市加古市をして之の計畫を成就せしむるに大部分の力を寄與せしものなるが故許す可らざる間違である。

× × × × ×

× × × × ×

〔談叢〕



∴婦人の仕事が簡單に行かないものでしようか！

醫學博士柳瀬實次郎氏夫人　柳瀬光子談

極く限られた地面を、なるべく上手に使つて無理をしてゐるものですから、本當に窮屈な家になつてをります。子供が七人、その內の下五人がまだ小さな男の子ばかりで宅にゐますので、それに老人や女中達合せますと、可成りな人數でございますから、室等も間數は有るやうでも、皆それ〳〵使つてゐるやうなわけでございます。應接室丈けを洋風にして、他は皆日本建てでございます。

別に取り立てゝ變つたところもございませんが、何しろ小さな子供達が澤山なものですから子供の室は、自然必要に迫られて面白い工夫になつてをります。上の女の子二人は東京二葉女學校に寄宿さしてをりますが、宅に居りますのも二人丈けは今小學校に通つてをりますので、その子供の勉強室は、階下に一室取つてをりますが、遊戲室は皆と一緒に二階に六疊二間を當てゝをります。夜はそれを次の寢室にして、次の間に子供附きの女中を休ませてをります。子供達が多い丈け、それに附屬した小道具が又なか〳〵に煩はしうございますので、丁度あのお湯屋の着物入れの樣な、棚の箱を澤山拵へ附けてをります。各自の普斷着一揃ひ宛つ、又はおもちやだとかいふやうなものは、一々各自の印

をつけて入れて置きます。夜具もその通りで、三角だとか四角だとか、いろ〳〵の形を縫ひつけておくのですが、人數が多くて、終ひには印のつけやうもなくなつたといつて笑つたこともございます。子供達が休みます時は、衣裳籠を一つ宛つ一人に當てがつて、体についた一切のものはちやんとその中に纏めて入れさせるやうにしてをりますが、なか〳〵それでも大變な騒ぎなのでございます。子供の多いといふものは賑やかではございますが、却々一通りではございません。それから、食事の時は子供達は皆一緒に卓について居つていたゞく様になつてゐますので、小さい子供にはその年齢に適した低い腰掛臺を與へるやうなこともしてをります。卓の下には、その都度一枚の敷物を敷いて、食事の了つた後では拂ひ除けて、こぼした御飯を終末する様な事もつい思ひつきなんでございますさうした事で、私等も、自然時間の餘裕等もなか〳〵得難いのでございますので、いつも思ふことですが、日本の婦人の交際が、もつと虚飾を拔いて、眞味の有益な時間を持つやうに努めたならば、一般がそういふ風習になつたならば私達は、どんなに助かることでせうと思ひます其處にゆくと殿方の御交際は、本當に簡單で手取り速くて、羨しい位ひに思ひます。私達の偶々の外出や訪問がつひ臆却になつたり、無挨拶を生じたりするのも、勢ひ、一度出たが最後殆んど一軒の訪問でも半日掛りといふ習慣や事情になつてゐるものですから——。何とかして少しづつでも改めてゆきたいと思つてをります。

宅では、臺所の日常のもの等、出入りの八百屋から取つてをります。公設市場等も何成りに遠いのですし、又時間の事も思ひますと、矢張りその他の幾分お高價い抔といふやうな事は埋め合はしてもいゝかと思ひます。又、使ひに出した女中等に、若しか金を持たした爲めに、ついよからぬ心持を起させたりするやうな事でもあれば、悪いことだと思ひますので、何かの場合等は、時に、氣心の知れた女中に買ひ出しにやる位ひでございます。

臺所等も、何とかもつといゝ工夫はつかないものかと思つてをりますが、只今の處では、全部たゝきを止して板の間にしてをります。食器等の洗ひ物桶を、エナメルの器に致しましたがそれは清潔で、破損することもなく、使つたあとは、ざつと石鹸で洗つて置きますと、すつかりきれいになつて、氣持ちようございます。

（婦人記者）

大阪市内交通量調査表

自大正八年五月二十八日(日曜)午前七時 至仝 二十九日(月)午前七時 一昼夜

自大正八年六月十日(火)午前七時 至仝 十一日(水)午前七時 一昼夜

線名	調査場所	方向	人								車										牛馬
			電車乗客				歩行者														
			方向別人員	総人員	順位	一時間最大人員	方向別人員	総人員	順位	一時間最大人員	下荷車	荷俥車	乗用自働車	荷用自働車	人力車	自轉車	自働乗車	其他諸車			
築港線	千舟橋	東行	5,145	10,404	4	555(午6-7)	2,347	4,851	5	2,496(午7-8)	193	362	42	10	41	592	5	93			
		西行	5,259			665(午5-6)	2,504			352(午7-8)											
	正蓮橋	東行	18,751	37,769	3	2252(前6-7)	8,338	16,478	1	635(午6-7)	692	1,655	95	15	219	3,238	16	282	4		
		西行	19,018			2620(午5-6)	8,140			774(前7-8)											
	九条駅前	東行	18,483	41,134	2	2241(午5-6)	8,026	14,853	3	945(午7-8)	412	1,713	97	5	334	3,991	21	139	5		
		西行	22,651			2311(前6-7)	6827			607(午5-6)											
	川岸前	東行	21,987	44,846	1	2012(前6-7)	2,870	5,886	4	2141(午5-6)	353	1,824	113	27	645	2,849	25	74	5		
		西行	22,859			2,176(午2-3)	3,016			258(午7-8)											
	湊通藏橋	南行					7,744	15,476	2	838(午5-6)	1,586	4,053	160	16	1,375	4,538	38	127	26		
		北行					8,347			938(前6-7)											
東西線	本田三番町	東行	11,060	21,901	5	803(午5-6)	1,593	3,385	4	165(午3-4)	124	588	27	19	167	1,643	32	40	2		
	往復拱橋	西行	10,841			1,143(前6-7)	1,812			210(前7-8)											
	堅屋橋	東行	25,161	49,936	3	2028(午5-6)	1,598	3,272	5	142(午2-3)	56	426	113	3	106	2,579	8	22	1		
		西行	24,775			1787(午6-7)	1,674			382(前7-8)											
	下繁橋	東行	26,656	53,434	2	1982(午6-7)	4,905	9,961	1	353(午6-7)	231	2,139	139	7	796	4,725	20	68	1		
		西行	26,778			2313(午6-7)	5,056			400(午5-6)											
	末吉橋	東行	30,608	60,644	1	2886(午6-7)	2,543	5,378	3	240(前6-7)	605	1,754	142	6	249	3,345	18	179	10		
		西行	30,036			2,506(前7-8)	2,835			200(前7-8)											
	東雲町	東行	21,989	43,676	4	2441(午6-7)	3,291	6,443	2	309(午7-8)	870	1,447	13		84	2,479	9	197	37		
		西行	21,687			2466(前7-8)	3,152			270(前7-8)											
九条高津線	辰己橋	北行	10,975	20,309	5	1085(午5-6)	3,714	6,921	6	340(午6-7)	85	798	21		77	1,852	12	52	2		
		南行	9,334			905(前6-7)	3,207			291(午6-7)											
	犬正橋	東行	29,644	58,246	3	2605(午5-6)	5,547	11,295	1	532(前6-7)	678	3,319	91	12	422	4,424	11	124	27		
		西行	28,602			2932(前7-8)	5,748			600(午6-7)											
	港町橋	東行	24,964	49,335	2	2194(午6-7)	3,805	7,412	5	535(前7-8)	481	1,998	103	8	420	3,295	17	66			
		西行	24,371			2,098(午5-6)	3,607			508(午6-7)											
	服揃泉	東行	30,828	64,041	1	2241(午6-7)	4048	8,102	3	445(午8-9)	72	909	198	13	249	2,150	11	79			
		西行	29,213			1,971(午5-6)	4054			340(午6-7)											
	天鹿橋	東行	21,478	44,264	4	1403(前8-9)	4,015	8,883	2	271(午6-7)	264	1,017	139	3	193	2,897	11	175	2		
		西行	22,791			1,971(午7-8)	4,868			376(午6-7)											
	東平野町五	東行					3,481	7,976	4	306(午10-11)	+12	966	139	6	259	2,353	5	122	7		
		西行					4,495			330(午6-7)											
南北線	東梅田町	北行	30,281	60991	6	2455(午5-6)	8,157	15,223	2	849(午5-6)	26	2,113	436	32	2,107	2,244	8	47	3		
		南行	30,710			2,249(前6-7)	7,066			746(前8-9)											
	渡島橋	北行	38,658	78737	5	2574(午5-7)	7,832	15,536	1	699(前8-9)	34	3,933	571	37	2,696	5,923	11	39	2		
		南行	39,079			2591(午8-9)	7,498			882(前8-9)											
	伏見橋	北行	46,852	92,663	2	3573(午8-9)	2,923	5,119	5	214(午8-9)	13	1,604	521	14	821	4,701	15	218	1		
		南行	45,811			3247(前8-9)	2,196			141(午1-2)											
	阿古陀橋	北行	51,161	102,416	1	4437(午8-9)	2,807	6,239	3	209(午5-6)	11	1,570	477	13	537	4,833	11	104			
		南行	51,255			3742(前8-9)	3,432			330(午6-7)											
	浪速江橋	北行	46,120	91,322	4	3676(午8-9)	2,377	4,962	6	192(午5-6)	10	1,631	342	19	706	3,359	12	68			
		南行	45,202			3801(前8-9)	2,585			177(午6-7)											
	服揃南	北行	47,484	91585	3	4238(午7-8)	2,870	5,537	9	261(午7-8)	127	939	35	13	211	2,415	5	168			
		南行	44,101			3397(前7-8)	2,767			790(午6-7)											
堺筋線	鳴尾町	東行	17,439	35233	6	2235(午6-7)	2,766	5,651	6	229(午6-7)	160	1,221	59	2	262	2,718	24	53			
		西行	17,794			1,334(午5-6)	2,885			323(午7-8)											
	道修町二	北行	43,224	93840	2	3833(午8-9)	5,081	10,442	4	403(午2-3)	431	1,814	413	24	852	4,753	33	105	6		
		南行	50,616			3514(午6-7)	5,361			453(午8-9)											
	北久宝寺	北行	50,725	98,599	1	4688(午7-8)	3,932	6,700	5	251(午2-3)	317	1,716	457	22	1059	7,529	29	126	4		
		南行	47,874			3589(午5-6)	3,768			345(午3-4)											
	日本橋	北行	46,676	88,824	3	4235(午7-8)	13,034	28,052	1	1434(午10-11)	356	3,290	410	32	805	6,207	21	422	5		
		南行	42,148			3477(午5-6)	15,018			1,558(午7-8)											
	日本橋筋三	北行	34,721	65,861	5	3065(午8-9)	8,877	17,947	2	707(午9-10)	243	1,890	287	12	506	4,398	31	521			
		南行	31,144			2,532(午6-7)	9,070			710(午8-9)											
	名吳橋	北行	37,424	68,906	4	2566(前6-7)	8,465	17,701	3	657(午10-11)	172	1,418	294	6	307	3,092	8	219	5		
		南行	31,472			2169(前10-11)	9,236			791(午7-8)											
松屋町筋	大福橋	北行					7,808	16127	2	945(午8-9)	439	2685	1		223	1,558		394			
		南行					8,319			971(午8-9)											
	天神橋	北行					8,221	22057	1	635(午7-8)	219	4405	3		683	4037	8	393			
		南行					13,836			1,215(午7-8)											
	和泉町一	北行					4,309	8334	4	400(午9-10)	24	2,244			371	2776	4	68			
		南行					4,075			340(午9-10)											
	百屋町三	北行					6,283	15,736	3	681(午10-11)	18	2,189	1	1	402	1,915	15	130			
		南行					8,847			867(午8-9)											
	逢町下訂	北行					3,709	6860	5	332(午10-1)	176	1,231	8		210	1,014	3	103			
		南行					3,151			221(午2-3											

備考

車夫、駅夫、後押、乗客、等乗降ニ関係ナル人ハスベテ算入セズ

浄正橋筋ハ福島町民自発ノ調査ニ係ル (大正八年七月十八日(屋小雨)午前六時ヨリ七月十九日(屋)午前六時迄)

線名	調査場所	方向	人								車										牛馬
			電車乗客				歩行者														
			方向別人員	総人員	順位	一時間最大人員	方向別人員	総人員	順位	一時間最大人員	下荷車	荷俥車	乗用自働車	荷用自働車	人力車	自轉車	自働乗車	其他諸車			
梅田北通線	北野路筋	南行					4,953	7,522	3	690(前7-8)	196	532	47	4	508	1,318	5	39	23		
		北行					4,569			430(午7-8)											
	梅田新道	南行	21,815	43,530	2	2,421(午5-6)	5,709	12,326	2	649(前7-8)	240	1084	238	21	949	2,257	9	63			
		北行	21,715			1,822(前5-6)	6,617			839(午5-6)											
	大江橋北詰	南行					6,668	13,354	1	1,271(前8-9)	456	2254	399	34	2705	3,414	9	83	19		
		北行					6,686			881(午5-6)											
	北浜三丁目	東行	31,431	63,673	1	2588(午5-6)	2,732	5,237	5	298(前8-9)	87	353	375	19	315	1,633	7	140			
		西行	32,242			2,649(午5-6)	2,505			224(午5-6)											
	京橋二丁目	東行	16,319	38,219	3	1815(午4-5)	3,418	7,348	4	420(午6-7)	314	1535	108	8	525	1,548	16	61	2		
		西行	18,900			1,679(午7-8)	3,930			336(前6-7)											
福島線	安井町	東行					6,070	13,949	2	777(午5-6)	199	1,339	22		373	1,248	2	218			
	出入橋東詰	西行					7,879			843(午6-7)											
	亀甲南町	東行					3,018	5,942	7	405(午10-11)	170	707	42	6	181	1,241	5	77			
		西行					2,489			393(午10-11)											
	野田八幡筋	東行					3,885	7,826	5	302(前8-9)	265	1690	100	8	436	2,538	8	29	7		
		西行					3,941			355(前7-8)											
	福川橋西	東行	16,426	33,231	1	1375(午4-5)	5,008	9,391	3	385(午6-7)	187	1197	101	6	204	2,977	25	24			
		西行	16,805			1,436(午4-5)	4,383			318(午8-9)											
	空心町二	東行	13,035	26,357	2	1280(午5-6)	4,512	8,447	4	424(午8-9)	96	475	75	3	85	1,831	9	56	2		
		西行	13,322			1,122(午5-6)	3,935			381(午8-9)											
	淀川橋	東行					3,815	7,492	6	425(前7-8)	248	860	4		217	1,114	4	106	8		
		西行					3,677			482(前7-8)											
	空心町一	南行					2,454	4737	8	182(午6-7)	80	426	77	3	67	1,304	8	56			
		北行					2,283			188(午7-8)											
	天満橋	南行					7,174	15,005	1	660(前6-7)	367	2729	81	8	497	2,953	18	246	39		
		北行					7,811			1089(午5-6)											
西野田谷町線	中江町	南行					2,367	4970	5	182(前6-7)	239	306	1		149	1226	2	28			
		北行					2,603			240(前5-6)											
	鉾納津橋北	南行	10,404	19,810	2	1221(前8-9)	3,424	7,638	3	502(前7-8)	532	1712	34	7	508	2,400	16	261	14		
		北行	9,406			1,130(午5-6)	3,394			325(午7-8)											
	水津川橋	東行	11,768	22,902	2	1012(前6-7)	4,751	8820	2	445(前8-9)	196	3662	81	25	905	3283	6	286			
		西行	11,134			978(前6-7)	4,069			365(午9-10)											
信濃橋線	信濃橋	南行	13,815	27700	1	1027(前7-8)	3,470	6556	4	272(前7-8)	336	1894	136	17	383	4,288	8	36	4		
		北行	13,885			1,179(前7-8)	3,086			267(午2-3)											
	本町橋東	東行					6,793	10 839	1	514(午4-5)	442	2624	118	5	865	5,153	98	393	55		
		西行					4,046			345(午5-6)											
安治川通	空心町橋北	東行					1,225	2468	2	88(前7-8)	872	1023	13		1224	949		74			
		西行					1,243			97(午5-6)											
	安治川上通二丁目	東行					2,357	4384	1	403(前7-8)	265	657	9		166	585	9	11			
		西行					2,027			213(午7-8)											
道頓堀天王寺線	白髪橋西	南行	7841	15,586	3	692(午5-6)	1,684	3,303	5	135(午2-3)	103	319	139	24	165	2416	9	66			
		北行	7745			820(前6-7)	1,619			146(前7-8)											
	立葉町	南行	11,406	22,847	2	1066(午5-6)	2,829	5,546	4	223(前6-7)	130	591	45	13	80	1653	13	73			
		北行	11,441			1,111(前7-8)	2,717			224(午7-8)											
	水津大国町	東行	20,168	39,488	1	1812(午5-6)	2,937	5,556	3	454(前7-8)	316	628	32	3	74	1,236	18	84	1		
		西行	19,320			1,832(午6-7)	2,619			237(午1-2)											
	恵美須町二	東行					9,737	20,103	2	920(午7-8)	183	1525	64	2	281	2023	15	174	3		
		西行					10,366			1,317(午10-11)											
	大正橋公園前	東行					6,280	13,354	1	624(午11-12)	46	2290	58		263	2,006	6	184	4		
		西行					7,074			575(午8-9)											
上本町線	松町一丁目	南行					3,223	6432	3	295(午8-9)	56	843	53	3	145	1,683	18	75	2		
		北行					3,209			311(午8-9)											
	谷町四丁目	南行	21455	44,380	2	1685(午6-7)	3,831	6,877	2	540(午11-12)	72	978	40		161	2303	12	125	2		
		北行	22,925			2,529(午6-7)	3,046			475(午8-9)											
	上本町二丁目	南行	23,913	45,514	1	1980(午5-6)	5,782	9841	1	471(午2-3)	257	1145	143	4	248	2542	9	84	66		
		北行	21,601			1,507(午1-2)	4,059			407(午5-6)											
	上本町八丁目	南行					2,312	5381	4	206(前7-8)	27	524	113	5	165	1413	4	52	51		
		北行					3,069			1039(午6-7)											
	天王寺四丁目	南行					2,176	4734	5	230(午4-5)	9	283	33	3	68	689	4	61			
		北行					2,553			230(午7-8)											
堺筋線	福田橋南	南行					1,875	3675		415(午7-8)	1062	2769	16		692	1402	8	132			
		北行					1,800			2,056(午6-7)											
安堂寺筋	三軒家上之町	南行					3,172	6233		263(午7-8)	220	1039	48	9	223	1683	7	59	1		
		北行					3,061			307(午8-9)											
浄正橋筋	浄正橋	南行					6,362	12,691	4	107(前7-8)	310	591	4	1	159	1790	1	85	2		
		北行					6,329			601(午5-6)											
	上福島中二丁目	南行					17,074	33,492	1	2492(午8-9)	330	1057	50	3	360	2404	10	155	13		
		北行					16,418			2,112(午8-9)											
	上福島北二丁目	南行					15,430	30,674	2	2182(午8-9)	592	1195	44	7	302	2400	12	256	26		
		北行					15,244			1,937(午8-9)											
	上福島北一丁目	南行					12,573	24007	3	1552(午6-7)	409	923	38	2	337	1688	8	116	35		
		北行					11,434			1,832(午9-10)											

資料

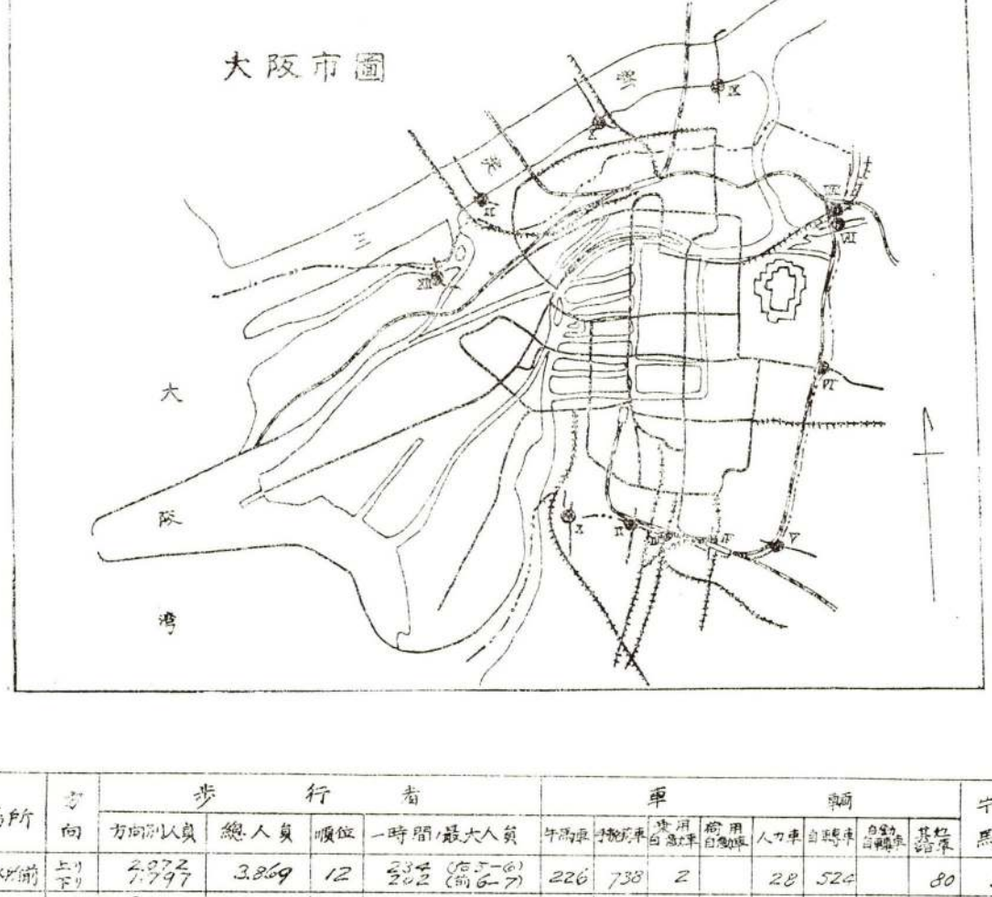
●大阪市都市計畫參考資料 (其四)

(VI) 都市計畫區域內交通量

大阪市内外ヲ通ズル街道交通量調査表

附 附近市郡車輛表 (大正八年三月三十一日現在)

自 大正八年五月二十二日(晴) 正午
至 仝 二十三日(晴) 正午



調査符号	街道名	調査場所	方向	歩行者 方向別人員	歩行者 總人員	歩行者 順位	歩行者 一時間最大人員	車輛 牛馬車	車輛 荷物自車	車輛 乘用自動車	車輛 荷用自動車	車輛 人力車	車輛 自轉車	車輛 自動車	車輛 其他諸車	牛馬
I	十三間川堤	西濱抽水所前	上り 下り	2,072 1,797	3,869	12	334 (后5-6) 202 (前6-7)	226	738	2		28	524		80	5
II	勝間街道	今宮驛南	上り 下り	3,170 3,567	6737	9	237 (前6-7) [illegible] (后5-6)	374	1,098			39	329	1	90	2
III	國道二十九号	關西線下	上り 下り	12,387 11,570	23,957	2	1,476 (前6-7) 1,200 (后6-7)	674	7,867	50	2	207	1,044		116	3
IV	阿倍野街道	阿部野橋	上り 下り	5,917 7,238	13175	4	878 (前7-8) 821 (后7-8)	790	1,055	135		290	1,100	4	48	49
V	奈良街道	城東線	上り 下り	2,900 2,524	5,424	10	347 (后7-8) 250 (后6-7)	760	1,689	2		58	673		48	
VI	暗越奈良街道	黒門橋	上り 下り	16,020 17,011	33,031	1	1,791 (前6-7) 1,856 (后8-9)	865	1,852	2		150	1,675		583	
VII	古堤街道	庁町驛前	上り 下り	3,885 3,599	7,484	6	564 (后6-7) 856 (前6-7)	308	1,558	8		96	1298	1	120	13
VIII	京街道	野田橋	上り 下り	3,565 3,376	6,941	8	395 (前6-7) 391 (后5-6)	386	1,286	33	10	51	1,370	3	74	
IX	亀岡街道	長柄橋南詰	上り 下り	4,695 4,965	9,660	5	810 (前6-7) 891 (后6-7)	1,131	1,216	3		380	1,188	2	93	20
X	國道二十六号	十三橋南詰	上り 下り	3,586 3,650	7,236	7	418 (后6-7) 424 (前8-9)	1,636	1,111	6	2	50	907	4	32	32
XI	梅田街道	西成大橋南詰	上り 下り	2,550 2,590	5,140	11	840 (前6-7) 298 (后5-6)	479	1,095	12		34	629	4	45	53
XII	尼崎街道	千島橋	上り 下り	10,812 11,434	22246	3	1,113 (后7-8) 1,165 (后7-8)	108	1,020	19		496	1,485	9	163	

備考 市内ヨリ市外ニ向フヲ下リトシ之レニ反スルモノヲ上リトス

大阪市及附近市郡別車輛表

大正八年三月三十一日現在

府縣	郡市	區町村	乘用車	人力車	自轉車		自動車		荷用牛馬車	手挽荷車			雜車
					營通	自働	乘用	荷用		大	中	小	
大阪府	大阪市	東區		1,056	7,324	15	48	5	59		1,753		
		西區	4	1,463	10,562	19	109	10	404		1,763		
		南區		2,011	8,794	18	84	6	202		1,469		
		北區		1,954	6,386	15	87	11	157	2,698		10,036	
		計	4	6,484	33,068	67	328	32	822	2,698	12,785	10,036	
	西成郡	十九ヶ町村		178	4,677	5	9		1,235	1,061		8,656	22
	東成郡	二十四ヶ町村		178	4,453	3	5		1,806	843		9,493	
	三島郡	三十二ヶ町村		189	2,898	2			1,091		3,568		
	豊能郡	二十三ヶ町村	3	96	1,025	3	4		962		2,446		2
	北河内郡	三十二ヶ町村		145	2,385				1,136		3,382	2	
	中河内郡	三十九ヶ町村		247	3,732	1			1,286	568		6,130	57
	南河内郡	四十七ヶ町村		201	2,818				863		6,394		
	泉北郡	三十八ヶ町村	5	216	4,012	2	5		1,393	1,133		4,136	
	堺市			153	1,699	2	10		344		3,136		
兵庫縣	尼崎市			51	892	1			65	11	621	540	7
	武庫郡	二十一ヶ町村	9	377	3,190	7	30		1,937		6,106		
	川邊郡	十四ヶ町村		133	2,068	2	4		1,349	17	2,691	852	2
奈良縣	生駒郡	十九ヶ町村		173	1,316	5	1		393	388		3,397	



漫錄

××太平洋を横ぎりて

會員　波江悌夫

（二）

奇遇

さすがに荒れた海の面も稍くたびれたか、其勢を收めて來たと思ふ時分になると、船客の元氣は却つて回復し食堂も賑はしくなり、見慣れぬ新顔がチラホラ甲板に現はれる樣になつた。

或日の午後である、ブラリと喫煙室に入り込んだ自分は其處に雜談に耽つて居る新顔の連中を發見した、一同は申合した樣に自分の方に視線を集中した、大勢の視線が吾身に注がれるときは嫌やな氣がするものだ、しかし面の皮が厚くなると案外平氣で居られる事がある、吾等の船の上では横濱出帆以來食堂へ皆勤の成績を擧げて居た自分は、此點に於て大いに面の皮が厚くなつて居た。

併し一同の視線は自分が簡單な默禮をすると直ぐに元に歸つた、此時自分に一番近い椅子に腰を据ゑて居た一人の紳士は身を斜にして自分の顔を凝ッと視て居たが、

「君とは何處かで遇つた樣だね」

と聲をかけた。

此意外の言葉に自分も思はず相手の顔を凝視した、八字髯を蓄へた引き締つた顔、連日の風浪に聊か青ざめて見ゆる此好紳士の幼な顔は、たしかに自分の記憶に胎つて居た。

「さういへば僕もさう思ひます。」

と答へながら其處にあつた空椅子に腰を下したが

「大分荒れたね、此航路は冬はどうしてもいけない、慣れて見ればなんでもないが、乘ると直ぐに暴風なのだから閉口した、今迄船室に籠城して居たよ。」

此の二人の知り合が話を初めたので、連中はトランプを初めて居た、此ゴーシック流に裝飾された靜かな喫煙室は男子連の遊戲室で、酒場もあれば、碁、將棋、トランプ、花合せの類が備へられて居る。從つて左舷の隅では既に圍碁の一團と將棋の一群とが勝負を爭つて居た。

八字髯の紳士は懷中から名刺を一枚取り出して自分に與れた。其上に書かれてある四字の名前は明かに自分をして中學校時代の記憶を喚び起さして、此の紳士の幼な顔を八字髯の間から尋ね出すに左程の時間もかゝらなかつた。

「あなたは△△中學出身ですな、僕はあの學校に厄介を掛けた一人ですよ」

「やつぱりさうかい、妙なものだ、名前を聞いても忘れて居るが、幼な顔は何處かに遺つて居るものさ。」

「意外な處で遇ふものですな」

と自分は感じた儘を述べた。奇遇といへばたしかに奇遇に相違ない。二十年前の遊び友達にこんな偶然らしい會合は一寸あるまい、そして二人の間に昔の追憶から生れたとぎれ〳〵の話がしばらく續けられた。

だが考へて見るとこんな偶然らしい會合でも少しも不思議はない譯である、今日此頃太平洋を渡る數多の船の上で此種の會合、此種の奇遇が行はれてもそれは少しも不思議はないと思ふ何故なれば太平洋を渡る吾等の船はいはゞ天下の往來である、十八年の艱難辛苦を經て都の十字街頭で仇に廻り遇ふウドングの華咲く物語も

かうした乗合船の雑談から傭手を求め得た事もあつたそうである。御互に同じ様な目的に向つて動くときこんな偶然らしい衝突が生れるのは理屈をこねる必要もないではあるまいか、其昔は百里、二百里の旅立ちすら水盃で親族古舊に訣れたものだ、今は四千里五千里の彼岸に御座る愛人の爲めに、單騎旅裝を整へて此船に乗り込まれた若い婦人さへあるのだもの。

「いや船といふ奴は意外な人に遇ふものだよ、僕はこれで丁度七回往復するが毎回誰か知つた奴に遇ふね」

と八字髯の紳士も述懐した、して見るとさして不思議でもないらしい。しかし不思議と感じたら不思議としておく方が面白いに違いない、奇縁だ遇合だと喜んで見るうちが樂しみは多いに相違あるまいと思つた。

◆見物か研究か

「處で君は何處迄行くんだ？、商賣は？」

と八字髯は訊き出した。

「西半球の大陸へ建築の視察に行くのですよ」

と自分は答へた。

「西半球の大陸は恐れ入つたねハ、、、、」

と高笑ひしながらやがて眞面目な顔になつて、

「そうかい、建築かい、フン！」

と一文字に口を結んだ、自分は殘り少になつた敷島をポケットから取り出した。

彼は銀製の煙草入から金口をつまみ出してトンとテーブルの上で輕く叩いて居る。

「僕の商賣は貿易さ、君の商賣に多少の關係はない事もない、此度は戰後の狀況視察の目的だが、君はアメリカ丈で歸る積りかい？」

「さうです」

「歐羅巴へ行かないのかい、行つからどうだ」

「歐羅巴ですか、一度は行つて見たいと思つて居ますが、此度は駄目です、時が許さんし又金が許さんからね」

「それは時も要る金も要るだが、二度出掛けたら更らに餘分の時も要る金も要るぜ」

「それはそうです、でも私はまあ二兎は追ふま

いと考へました、アメリカ丈でも研究するとなると半年や一年では無理ですからね」

と答へた。

「それもそうだ、だが……フンそうかい」と右手を擧げて鼻下の髯をひねつた。

しばらくして言葉をついで

「僕はこれで七回も新舊大陸を觀て居るが、僕に言はせると、門外漢であるが新大陸の建築はあまり研究にならんと思ふね」

「なぜです？」

と思はず質問した。相手はニヤリと微笑した。

「早い話が紐育あたりの凌雲閣の様な高層建築がたつた一年や半年でどん〳〵完成して行くのを以てもあすこの建築が研究と云ふ事に通り越して堀立小家の様な調子で手取り早く建て居る事は明かな事じやあないかね、そこへ行くと舊大陸の建築はやり方は地味であるかも知れんがコツ〳〵念入りの建築でミツチリと尻を落ちつけての建築で研究すべき材料が多と思ふね、即ち僕に云はせると見る建築は新大陸に多く研究する建築は舊大陸に多いと信じて居る」

彼は彼の所感を有のまゝに說き出した。

門外漢と稱する彼の頭腦は建築に對して相當の一見識を有つて居ると思つた。

しかし自分の只今の目的に對しては什うしても次の様に答へざるを得なかつた。

「あなたの言葉の通り本當に研究された建築は舊大陸にあるかも知れませんね。だが新大陸の建築はなる程急造かも知れませんね、まるで駈け足で動いてゐる日本から見ると、其急造の建築の方が食足つて禮節を知る低の建築よりか參考になると思ひます、殊に最近の商工業界の發展的當今の事務を處理すべき建築としては、時代から見て古い國の建築は最早學ぶ時でない様に思ひます、參考の爲に觀ると云ふ行方でよろしかろうではありませんか。」

八字髯はウンと云つた切りシガーの煙を眺めて居た。

自分は言葉をついで

「最もこれは目下の僕の意見であり實際を視

察した上では又どんな考へになるかも知れません」

「成程それもそうだ、そう言ふ觀方も一理はあるね、しかしまあ實際を觀てからの事にするさだが僕をして君に今一言の忠告をなさしむればだね、よろしいかい、物を視るに半面丈では皮想の見解に陷入る憂があると思ふ、だから新大陸の建築を見ての後にどうかして一寸でよいから舊大陸の建築も觀たらどうかと思ふね、新大陸を突抜けて彼岸に立つた、時なる程と君をして肯かしむる事になるだらうと云ひたいね』

自分は彼の意見の頗る妥當であると云ふ事を感じた、そして出來得べくんば彼の說に從ふ事が自分の目的の上から觀てよろしからうとまで考へた、併し自分は恁ふ答へた。

「まあ紐育まで行つた上の事にしましよう」

彼は再びニヤリとした。

○紐育にて

文ことに天津うたげのおほあふを妻はおくりぬわかかてにとて

○五月上旬サンタフエ線にて

朝まだきヵハヨウの野の萬綠のなかに名知らぬむらさきの花

光安生



〔藻苑〕

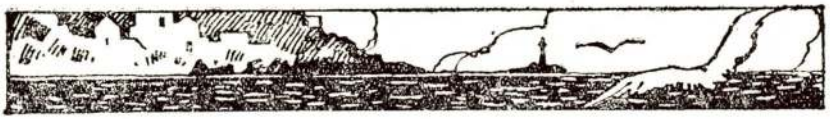
建築と俳句（一）

蘆田秋双

俳句は自然と生活を歌ふものである以上、その生活に必要なる家屋に就いて、より多く詩眼を輝かさねばならぬ事は謂ふまでもない。

それに就いて古來數多の俳人が眼に映した建築物を、如何にそれを取材し詩化してゐるかを、今試みに座右の古俳書の二三を繙いて、先づ夏の部を見た。

時鳥鳴くや木の間の角櫓　史邦
殿作り並びてゆかし桐の花　其桐
蝙蝠や河原の院の燈し影　桃牛
水無月や朝起したる大書院　素牛
鷲の老のいり端や松原寺　曉臺
絶頂の城たのもしき若葉哉　蕪村
大寺の森閑として百日紅　同
神社、佛閣、又は城の如き大建築物は最も印象され易く、句も隨つて多かるべき道理であるに、事實はそれに反して只僅かに以上の數句しか目に止まらなかつた輪煥の美を極めた大建築物よりも、却つて
羽蟻飛ぶや富士の裾野の小家より　蕉村
子子の水や長沙の裏借家　同
五月雨や大河を前に家二軒　同



小鯛さす柳涼しや海士が軒　芭蕉
萍の花や來い〳〵鈴が茶屋　一茶
後向き前向く家や閑古鳥　猿雖
横日さす野守の門や紅の花　寄流
芍藥に網戸つかゆる庵かな　官父

などの如く小家、庵、茶屋といつた方の句が比較的多い、殊に

壁破れてありたけ草の四月哉　曉臺
わけもなき礎の屑家の夏の月　道彦
やがて此堂も引くべき羽蟻哉　素流
秋近くなるや古屋のやどり草　道彦
野の宮のふりゆく竹の落葉哉　不知
古壁とともに崩るゝ蝸牛　涼菟

の如く、古家又は破屋に近いものを詠み し句が最も多い。

又その片面には

水に臨む欄杆高し青嵐　白雄
二階から物の言ひたや鉾の兒　太祇
たれこめて祭見る家輩す　几董
この風に不足そうなり夏座敷　一茶
此の家はこれほど思ふ牡丹哉　專吟
山も庭も動き入るるや夏座敷　芭蕉
紫陽花や藪を小庭の別座敷　同
戸を明けて蚊帳に蓮の主人哉　蕪村
木がくれに名譽の家の幟哉　同

斯の如く晴れやかな家の様を表現した句も可成散見し得られる。尚此外に數寄家四阿などの句も二三あつた。

四阿の闇を廻るや鳴く水雞　鳥酔
水無月に鼻突合す數奇家哉　凡兆
夏の日や數奇屋大工の物靜　百明

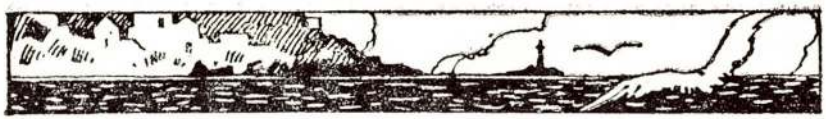
門を詠じた句はたゞ僅かに

五月雨や山几伊達の木戸　曉臺
涼しさや朝草門に荷ひ込む　風兆
鞍つぼに酒吸ふ門や柿の花　曉臺
夏山や片戸明けたる裏の門　嵐雪

この數句に過ぎぬ。

横日さす野守の門や紅の花　寄流
鮎くれてよらで過ぎゆく夜半の門　蕪村

これは門でなくて門と讀むのである。



屋根、廂などを詠んだものに

菖蒲葺く屋根に日和の目利哉　涼苑
夕立や片戸かけたる片廂　嵐雪
夕顔に馬の顔出す軒端かな　一茶
屋根葺は屋根に涼みの噂哉　太祇
灌佛やうゝじ並べる井戸の屋根　曲翠
蝙蝠や古き軒端のつり葱　暁臺

など可成句數も多い。

卯の花の見ゆて紙すく垣根哉　重厚
晝顔や子を連ぶ勝垣根より　召波
卯の花の麥蔓に散る垣根哉　昌房

垣根を取材したものも又多いのは、植物に配して頗る調和のよいのと、そして如何にも風雅なものであるため古俳人が好んで句にしたものと思はれる。

厩等を詠んだもの可成あるも、

日盛や厩に並ぶ馬の尻　魯哉
牛部屋に夜見る草の螢かな　玄水

橋を詠みしものに

暑き日の馬子の喧嘩や瀬田の橋　光宗
子規裸で起きて橋二つ　氷山
橋落ちて人岸にあり夏の月　太祇
掃流す橋の埃や夏の月　同
蝙蝠に顔かゝれなよ橋の上　桃隣

壁を詠みしものに

白壁の日のかへりうつ暑さ哉　季流
壁破れてありたけ草の四月哉　暁臺
土壁とゝもに崩るゝ蝸牛　涼苑

などがある。

この他建築業者を主として詠んだものを擧ぐると

雲の峯大工屋根屋を憐めり　凡董
屋根葺は屋根で涼みの噂哉　太祇
石工の鑿冷やしたる清水哉　蕪村
夏の日や數寄屋大工の物靜　百明

の數句を得た。

以上の句を通じて見ると、大厦高樓の句よりも概して小家の方に多數その句を見るのは、全く古俳人の性質が恬淡で、そして侘びた生活に親しんだ結果自然その方面に着想を索める事が多くなつたものと思はれる。



俳句

蘆田秋双選

□夏の夜

夏の夜や膳の上なる白豆腐　月斗
夏の夜や麥茶の麥を煎る匂ひ　同
夏の夜や虫が來る燈を消してゐる　同
夏の夜や雨が晴れたる七日月　同
夏の夜の電燈のいきれ覆せり　同
夏の夜の樹々の色皆露持てり　月
夏の夜の月出て黒鯛歸りけり　四
橋の上に夏の夜の築地見てゐたり　同
夏の夜の埠頭の石の溫みかな　士
夏の夜の船に移れば肌冷ゆる　栖
夏の夜の空が明るく更けてゐる　同
夏の夜を濱邊に更かし歸る哉　同
夏の夜の冷ゐを覺めて家に入る　鳩口
雨一過靜かな夏の夜となれぬ　同
夏の夜の濱の明神に歩きけり　尚巾

□桐の花

花桐に雨來す暑く晴るゝかな　月
桐の花落つ夜の二階明きかな　四
寺の井を一村汲めり桐の花　之水
花桐や家かたまつて山の村　同
桐の花塀添ひに清き流れかな　表門
花桐や敷砂白き行啓道　同
水濶く影をうつして桐の花　青村
桐の花風通しよき座敷かな　築城
日の庭に蜂下りて來る桐の花　由水
花桐や二階たま〳〵掃かれ哉　同

□茂

椋が茂りてタべの軒を暗うせり　月斗
堂屋根の傾斜流れ込む茂り哉　芦仙
喘ぎ來る人を茂りに待居たり　鳩口
寶物を見し暗き目に茂りかな　烏白
木の間茂抜け出て湖の明るさよ　大津
一本の路次の榎が茂りけり　秋双

□行水

青葉がくれに行水見ゆる坂の下　月斗
行水や梨の樹に烏騒々し　闇庭
行水や槐漏る日のあるかなし　芦仙
行水の襯衣をかけし樹や三日の月　月波
行水の狹き我家に歸りけり　烏白
燈火を遠くに置いて行水す　虹水
行水をする暇なく商へり　秋双



行水や屋根からものが落ちて來し　秋双
行水の路次を拔け出て來たりけり　同

□守宮

蚊帳の上の電燈消しぬ守宮なく　凡童
誰も居ぬ燈を明くしぬ守宮なく　同
燈にうたれ守宮動かぬうとましき　同
倉壁のしめりにヒタと守宮哉　鳩口
守宮這ふ塀の下日影とゝかざり　同
雜然と積みし薪に守宮かな　同
厠に月あかりして守宮かな　大津
この空家借る人なくて守宮哉　月波
大風に街燈動く守宮かな　閑庭
學校の小使室の宮守かな　坡水
椽を匍ふ守宮に女怖れけり　烏白
走馬燈の明りに遠く守宮かな　秋双

打水に庭ぽと〳〵や守宮匍ふ　同
水鐵砲塀の守宮にとゞくかな　同
猫の眼をのがれて守宮高き哉　同
白壁を汚して守宮居りにけり　同
物干の月に涼めば守宮かな　同

□灯取虫

橋の燈が一つ点れり灯取虫　烏白
二階の燈畑にとゞかず灯取虫　六樓
水をうつ屋根のほてりや灯取虫　同
舟渡御を迎ふ篇や灯取虫　曉天
誘蛾燈雨に光るや灯取虫　坡水
灯取虫闇の中より光り來る　秋双
灯取虫に遠き夕立のあほち風　同

□打水

打水に小石あらはや日の尖り　芦仙
打水や西日尚ある倉の壁　同
水打たせて度々と庭ありきけり　同
御手植の松もの〳〵し水を打つ　花上
打水の乾く日覆の一ところ　鳩口
水打ちし上に轉びし子供哉　郁子
打水の中をひき行く金庫かな　秋双
打水に炭こばし行く車かな　同
打水や貰ひ祭の淋しさに　同

次號課題

家（夏季）

□七月十五日締切
□句數無制限
□建築と社會句稿と表記する事
□住所氏名明記の事
□天地人には薄謝を呈す

投稿所　大阪市北區東梅ケ枝町五九〇　蘆田秋双宛

「時報」



◉都市計畫と國道

大阪市都市計畫案は過日內務省に於て開催せられたる都市計畫中央委員會にて大體の骨組だけは決定を見たるが府にては中央委員會の議決せる區域即ち西成東成の僅少部分に如何に大道路の開鑿せらるゝあるも之れに關聯する郡部幹線道路の幅員を擴大するにあらざれば交通上の支障を免れずとて大阪市の都市計畫に順應する爲め昨年の通常府會に於て阪神國道の改修（四箇年繼續、工費五百四十萬圓）及び奈良街道（二箇年繼續、工費七十五萬五千圓）の改修を斷行したるが今回の大大阪市の計畫に對しても亦將來は幾多幹線の大改修を行はざるべからず此等を豫想する時は今後府が數年間に亘つて行はんよりも今回の都市計畫に依る改修を成せば財源其他に於て問題の解決比較的容易なれば府にては此際都市計畫と關聯して幹線道路の大改修を斷行せんと企圖し成案を具して內務省と折衝を重ねたり然るに地域の問題については內務省と異る見解を有したる爲め同省と經緯を生じ容易に解決を見ざりしが該問題も池松知事の上京に次いで田中府土木課長の上京となり熱心に府の立案を說明せし結果漸くにして同省の諒解を得て略ぼ大阪府の都市計畫區域決定せしを以て近く新法に依る都市計畫委員の任命を俟ちて府にて都市計畫地方委員會を開き其決議を經る順序となりたり而して府の都市計畫區域は嘗て記せし如く東成西成兩郡は素より三島郡は吹田町豐能郡は石橋附近北河內郡は守口町南は堺市、中河內郡は八尾町迄を區域に包含する彭大なる計畫なるが此等の小都市と聯絡する道路は紀州街道、阪神街道、京街道の三國道、奈良街道、阿倍野街道、暗越街道、龍勢街道、龜岡街道、梅田街道の各府縣道にして其交通量に對しては相當の幅員を設くべく目下道路技師を派して幅員並に總工費を調査中なれば此機會に於て大阪市の都市計畫に對應したる道路の改修を見るべし尤も大阪府の都市計畫と云ふは重に大阪市の大道路に關聯する計畫と高速度交通機關敷設の二點に存し道路の改修は當然町村若くは其他の公共團體が實行すべき

性質のものなるもコハ到底町村其他の資力の許さゞる處なれば内務省は府に指令を發して府知事をして之を實行させる事となるべく道路改修に要する府の經費は今の處正確なる算出を得ざるも大阪市の都市計畫費用一億三千萬圓の約三割見當即ち三千九百萬圓位を要すべき見込なり而して斯かる尨大なる經費は大阪府の歳計一千八百萬圓に比して實に均衡を失したる支出なるも之れに對しては國より市の都市計畫費國庫三分の一の補助あり殊に都市計畫施行令に明示せる地租百分の十二半以内、國稅、營業稅百分の十七以内、營業稅、雜種稅又は家屋稅各府縣稅十分の四以内其他不日公布の筈なる勅令の定むる財源等を見積る時は相當の財源を得べく又大阪市よりも市と密接なる利益を有する道路の改修に對しては相當金を納附すべき筈にて現に阪神國道の改修に對して市よりの納附金あるが如く其他の道路に對しても交通關係の密度に依つて納附金を受くるは阪神國道のそれと同じく府は即ち今回の計畫に要する經費の財源は（一）都市計畫施行者の示す財源（二）府費（三）國庫の補助（四）市の納附金を以て充當すべきが府費支辨は前途恐か困難の模はるなきにあらざれば結局公債を募りて之れが支出の方法に出づべきが只問題とせられ居るに都市計畫施行令の示す財源は果して都市計畫區域内に賦課すべきものがそれとも郡部を一の區域に限定して徵收し得べきものか又府費の支出は郡部豫算を以て支出すべきものか或は市郡聯帶の支辨とするかの二點にて此點については尚十分の研究を要するも如し又此大計畫範圍内の各町は府の道路改修に對應して町劃の改正幹線道路と聯絡道路の改修を勵行の暁に出づべく府にても其企てに對しては極力贊意を表し場合に依つては此等は此際是非勵行せしめんと云ひ居れば此等に對する府の土木費補助費をも見積らざるべからず旁府の支出は莫大の金額に達すべきも斯くして大大阪市を中心として描かれたる大計畫は縱橫に敷設される數條の高速度交通機關の完備と相俟つて其面目を一新すべく期待さる

◉幹線道路改修工事

本年度の都市計畫遂行に關しての工事年度割は市の都市計畫部に於て既に決定せるが市内は比較的雜閙する堺筋の如き場所から鋪裝工事を開始する豫定なり又淀屋橋筋の幹線道路は都市計畫の中核を爲す道路なるを以つて大正十年には其工事に着手する段取りに成りあり又接續町村に屬する幹線道路改修工事は當該接續町村の編入後にあらざれば着手の運びに至り兼ねる故にその先決問題として編入に關する事務を進捗しあり尚當つての市の重要問題は都市計畫工事費の財源問題なり初め市當局は工事費の財源を土地增價稅を主とした新稅及特別賦課稅に仰ぐ豫定なりしが增價稅等に關する勅令の發布が豫定よりも遲れたるが故に豫定に齟齬を來たせし由又近々右勅令の發布を見るにしても時日切迫せる此際急速の間に合はざるを以て已を得ず本年度工事費の大半は特別賦課稅に依る事とし既定の方針を改訂する必要を生じ市課長會議を開いて都市計畫工事費の當分の間の基本財源

たらしむべき特別賦課に關して協議せり而して特別賦課の標準に關しては

一、道路を新たに築造する場合
二、舊道路を擴築する場合
三、同じ擴築の場合にしても道路の一方が河川なる場合
四、鋪裝工事のみを施す場合
五、擴築して更に鋪裝を施す場合

等の區別あり故に是等の場合に就いての特別賦課率に關して一々討議せるが未だ其最後の決定を見るに至らず然し特別賦課率の決定は全然市長の權限に屬する故市當局にて決定の上は非公式に市會に諮問して直接主務大臣の許可を得賦課徵收する事となる譯なり

◉都市計畫の財源

大阪市の都市計畫財源に就いては市當局より內務省の意嚮を叩くと倶に一面內に財源の捻出に就ては折角調査中なるが大體に於て左記の如き新稅を起し以て資源に充つべき方針なり而して就中有力なる資源土地增加稅は是れが課稅に當りては種々の面倒あるを以て目今市の評價員に季囑して十年前の登記面と時價との比較等より綿密なる調査を遂げつゝあり而して其他には閑地稅遊興稅觀覽稅沿線の特別稅を始め現在府稅雜稅として徵收しつゝある車稅の如きは去る六月四日より實施されたる路道法に依るも將又合理的見地よりするも當然都市計畫の財源に充つべきものにして而も現在年額四十八萬圓に達せるが愈々決定の曉は年々百分の二位遞增すべき立案なるが更に今日の市稅擔下稅の如きも移管し又國稅通行稅をも都市計畫の財源に讓受け電鐵敷地の組替財源に充つべく計畫を樹てつゝあり最も如上の如きは一般會計として取扱ふ意圖なりと云ふ

◉道路の鋪裝工事

東京市へ道路改良費として三百萬圓下賜の御沙汰あつて以來道路改良協會の六大都市に對する建議となり道路改良の聲は一層昂まれり惡道に惱まされてゐる大阪市民の道路改良を望むの切なるものあるは梅雨季を控へて寔に心底からの要望なり、大阪市では都市計畫中に道路改良計畫を樹てゝ都市計畫の第一着手として道路改良を行ふ筈なるが、道路改良は市內の舊道百二十萬坪の內約四分の一三十萬坪の路面に鋪裝工事を行はんとするにあつて豫算總額二千萬圓大正九年度より五箇年の繼續事業なり、舊道として鋪裝さるゝは市區改正と全く關係を有せざる幹線道路並に其枝線道路にして本年秋より起工さるゝ筈なり、本年度は堺筋線難波橋より日本橋筋に至る幹線道路並に其枝線に鋪裝工事を施さるゝ豫定にして車道は木煉瓦道、人道コンクリート道とし工費二百萬圓は他の都市計畫費本年度分五百萬圓と共に地方委員會で決定次第市會の決議を經て起債さるゝ筈なるが市土木部では工事の迅速を期するために既に工事材料の準備に着手せり、人道鋪裝と共に軒先切取をも同時に行ふ手順なるが道路の鋪裝種類は主要幹線道路を木煉瓦道とし重量物の運搬道路を鋪石道とし他はターマカダム道とさるゝ筈なり

◉道路法外例除發令

道路の變更又は廢止に關しては道路法第

五十二條の規定する所により監督官廳の認可を受くるを原則とするものなるが府縣道以下重要ならざる道路にして左記八種の場合に限り特に認可を必要とせざるべきことに決定内務省より各府縣長事に對し通牒を發したり

一、鐵道停車場又は港津の移轉に伴ふ場合
二、耕地整理に伴ふ場合
三、鐵道又は軌道敷設の爲必要なる場合
四、河身の移動に伴ふ必要なる場合
五、市街市内の平行線中形質優良なる道路を府縣道又は郡道となす爲必要なる場合
六、市區の改正に伴ふ場合
七、水害潮害雪害又は砂害を避くる爲必要なる最小限度の變更
八、勾配又は屈曲の改良上必要なる最小限度の變更

◆大阪府の河川整理

大阪府に於て道路並に河川改修の根本計畫を決定すべき土木事業調査は着々進捗し道路に就ては道路法による認定後第一期改修計畫決定し國道、府縣道に互て夫々改修に着手することゝなりたり又河川に對しても通船、用水、水防等の目的を以て夙に改修整理の調査を開始し昨年度に於て調査完了したる木津川及中津川は既に改修工事實施中に屬し更に本年は寢屋川尻無川並に神崎川の一部に對して改修整理の調査を行ふことゝなり寢屋川は現に調査中なるが北河内郡枚方より守口に到る淀川に對しては八箇所の用水樋管を有し景等が集つて寢屋川の水源を爲せるが多數の樋管を存置することは洪水の際危險なるを以て府の計畫としては枚方に於て一條の運河を以て淀川と連結し寢屋川の水量を增加し用水と兼て通船に便ならしむる方針にて相當の大事業なるが調査完了の上は明年度豫算に改修費を計上すべき筈にて尻無川は新櫨橋より梅本橋に到る間川幅狹小なる爲め之を擴張して通船に便ならしめ神崎川は其上流に於ては殆ど堤防すらなく水防上緊急改修の要あり景等も府財政の許す限り明年度に於て整理改修すべき計畫なり

◉倫敦の住宅公債

加州民家屋建築資金調達の目的を以て前月中倫敦附近三箇のカウンティが共同して五百萬磅のハウシングボンズ（住宅建設費公債）を賣出し好成績を收めしより他の諸地方に於ても之に倣ひ共同して同樣の公債を賣出すものある模樣なり右に就て佐野博士曰く英國では殊に戰爭以來著しく住宅の不足を告げ改造省が專ら善後策の講究に當りあり今春の議會には差當り二十億圓の豫算に五十萬戶を急造する改造省提案が無事に通過し費用は三分して國家公共團體及び居住者が負擔する事となり今度の倫敦の建築の公債は實に其一部を實行する爲めにて彼の今月初め倫敦で催開されし都市計畫及び住宅問題の國際大會議も一半はこの五十萬戶建造の一大プロパカンダの爲めなり、倫敦市にも獨立せる住宅の調査機關ありて都市計畫の事に當れるが今回の公債は倫敦の東方地域の改造及び其處に建設さる住宅建築に用ひられる筈なり



會報

編輯

○會誌『建築と社會』の內容に就て編輯者は相當苦心を拂つてゐるのでムいますが、過般編輯會議の結果本號より多少內容を革新した積りであります、尤何れ理事會を經過した上で更に一層革新を爲す筈でムいます。會員各位に於ても編輯上の御氣付の點や御要求を寄せられ度く希望致します。

○近來本誌は會員以外にも大分讀まれるようになつて來ました、又會誌其ものとしても經營上增々有望に進むで居ります

會合

◉理事會

▲日時　六月一日正午ー午後二時

▲會場　大阪倶樂部

▲出席者　片岡、宗、葛野、舟橋、吉井の各理事及江村（編）

▲記事　（一）入會申込者長澤榮作氏外十五氏に對して詮衡を爲し、別項の通り孰も入會を承認せり。（二）會員の小松吉久氏臺灣に轉住に付退會申出の事告あり。（三）舟橋會計理事より會計の現狀に就て報告あり、而して會誌廣告頁新設及特別廣告料金引き上げを諮り、來る七月號より實施の事に決す（四）新事務所設備貰寄附依頼先にして未だ寄附申込なき向へ對し更に依頼狀を發する事に取り極めたり

◉第七部委員會

日時　六月十一日午後六時半ー八時半

會場　當事務所

出席者　瀨戸（文）、波江、新海、江村（編）

記事　東京に於ける建築材料聯合調査會の議案中煉瓦の寸法に就て協議を爲す

◉編輯會議

日時　六月十六日午後六時半ー十時

當事務所

出席者　池田、吉井、波江、江村

記事　内容の部門別け其他數項に就て改善方法を取り極めたり。

◉例會

日時　六月十七日午後六時半―七時半

會場　當事務所

出席者　坪井、森(篤)、宗、葛野、長澤、山脇、土居原、田中、池田(實)、武田、吉井、片岡、山本(辰)、平島、吉木、光安、山本(磯)、竹中、前田、鈴木、岡本、高柳、權藤、池田(宮)、呼子、今林、永野、舟橋、置鹽、瀨戸(文)、谷、波江、新海、江村(編)、

記事　(一)宗主記より別項の新入會員並に現在會員數に就て報告を爲す。(二)避雷針調査に關して協議を爲す。(三)内藤弟一部委員長より『市街地建築物法施行規則』修正案に就き理事會へ委員會の報告を爲して責任解除あり度旨を諮り承認されたり(四)次いで、波江悌夫氏『都市計畫に就て』と題する最も有益なる講演ありたり。(五)了つて、瀨戸第七部委員長より、建築材料聯合調査會の議案に就き報告を兼ねて説明ありたり。

◉第七部委員會

日時　六月二十一日午後六時半―七時

會場　當事務所

出席者　瀨戸(文)、片岡、舟橋、小林(悉)、谷、森(正)、須川、波江、吉木、德政、江村(編)

記事　建築材料聯合調査會議案中、角材、板類、入口、窓等各寸法を決定す

◉第七部委員會

日時　六月二十一日午後六時半―七時

會場　當事務所

出席者　片岡、瀨戸(文)波江、新海、宗、光安、渡島(書)

記事　前回に引續き建築材料聯合調査會議案に就て協議せり

會員消息

◉新入會者

別項所載の通り、左の諸氏に對して入會を承認し、夫々通知狀を發せり。

(會員)

長澤榮作、國枝博、難波停吉、山本藤次郎、末弘平作、高柳宗一、竹平清四郎、

(終身賛助員)

湯淺乙吉

(普通賛助員)

村上秀二、深澤勝久、和田順三、田中安治郎、白井一男、吉田榮次郎、千草謙、奥田芳男、

◉住所移轉

(會員)

田代守次君　移轉先　神戸市葺合町一七二ノ一ノ六

權藤要吉君　移轉先　兵庫縣尼ヶ崎市寺町(藤本方)

大野直平君　移轉先　大阪府豐能郡櫻井谷村螢ヶ池南

西田儀太郎君　移轉先　神戸市北長狹通五丁目六十九番屋敷

(普通賛助員)

三木作二君　移轉先　神戸市兵庫中道通九丁目三一ノ二櫻事方

鈴木秀次郎君　京都市田中門前町
帝國大學門前
茂木清太郎君　東京市日本橋區平
松町五
玉川貫治君　大阪市北濱四丁目宗
建築事務所
（特別賛助員）移轉先
古賀鄕實君　大阪市外天王寺村天
玉寺九二二（浦野方）

◉退會

（普通賛助員）
小松吉久君　臺北在住

●逝去

當協會名譽賛助員にして元帝大教授內務省顧問勳三等工學博士ジヨサイヤ、コンデル氏は腦化症に罹り療養中の處去る六月廿二日拂曉永眠されたり仍て當協會は深厚なる哀悼の意を表すべく吊電を發したり

圖書

◉寄贈

建築雜誌　第三四輯第三四〇一號（建築學會）
建築世界　第十四卷第六號（建築世界社）
住宅　第五卷第六號
工業之大日本　第十七卷第六號（工業の大日本社）
通俗衛生　第二六二號（大阪衛生會）
電氣協會雜誌　第三八二號（電氣協會）
材木新聞　毎號（其社）
建築評論　第二卷第四號（建築評論社）
新住宅　第一年第六號（其社）
日本ペイント商報　第六二號（日本ペイント製造株式會社）
チナミ　六月號（東京出版株式會社）
工業の友　第一五七號（工手學校同窓會）
商工時報　第二十八號（大阪市役所）
茶業會誌　第一號（滿鐵建築茶業會）

役員及職員

理事長　片岡安
理事　宗兵藏（主記）
　　池田寅（編輯）
　　葛野壯一郎（編輯）
　　吉井長七（編輯）
　　舟橋喜一（主計）
編輯補　設樂貞雄
　　波江悌夫
　　佐藤四郎
江村郊邨
書記　越山達
　　波島繁

會員	一八一	會員（地方）	五三
名譽贊助員	七一	終身贊助員	四二
特別贊助員	九	普通贊助員	二五八
合計	六一四		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
特別頁ハ料金一定シアリ御照會アリ度シ		

大正九年六月三十日印刷　（毎月壹回）
大正九年七月一日發行　（一日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）
發行兼編輯人　伊藤幸太郎

大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地
印刷兼印刷人　大阪活版所

大阪市西區京町堀上通一丁目
不動貯金銀行ビルデインヂ內
發行所　日本建築協會
電話　土佐堀一
振替口座大阪三九、九七五

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋北
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

白耳義國首府
ブルュクセル市建築規則
（下）



ブルユクセル市建築規則【下】

第十四章　特別構造物ー認許

第七十條　何人ト雖前以テ特ニ市參事會ヨリ認許書ヲ得ルニアラザレバ左ノ事ヲ爲スヲ得ズ

(イ)　糞尿溜、肥料、腐敗物ノ溜桝ヲ公道ヨリ如何ナル距離ニアルニ拘ラズ又其地所ノ外構ニ依ヲ圍繞セラレ居ルト否トヲ問ハズ之ヲ新設、修繕、取毀又ハ廢止スルコト

(ロ)　下水、下水ノ支管或ハ上水管ヲ公道内又ハ私有地ノ内部ニ於ケルトヲ問ハズ之ヲ新設、改設又ハ變更修繕或ハ廢止スルコト

第七十一條　認許ノ出願ハ持主ニ於テ月日ヲ記入シ姓名ヲ署シ市參事會及助役ニ呈出スベシ

第七十二條　總テノ認許出願ニハ左記ノ圖面二通宛ヲ添ノベシ

(ア)　第七十條(イ)項ニ關スル工事ニ於テハ

一、施行スル工事ノ平圖面

二、糞尿溜、肥料溜等ノ位置ノ外其附近ニアル井戸、用水溜等ノ位置ヲ示ス地圖

(イ)　同條(ロ)項ニ關スル工事ニ付テハ

一、下水、下水ノ支管及上水管ノ平面及斷面圖

二、下水及其支管通風ノ方法及此等ガ一般ノ疎通法ト如何ナル關係ナルヤヲ示ス斷面圖

第七十三條　此等ノ平面、斷面等ノ圖ハ持主ニ依テ月日ヲ記入シ署名シタルモノニテ寫布上ニ一米突ニ付二仙米突ノ尺度ヲ以テ精確ニ墨汁ヲ以テ引キ着色書入等ヲ施スモノトス

修繕或ハ模樣替ノ工事ナルトキハ保存スル部分ハ墨、取毀ノ部ガハ黄、改築スル部分ハ赤ヲ以テ引キ或ハ着色スベシ

願書受付ノ際ハ二通共捺印シ若シ變更アル場合ニハ之ヲ更正シタル上一通ハ綴込ニ綴リ一通ハ之ニヨリ精細ニ準據シテ施工スル爲關係者ニ渡付スルモノトス

第十五章　下水ー支管

第七十四條　新築建物ノ地下室ノ床ハ汚水及時ニシテハ排泄物ヲ流下セシムル管ヲ布設スルニ差支ナキ高サニ設クベ

シ而シテ此支管ヲ其處ニ公設下水アル場合ニハ其中ニ流通スル物ノ水準ニ相當セル點ニ於テ之ヲ接續スベシ

第七十五條 道路ニ汚水及排泄物ヲ流下スル公設下水ノ布設アル場合ニハ之ニ接シ建物ヲ有スル土地ノ所有者ハ汚水及排泄物ヲ此下水ニ流下スル管ヲ設クベキモノトス

各家屋單獨ニ公設下水ニ連結ヲ付クベシ

第七十六條 市參事會ハ其必要ト認ムル條件ノ特別命令ヲ下ダシ公設下水ニ工業ヨリ生ズル惡水並ニ蒸汽及攝氏三十度以上ノ溫度ヲ有スル水ヲ流下スル支管ヲ設クルコトヲ許可スルコトヲ得

第七十七條 私設ノ支管ハ藥引陶製又ハ酸化セザル鑄鐵製ノ鍔付ノ管ヲ用ヒ硬キ地盤又ハ管ガ常ニ溝渠ノ敷ニ不陸ヲ生セズ定置セラルヽ樣厚二十仙米突ノ混凝土ヲ打チ其ニ設クベシ

職手ハ內部ニ喰ミ出ッ事ナク且漏水ノ恐レナキヲ要ス

支管ハ直線ニ布設シ其公設下水トノ取合ノ點ハ檢查スルニ便利ナル構造タルベシ

其傾斜ハ一樣ニシテ最少限ハ一米突ニ付三仙米トス

其水上ミノ一端ハ普通地下室ノ床ノ水準ヨリ少クモ二十仙米以下ニアルベシ

下水管ガ壁ヲ橫斷スル場合ニハ之ニ迫リテ掛クルカ又ハ丈夫ナル楣ヲ渡シ其下端ト管ノ間ニハ建物沈下ノ場合ニ於ケル準備トシテ七十五密米突ノ空虛ヲ存スベシ

下水管ニハ其用途ニ應ジ充分ナル斷面積ヲ付スルモノトス其直徑ハ十仙米突以下トスルコトヲ得ズ

第七十八條 場合ニヨリ私設支管ノ地下室ノ床面以下ニ布設スルコト能ハザルトキハ之ヲ室ノ上ニ置クカ又ハ管一本毎ニ二本宛ノ鉤リヲ以テ之ヲ鉤ルコトヲ得

第七十九條 私設支管ハ上部ニアル諸管ハ勿論總テ建物ノ下或ハ中庭ノ地盤以下ニアル部分トモ空氣ノ流通ヲ完全ナラシムル爲其兩端ニ於テ換氣管ヲ備フベキモノトス

私設下水管中ニアル孔ニテ換氣用又ハ檢查ノ爲メ要ナキモノハ完全ナル栓ヲ施スモノトス

第八十條 下水ニ直接連續スル「サイフォン」的檢查口ヲ床ノ敷瓦又ハ床板ノ內ニ造リ込ムコトヲ得ズ

第八十一條 私設支管ノ線中地下室內建物前面ノ壁際ニ於テ達シ得ベキ處ニ一段其口ヲ低クシ「サイフォン」ヲ挾入スヘシ此「サイフォン」ハ下水管ヨリ少シ小ナル徑ヲ有スルモノトス其兩端即チ水上ミ及水下ニ於テ一ハ通氣孔一ハ掃除口ノ爲穴ヲ備フベシ其檢查又ハ浚ヘ方等ニ用フル穴ハ密閉スベキ蓋ヲ備フルモノトス

換氣用ニ供セラルヽ水上ミノ孔ハ一ノ支管ヲ取付前庭又ハ前面ニ庭園アル家ニ於テハ住居ヨリ最モ離隔セル點ニ導キ其處ニ於テ地盤又ハ地盤ヨリ少シ上ニ吐口ヲ設ケ又直ニ町ニ面スル家ニ於テハ建物前面ノ壁ニ沿ヒ直立セシメ其上端ヨリ吐出スル瓦斯ノ建物中ニ入ラザル樣充分ナル高サニ導キ吐口ヲ設クベシ

第八十二條 私設支管及之ト內部ニアル

諸管トノ接續點ハ其裝置ノ良好ニシテ且漏水ノ恐ナク使用上差支ナキコトヲ保證スル爲メ施ス工事ノ檢査ヲ受ケ之ヲ結了シタル上ニアラザレバ埋戻ハコトヲ得ス此檢定ハ市役所ニ於テ任命シタル其係員ニ於テ執行セラルヽモノトス

第八十三條 私設下水ト公設下水トノ連結ハ新設ノ場合ニ於テハ私有地ノ境界ヨリ公設下水ニ至ル迄ノ間ハ持主ノ費用ヲ以テ市役所ノ監督ノ下ニ之ヲ行フモノトス

第八十四條 大便所、小便所及此等ノ排泄物ヲ受クル流シノ流下管ハ其內ニ疏通サルヽ物質ニヨリ作用ヲ受ケザルモノニシテ其內面ヲ滑カニ、繼手ヲ少クシ且漏水ノ虞ナク內部ニ凸出物等ナキモノタルベシ

此等ノ管ハ八乃至十仙米突ノ內徑ヲ有シ途中栓等ヲ設クズ直接私設下水ニ連接スベシ

此等ノ管ハ直徑ヲ減スルコトナク又出來得ル限リ屈曲ヲ避ケ垂直ニ家根上マデ延長シ汚穢ナル空氣ノ吐口ノ充分ノ高サニ置クベシ

最高所ニアル便所ヨリ上ニ延長スル部分ハ鑄鐵管ニテ其繼手ニ鉛ヲ打込ミタルモノヲ使用スルコトヲ得

流下管ノ上端ハ凡テノ窓、屋根窓或ハ突上ゲ窓、風穴、或ハ住室ニ通ズル煙突ヨリ少クモ二米突ノ距離ヲ保ツモノトス

此等ハ一米突九十仙以內ノ間隔ニ堅固ニ壁ニ取付、其下端ニハ踵形管ヲ丈夫ナル礎盤ノ上ニ定置スベシ

第八十五條 鉛又ハ不酸化質ノ鑄鐵管ヲ特ニ汚水疏通用トシテ可成垂直ニ取付クベシ其垂直管附近ノ壁ニ垂直ノ部分ハ一米突五十仙以內其他ノ部分ニ於テハ六十仙米突以內ノ間隔ニ取付ケ其下端ニハ踵形管ヲ堅固ナル礎盤上ニ据クベシ

厨房ノ流シ、汚水流シ、噴水、手洗所湯殿ヨリ生ズル汚水及溢水ヲ流下スル管ヲ便所ノ流下管ニ接續スルコトヲ得ス之等ハ建物ノ外壁ヲ橫斷シ中庭ニアル吸水口ノ金網ノ上部又ハ其下部ニ於テ外氣中ヘ吐口ヲ設クルコトハ適宜タルベシ

第八十六條 貯水函及用水溜ノ溢水管並ニ湯殿便所等ノ敷ヲ流ルヽ水ヲ集メ流下セシムル管ハ直ニ下水又ハ排泄物流下管ニ接續スルコトヲ得ズ

空氣ノ切斷シ一部ノ換氣ヲ計ル裝置ヲ私設支管ト總テノ用水溜溢水管トノ間ニ設クルモノトス其他前項ニ揭ゲアル溢水管ハ建物ノ外壁ヲ橫斷シ其外面ヨリ十仙米突ノ處ニ於テ地盤ニ達シ共用途ニ設ケアル溝渠ノ上ニ吐カシムルモノトス

第八十七條 汚水流下管ガ單ニ一箇ノ衛生器ニ通ズルトキハ其器具ノ下ニアル「サイフオン」ノ直ク水下ニ於テ此管內ノ通風ヲ施スニ止ムルコトヲ得然ドモ若猶上部ニ於テ他ノ衛生器ガ同一ノ流下管ニ取付ラルヽトキハ第八十四條ニ揭ゲル如ク此管ハ垂直ニ屋根上マデ延長スベキモノトス

第八十八條 便所ノ汚物管及厨房流シ、汚物流シ、噴水水出シ口、手洗所又ハ湯殿ノ汚水管溢水管共石又ハ煉瓦ノ壁中ニ積込ム事ヲ禁ズ、此等ノ管ハ容易

ニ達シ得ベキ樣布設スベキモノトス之等ノ管ニ附屬スル換氣管モ同樣ト心得ベシ

第八十九條 下水ノ支線設置ニ關スル課稅ハ千八百八十一年八月二十五日勅裁同年同月二十日附ノ官令ニ據リ決定ノ上下記ノ如ク之ヲ定ム

下水ノ支管ヲ設クル地籍一件毎ニ左ノ如ク徵取ス

第一　百「フラン」ノ定課稅

第二　其地籍ニ課セラルヽ地租稅額ノ百分ノ五ニ相當スル賦課稅

第三　支管ヲ設置スルニ付キ公道中ニ行フ溝堀ノ面積各一平方米突ニ付一「フラン」一米突以下ノ面積ハ一米突ト算ス此納付金ヲ納ムルコトニ依テ市ハ敷石ノ復舊ヲ爲スモノトス

若シ一箇ノ下水支管ヲ有スル一箇ノ所有地ガ確然數多ノ住居ニ分割サルヽ場合ニハ各新住居一件毎ニ百「フラン」ノ定課稅及從前ノ地租額ノ增加セラルヽ額ニ對シ百分ノ五ノ賦課稅ヲ徵取ス

賦課稅ハ各新規ノ地籍一件ニ於テ徵取セラルヽ地租ニ比例シ分納スルモノトス

此等ノ租稅ハ土地所有者ヨリ市稅徵收ノ諸規則ニ據リ徵收スルモノトス不動產ノ所有權ノ移動ノ場合ニハ其以前ノ所有者ハ其義務ヲ免ルヽコト能ハズ

百「フラン」ノ定課稅ハ新築ノ許可ヲ受ケタルトキ賦課稅及一平方米突ニ付一「フラン」ノ納入金ノ地租稅額決定ノ上之ヲ關係者ニ通知ノ上ハ直ニ納入スベキモノトス

既設ノ下水支管ニシテ千八百四十一年五月二十九日決定ノ賦金ヲ既ニ納付シタルモノハ更ニ本則規定ノ諸稅ヲ納ムルニ及ハズ

第十六章　厠便所及各種ノ衛生器

第一部　水便所及水ヲ使用スル衛生器

第九十條 總テノ住居ハ清潔ニシテ且ツ完全ナル便所ノ設備ヲ要ス本則施行後ニ構造スル便所ハ左記ノ條件ニ合格スベキモノトス

（イ）壁ノ側面少クトモ一箇所ハ外氣ニ接スルコト

（ロ）便所ハ住室及工場又ハ食料品ノ製造並ニ貯藏ニ充ツル所ト直接ニ通スルコトヲ得ズ

（ハ）便所ガ此等ノ場所ノ或一箇所ト隣接スルトキハ其仕切壁ハ床ヨリ天井ニ達スル迄總高サヲ不滲透質ノ材料ヲ以テ構造スベシ

（ニ）便所ノ床ハ平滑ニシテ又相當ニ不滲透質ノモノヲ以テ覆フベシ

（ホ）低キ中庭又ハ其他巾一米五十仙以上ニシテ且面積四平方米突以上ヲ有スル明地ニ於テハ地盤以下ニ便所ヲ設クルコトヲ得此場合ニハ其便所ノ入口ハ其中庭又ハ明地ノ內ニ設クベキモノトス

（ヘ）總テノ便所ハ完全ナル戶締ヲ要ス其外壁ノ內ニハ一箇ノ窓ヲ設ケ少クトモ其硝子面積三十六仙米突平方開閉シ得ル部分十二仙米突平方ヲ有スヘキモノトス

（ト）便所ノ換氣ヲ保證スル相當ノ設備ヲ要ス

第九十一條 總テ水便所ハ平滑ニシテ水

チ吸收セザル物質ヲ以テ底部ニ充分ナル分量ノ水ヲ湛ヘ又其中ニ落ル物ガ周圍ヨリ自由ニ滑落チ直ニ水中ニ入ル樣製セラレタル一箇ノ受器ヲ備フベシ

此受器ハ常時六仙米突以上ノ水張ヲ保チ得ベキ「サイフォン」ノ裝置ヲ備ノベキモノトス

第九十二條 二箇以上ノ便所ガ一本ノ共通ノ汚物流下管ニ接續スルトキハ其各枝管ハ「サイフォン」ノ水ト二於テ其上部ヨリ八仙米突乃至三十四仙米突ノ間ニ流下ノ方向ニ傾ヒ取付タル鉛管ニヨリ換氣ノ設備ヲ爲スベシ此管ハ內徑最少限五仙米突ニシテ內徑同五仙米突以上ノ第二ノ換氣管或ハ「サイフォシ」切斷管ノ上部共同一系統中最高所ニアル便所ヨリ一米突五十仙高キ點ニ於テ汚物流下管ニ吐口ヲ取付アル管ニ接續スベシ

第九十三條 總テノ便所ハ受器洗滌スルニ適當ナルノミナラズ空氣切斷用ノ水ヲ交代セシメ得ル樣ニ入ルヽ固体液体ヲ論セズ迅速ニ且完全ニ流下スル掃溜裝置ヲ備フベシ

此洗溜ニ要スル水ハ家屋內ニ於ケル飲用水配置ノ管ト便所トノ間ニ直接ノ連絡起ラザル如キ狀態ニ於テ供給スルモノトス

數箇ノ小便所ヲ一箇所ニ連續シテ取付ルトキハ其裝置ガ清潔法ニ關シ要スル件ヲ確保スルニ足ル場合ニ限リ一箇ノ通風裝置アル「サイフォン」ノ上ニ之チ流下スルコトヲ許可スルコトアルベシ

第九十四條 現存セル便所ニ模樣替ヲ持サントスルトキハ其持主ハ第九十條ヨリ九十三條迄ニ揭クル命令ヲ遵守スベキモノトス

第九十五條 小便所ハ平滑ニシテ且不滲透質ノ材料ヲ以テ掩ヘ換氣ノ裝置アル「サイフォン」ヲ備ヘ、其絕緣、洗滌及流ト管等ニ付テハ大便所ト同一ノ方法ヲ以テ取扱フベシ

第九十六條 厨房流シ、汚物流シ、噴水水出シ口、手洗所、風呂其他水ヲ使用スル器具ハ總テ便所ニ關シ規定セル規則ニ遵ヒ完全ナル「サイフォン」及掃管ヲ取付且換氣ノ法ヲ施ズベシ

第二ノ換氣管或ハ「サイフォン」切斷管共、內徑三仙米突以下ノ管ヲ使用スベカラズ

第九十七條 新築ノ建物又ハ模樣替ヲ爲シタル建物ハ便所ノ流ト管、衛生器、汚水管及暗渠等ヲ市吏員ニヨッテ檢査チ受ケタル後ニ非サレバ之ニ住居シ又使用スルコトヲ禁ズ

第九十八條 總テ持主及借家人共此等疏通法ノ狀態ヲ檢査スル爲メ臨場スル市吏員ニ便宜ヲ與フベキモノトス

第二部 吸收物ヲ使用スル便所

第九十九條 本則後建設セラルヽ土便所ト稱シ吸收物ヲ使用スル便所ハ附屬家トシ本住居ノ建物ノ外ヨリスルニ非ザレバ達シ得ザル所ノ外設クベカラズ

外壁ノ一面ニ窓ヲ設ケ之ヲ天井迄達セシムベシ其硝子ノ面積ハ少クトモ四十仙米突平方開閉スル部分ハ二十仙米空氣流入ノ爲メ壁又ハ戶ノ下部ニ穴ヲ設クベシ

第百條 總テ此種ノ便所ニハ土又ハ吸收材料ヲ貯フル槽ヲ備ヘ定則トシテ泄

物ニ此等ノ材料ヲ充分ナル分量ニ於テ混和スベキモノトス此槽ハ常ニ天水又ハ家屋ヨリ出ル汚水ニ浸染セザル防備ヲナスベシ

第百一條 土便所又ハ吸收物使用ノ便所ニ於テハ必ズ容積百二十「リットル」以下ノ小桶ヲ座ノ下ニ容レ之ニ排泄物ヲ受ケ次テ其縁ヲ汚サザル樣設備スベシ

此小桶ハ容易ニ達シ得可ク又何時ニテモ取出スコトヲ得ベキモノタルベシ

第百二條 一箇ノ家屋カ又ハ多數ノ寄住所ニ分タルヽトキハ其持主ハ一家族又ハ少クトモ人員十二人ニ就テ一箇所ノ割合ヲ以テ水便所ヲ設クベキモノトス工場ニ於テハ便所ノ割合ハ二十五人ニ付一箇トス

第十章

水ノ供給、井戸、水槽、水溜桝、古井戸浸込桝、糞尿溜、塵芥溜

第百三條 住居ノ目的ヲ以テ建タル總テノ家屋ハ完全ナル設備給水ノ裝置ヲ供フベシ

壓力給水ノ配水ニ於テハ給水栓ニ通ズル配水管ハ直通スルモノトス

飲用水ハ如何ナル種類タルヲ問ハズ水槽ニ溜ムルコトヲ禁ズ

飲用水ハ配水管ト下水ノ支管又ハ之ニ連續スル衛生器　直接アルヲ許サズ

第百四條 廢物ノ位置ノ具合、其公道ヨリノ離隔、勾配其他ノ點ニ於テ不都合アル場合又ハ完全ナル方法ニ於テ公設下水ニ連絡スルヿ能ハザル場合ノ外排泄物疏通ノ爲メ設ケラレタル下水アル地域ニ於テハ屋糞溜ヲ設クルヿヲ得ズ私設下水ヲ糞尿溜ニ連絡シ之ニ汚水ヲ流入セシムルコトハ前項同樣不可能ノ理由アルニアラザレバ之ヲ許サズ

第百五條 總テ尿糞溜ハ出來得ル限リ住居及井戸ヨリ離隔セル場所ニ置クベシ

其溜ハ汲出シ又ハ浚拂スル爲メ容易ニ外部ヨリ到達シ得ベキ樣其位置ヲ撰ミ且其構造ヲ爲スベシ

此爲ニ排泄物及汚水ヲ導ク地中管ニ就テハ第七十七條及第七十九條ニ揭クル命令ヲ遵守スベキモノトス其便所ハ水ヲ使用スルモノニテ地中管中ニ第八十一條ニ準シ一箇ノ「サイフオン」ヲ挾入スルモノトス

糞尿溜ト私設下水管又ハ溢水管トノ連絡ハ第百四條ニ揭クル場合ヲ除クノ外之ヲ連絡スルコトヲ許サズ

第百六條 糞尿溜ハ垂直圓錐形ニテ其底部ハ半球ノ內面ノ如クシ「セメント」「モルタル」ヲ用ヒ石又ハ燒過煉瓦積ヲ以テ構造スベシ其內面ハ「セメント」製ノ膠泥又ハ他ノ不滲透質ノモノヲ塗リ其外面ハ少モ厚二十四仙米突ノ粘土ヲ塗リ又ハ瓦質ノ「コンクリート」ヲ以テ側ノミナラズ其溜ハ底面ヲモ覆フベシ又此溜桝ノ上部ハ迫リ持圓天井トスベシ

其側廻リノハ厚サ煉瓦一枚トシ底ハ一枚半トス

圓形ノ人孔ハ直徑少クモ八十仙米突ニシ石又ハ鑄鐵製ノ蓋ヲ其縁リ石ニ仕合セタルモノヲ以テ密閉スベシ

糞尿溜ハ便所ノ汚水管ヲ其全徑ノ儘延長シ家根上ニ出シ、總テノ窓、家根窓風入窓、住室ノ烟突ヨリ少クトモ二米

突以上離シタル所ニ吐口ヲ設ケタルモノニヨリ大氣トノ連絡ヲ附クルモノトス

排泄物疏通ノ爲メ公設下水ヲ設ケラルベキ町ニ於テハ其両側ニアル建物ニ附屬シテ設ケアル糞尿溜ハ其下水ノ淺工セル年内ニ廢スベキモノトス

第百十條 溜桝又ハ下水ヲ埋メ、廢止シ又ハ取毀ツ前ニ持主ハ全ク其底迄淺ヘ上ルモノトス之ニ就キテハ市參事會又ハ助役ヘ其作業監視ノ爲其着手四十八時間前ニ書面ヲ以テ届出ベキモノトス

糞尿溜又ハ下水ノ取毀チヨリ出デタル材料ハ再ビ他ノ構造ニ利用スルコトヲ得ズ

第百八條 糞尿溜ヲ掃除シ淺ヘ、又ハ修繕スル職工ハ其屋ハルヽ持主又ハ受負人ガ決シテ危險ナキコトヲ確メタル後ニアラザレバ其内ニ入ルベカラズ

何レノ場合ニ於テモ豫備トシテ其内部ニ働ク丈ケノ員數ニ於テ溜ノ外部ニ職工ヲ置クベシ

溜ノ内部ニ働ク職工ハ各自帶テ〆〆之ニ其一端ハ常ニ外部ニアル職工ニヨリ保タルヽ紐又ハ綱ヲ結ビ付クベシ

若シ變災ノ起リタル塲合ニハ直ニ工事ヲ中止シ同日中ニ警察署ヘ其旨届出スベシ市役所ノ許可ヲ得且其命ゼラレタル件ヲ遵守スルニ非ザレバ再ビ着手スベカラズ

第百九條 總テノ肥料置場ハ現在ノ家屋又ハ將來家屋ヲ建ツベキ處又ハ公共ノ建物又ハ商工業ニ利用シ得ル塲所並ニ井戸ヨリ最モ離レタル處ニ設クベシ

第百十條 肥料溜ハ容易ニ達シ得ベキ樣設クベシ其形狀及構造方ハ其上部ノ圓天井ヲ不滲透質ノモノヲ以テ拵ヘタル蓋ニ取換フルコトヲ得レドモ其他ハ總テ第百六條ノ最初ノ二項ニ揭クルトコロニ準據スベシ

第百五條ノ末項モ亦此肥料溜ニ適用ス

第百十一條 定置セル肥料置場ハ地上ニ設クルコトヲ得

之等ハ「コンクリート」又ハ石、煉瓦等ヲ以テ拵ヘ内部ヲ「セメント、モルタル」ヲ以テ塗ルベシ、底ハ成ルベク「コンクリート」ヲ可トス

之等ハ不滲透質物ノ蓋ヲ備フベシ

總テノ肥料溜ハ通氣ノ爲メ内徑十五仙米突ノ喞拔ノ管ヲ備ヘ沂隣ノ迷惑トナラザル樣屋根上ヘ其吐口ヲ出スベシ

第百十二條 井戸ハ通稱井戸煉瓦ト稱スル異形煉瓦ヲ以テ構造シ其煉瓦積ハ厚八仙米以上ノ塹又ハ撫ノ木ヲ以テ製リタル臺輪又ハ二十五密米突以上ノ厚アル鑄鐵製ノ環ノ上ニ据ユルモノトス

第百十三條 井戸ヲ掘ル時ハ其持主ハ其側ノ外圍ヨリ土迄ハ二十五仙米突以上其假枠迄ハ十仙米突以上ノ空虛ヲ殘ス事ヲ得ズ又此假枠ト土トノ間ニハ藁ヲ詰メ込ムベシ

第百十四條 井戸側、水溜又ハ肥料、塵芥其他ノ溜桝ノ壁ハ家屋ノ基礎ヲ構成スル壁ヨリ少クトモ十仙米突ノ空虛ヲ存シ獨立離隔セシムルモノトス

石又ハ煉瓦造ノ水溜ノ壁及底ハ二十八仙米突以上ノ厚ヲ有シ其内部ハ「セメント」又ハ他ノ不滲透質ノ物質ヲ塗ルベシ其角ハ何レモ丸形ニスルモノトス

第百十五條 井戸、水溜又ハ其他ノ溜桝トノ間ニハ二米突以上ノ距離ヲ存スルモノトス

第百十六條　總テノ井戸・水溜ノ上ハ口ハ石蓋又ハ鑄鐵ノ蓋ヲ以テ閉ツルモノトス然トモ中庭、庭園又ハ住居ニアラザル場所ヲ堀リタルモノニハ之ヲ開ケ置クコトヲ得此場合ニハ高サ一米突以上アル人除ケノ爲ニスル厚二十八仙米突以上ノ煉化壁、厚十仙米突以上ノ花崗石板、又ハ之ニ匹敵スル金屬製ノ側ヲ以テ之ヲ圍繞シ置クベシ

第百十七條　埋込井戸、埋込ノ水溜吸込桝等ヲ設クルコトハ其含蓄スル物質ノ何タルヲ問ハズ之ヲ嚴禁ス

第十八章　厩　豬

第百十八條　馬牛、羊、豚其他ノ家畜ヲ飼養スル爲メノ附屬家ハ下記ノ狀態ニ合格スベキモノトス

此等ハ家屋ノ住室又ハ穀秣ヲ貯フル小屋ト直通スベカラズ少クモ之等ハ明キ間ナキ壁又ハ球形ノ迫リ持又ハ絕緣性ニシテ且不燃質ナル塗リ壁ヲ以テ遮斷スルモノトス

其容積ハ馬及中ニハ一頭ニ付六立方米突、羊、豚ニハ六立方米突以上タルベシ

此等ノ畜舍ハ相當ニ光線及空氣ヲ通ルノミナラズ其家屋ハ住居スル者及至隣ノ者ニ迷惑トナラサル樣常時換有效ナル換氣ノ裝置ヲ備フベシ

其床ハ下水溝ノ方向ニ傾斜ヲ付ケ水ヲ吸收セザル堅密ナルモノヲ以テ敷設スベシ

第十九章　崩壞ニ近キ構造物

第百十九條　或建物、外構壁其他總テ公道ニ接スル構造物ガ崩壞ニ近キ時ハ市長ハ警部又ハ巡査ト共ニ一人ノ建物監視ノ任ニアル吏員ヲ派シ其狀態ヲ調査セシムル其關係吏員ハ其箇所ニ關シ上申書ヲ提出シ市長ハ之ニ據テ即時持主ニ注意ヲ與フルモノトス

第百二十條　若シ危險ニ瀕スルトキハ市長ハ持主ニ遲滯ナク其崩壞ニ近キ建物ヲ取毀ツコトヲ命ス

此命令ノ履行ヲ拒絕シ又ハ**遲滯**スルトキハ持主ノ費用ニ於テ市長其構造物ノ修繕或ハ取毀ヲ爲サシムルモノトス

若シ危險ノ度ガ即時履行ヲ要セザルトキハ其**場所**ノ狀態並ニ其ヲ或一定ノ期間內ニ取毀ヲ修繕シ又ハ支持法ヲ施スベキ命令トヲ通告スルモノトス

此工事ヲ命令ニ依リ定メラレタル期間內ニ着手竣工セシメザル持主ハ法廷ノ判決ニ付セラルベシ

持主不在ノ場合ニハ其修繕及取毀ヲノ工事ハ其者ノ費用ニ於テ市長ノ命令ニ依リ市ニ於テ之ヲ施ス

第百二十一條　下ニ揭グル場合ニハ何レモ其建物、外構壁、又ハ總テ公道ニ接スル構造物ニ取毀ツベキモノトス

一、基礎ノ缺點アルトキ

二、一箇所タリトモ窓間ノ壁二箇ノ接近セル入口ノ間ニ挾マル壁脚又ハ迫リ持受ノ壁脚ガ不完全ナル狀態ニアル時

三、第二項ニ揭クル所ノミノガ如何ナル狀態ニアルヲ論セズ外壁ガ其厚サノ半以上倒レ居ルトキ

四、外壁ガ深キ龜裂ノ有ルトキ

五、外壁ノ挾レ即チ上部ノ或ル床ガ後部ニ引ケ公道ニ反對ノ側其丈ノ突出ヲ生ジタルトキ

六、外壁ノ下部ノ朶ミ出シタルトキ

七、右ノ外總テ建物又ハ外構壁ヲ問ハズ朽廢構造ノ不良、維持ノ不完全

其他ノ原因ニヨリ崩壊ノ恐アルモノ

第二十章　罰則——違反

第百二十二條　本規則ノ規定ニ違反ノ廉ハ當該警察官ノ報告及上申書又ハ其他總テ法定ノ手續ニヨリ調査シ同時ニ其持主或ハ借家人、建築技師、受負者若ハ工世話役其他工事實行ノ指揮者ヲ責任者トス

其違反ノ廉ニ就テハ市參事會ニヨッテ決定セラルベキ工事中止ノ外違警罪トシテ處罰セラルベシ

第二十三條　前條ニ掲ケル罰則ノ外場合ニヨリ裁判所ハ公共ノ爲又ハ內務省市役所、人民タルヲ問ハズ其要求ニ依リ違反者ノ費用ヲ以テ違反ノ工事ヲ施シタル場所ヲ除却又ハ取毀ヲ其原狀態ニ復舊スルコトヲ命ズ

第二十一章　最後ノ規定

第二十四條　本規則ニ反スル總テノ規定殊ニ千八百八十三年一月八日及千八百八十五年十月五日議決ノ規定ハ之ヲ廢ス

右千九百六年四月二日ノ會議ニ於テ決ス

議員
エミール、ド、モー

書記
アドエルシヨーヴエル

●第三集　第七号　掲載広告一覧（掲載順）

浅海商店
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
葛野建築事務所
渡辺建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
宗建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
加藤工業事務所
国枝工務所

池田勘蔵
大倉土木組大阪出張所
橋本料左衛門
大林組
竹中工務店
長瀬兵馬
山本鑑之進工務所
山中建築部
山本組
鴻池組
松村組
小西組
安藤組大阪出張所
清水組大阪支店
木村組
清水工務店
銭高組

山縣組
熊取谷熊次郎
河村青写真調製所
矢橋商店
長宗吉太郎
濱恒次郎本店
青木化学製油所
日本建築協会
山本窯業商店
内外土木建築材料
新田ベニヤ製造所
東京電気
東洋工業社
砂崎
東洋コンブレッソル大阪出張所
日本コルク
コルク工業

村井工業所
野沢幸三郎商店
山本コンベス商会
大野正営業所
栄進社
日本石綿盤製造
須賀商会
有田製陶所
宇野沢組スティンド硝子製作所
東京建鉄大阪支店
川崎工場
北木島石材大阪出張所
萩原煖房工務所
高田商会銀座販売店
日本スレートアスファールト工業
日本建築紙工
銀座建築用品店
共同建材製作所
浅野スレート大阪出張所

裳華房
横河橋梁製作所
松尾和助本店
大阪鉄筋混凝土工務所
高田商会
大阪窯業
日本エレベーター製造
明正社